

令和元年度
しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
事業報告書

令和2年3月31日

沖縄県立芸術大学
附属研究所

令和元年度

しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
事業報告書

令和2年3月31日

沖縄県立芸術大学 附属研究所

発刊にあたって

沖縄県は平成25年度に「しまくとぅば普及計画」を策定しました。そのなかで「県内各地域において受け継がれてきた『しまくとぅば』は、地域の伝統行事等で使用される大切な言葉であるとともに、組踊や琉球舞踊、沖縄芝居等といった沖縄文化の基層であり、いわば沖縄県民のアイデンティティの拠り所でもある」と説明しています。

沖縄県立芸術大学附属研究所では、世界に一つしかない琉球芸能・文化を学ぶ学科、本学琉球芸能専攻と共同して平成28年度から2年間にわたって「しまくとぅばプロジェクト」、そして平成30年度から「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」を展開してきました。これはまさに沖縄県の掲げる「しまくとぅば普及計画」と同じ考え方に則っており、さらに付け加えるのであれば、いまだ県内で完全に果たせていない「教育現場におけるしまくとぅばの導入」も視野に入れた事業です。

本年度は沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の実技科目「琉球舞踊実技」を2科目、そして「組踊実技」の3科目において、前期・後期の合計30コマの授業に「しまくとぅば」の特別講師を招き、舞踊や組踊などの教授に「しまくとぅば」を用いた講義を行いました。また、座学の「琉球語I」の講義にも上述の特別講師を招き、実技の授業では取り上げなかった芸談等を「しまくとぅば」で語っていただく事によって、実技教育と語学教育の連携を試みました。

そして本年度の事業では、ハワイにおけるハワイ語復興・教育や、約20年に及ぶ「しまくとぅば」関連講義の実践などの報告と、本学の実践授業についてシンポジウムを開催しました。多くの来場者やご意見を頂戴し、本事業やしまくとぅばについての関心が高まっていることを実感しております。今後も実践結果が今後の沖縄県内外におけるしまくとぅば教育と普及のモデル事業となっていくことを願っております。

2020年3月

沖縄県立芸術大学 附属研究所

所長 波平 八郎

令和元年度 しまくとぅば実践教育プログラム開発事業 事業報告書 目次

附属研究所所長挨拶

目次

しまくとぅば実践教育プログラム開発事業 事業報告書

1 はじめに	1
2 実施概要	2
3 実践教育プログラムについて	5
3-1 舞踊実技(比嘉)	5
3-2 舞踊実技(高嶺)	11
3-3 組踊実技(阿嘉)	17
3-4 学生による授業評価アンケート	20
3-4-1 学生アンケート結果(令和元年度・前期)	20
3-4-2 学生アンケート結果(令和元年度・後期)	21
3-5 「琉球語」関連授業の取り組み	23
4 East-West Center 研修	26
4-1 研修概要	26
4-2 研修内容報告	27
5 シンポジウム「〴〵シマ、のことは教育の未来～ olelo Hawaii・しまくとぅば～」	33
5-1 「〴〵シマ、のことは教育の未来～ olelo Hawaii・しまくとぅば～」概要	33
5-2 仲原 穰	34
沖縄県内の大学における「しまくとぅば教育」の現状と提言	
5-3 Keiki Kawai'ae'a	35
Intergenerational Transmission of Hawaiian Culture and Education of Hawaiian Language	
5-4 大原 由美子	37
大学におけるハワイ語教育:ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部による実践	
5-5 聖田 京子	40
ハワイにおける「うちなーぐち」の教育について	
5-6 アンケート結果	47
6 「誇らしゃ しまくとぅば」講演会概要	53
6-1 第5回講演会チラシ・アンケート結果	53
6-2 第6回講演会チラシ・アンケート結果	60
7 第3回・第4回「誇らしゃ しまくとぅば」講演会講演録	66
7-1 第3回講話テープ起こし	66
7-2 第4回講話テープ起こし	86
8 事業報告会	102
8-1 事業報告会概要	102
8-2 高良 則子	102
読んで聴いて身につけるしまくとぅばー英語多読指導からの提案ー	
8-3 仲原 穰	104
読んで聴いて身につける「しまくとぅば」のすすめー琉球語の音読教材の活用ー	
8-4 アンケート結果	108
9 資料(当事業の新聞掲載、令和元年度のしまくとぅば事業関連資料など)	
9-1 新聞掲載記事	110
9-2 令和元年度しまくとぅば実践授業録画日一覧	112

しまくとぅば実践教育プログラム開発事業 事業報告書

1 はじめに

「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」は、平成28年度より行われた「ハワイ大学等交流事業」の中の「しまくとぅばプロジェクト」で発足し、平成29年度には「ハワイ大学等交流事業 しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」と名称を変え、昨年度から「ハワイ大学等交流事業」という名称を外した現名称で活動を行ってきた。内容はこれまでと変わらず、しまくとぅば実践教育とその方法、教材研究、そして普及活動という事業内容である。本年度は平成29年度から行ってきた授業実践のデータをもとに、しまくとぅばを実践的に講義へ導入する方法を検討し、これまで比嘉いずみ准教授が担当していた琉球舞踊の講義を増やし、あらたに高嶺久枝教授が研究会に参加し、講義を担当いただいた。

また、今年度はこれまでの「ハワイ大学等交流事業」で学んだ成果を県民に周知すべく、「シマのことうば教育の未来」と題してハワイ大学（ヒロ校・マノア校）から言語教育の中心的研究者を招聘してシンポジウムを開催した。詳細は第5章を参照いただきたい。

そして、今年度は平成28年度からこれまで沖縄県立芸術大学とハワイ大学などで交流を行ってきた本事業の現状などを、ハワイ東西センターにおいて鈴木が報告を行った。研究調査活動として、ハワイ大学ヒロ校への言語教育の先進教育の調査を実施した。この内容は第4章で詳述する。

上記の事業を行った今年度の「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育研究会（以下「研究会」）」のメンバーは以下の通りである。

鈴木耕太（附属研究所：事業代表者）

高良則子（全学教育センター）

麻生伸一（全学教育センター）

仲嶺伸吾（音楽学部琉球芸能専攻）

高嶺久枝（音楽学部琉球芸能専攻）

比嘉いずみ（音楽学部琉球芸能専攻）

阿嘉修（音楽学部琉球芸能専攻）

波照間永吉（沖縄県立芸術大学名誉教授）

西岡敏（沖縄国際大学教授、沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）

仲原穰（県立芸大非常勤講師、沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）

令和元年度は毎月2回の研究会を開催し、附属研究所の鈴木を中心にして、音楽学部琉球芸能専攻でのしまくとぅばによる授業実践を4月から翌年1月までの通年で行うために、外部専門家、全学教育センターとともに、指導法やカリキュラムなどについて研究し、実践した。実践授業の内容および本事業の報告の詳細はそれぞれ別項をご参照いただきたい。

令和元年度の「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」の事業計画は以下の通りであった。

1. しまくとぅば実践教育プログラム開発研究会（毎月2回開催）。[担当：全員]
2. 前期3科目・後期3科目の実践教育を行う。[授業実施担当：高嶺・比嘉・阿嘉]
3. 「琉球語I」へゲストスピーカーを招き、「実践教育プログラム」との連携を図る。[担当：仲原]
4. しまくとぅば講演会（第5回：7月・第6回：11月）。[担当：全員]
5. 実践教育におけるしまくとぅばキーワードの蒐集（データの集積および編集）
6. ハワイ東西センターでの事業紹介（6月。発足からこれまでのしまくとぅば事業の紹介）。[担当：鈴木]
7. ハワイ語としまくとぅばのシンポジウムを開催（9月）。[担当：全員]
8. 「琉球舞踊実技」における副教材の研究開発（継続）。
9. 授業における教員—学生間の会話事例集の作成および刊行（継続）。
10. 事業報告会の実施（令和2年2月16日）。

本事業は沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻という教育現場に「しまくとぅば」を導入し、教育実践することで、琉球芸能を教授するときにおいて、「しまくとぅば」でしか表現出来ない独特の「わざ」や表現を学習させ、学生の表現力や作品理解力などを総合的に高めようというねらいから行われた事業である。

本年度の事業成果については、各章に詳細を掲載した。次年度以降も「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」は継続する。本年度の結果を踏まえ、よりよい教育プログラムを作成し、琉球芸能における「しまくとぅば」の用語を充実させていきたい。

2 実施概要

令和元年度、しまくとぅば実践教育プログラム研究会では毎月2回の定例研究会において以下のような内容などについて検討し、実施した。

まず、平成30年度からの変更点は、「地謡実技」において、担当教員の仲嶺教授から三線に関わるしまくとぅばの指導が難しいことと安富祖流以外での実践を行ってみてはどうか、という意見を受け、研究会では「地謡実技」において行われていたしまくとぅばの指導は継続しつつ、特別講師を参加させての講義を「舞踊実技」に変更した。よってこれまで継続してきた「舞踊実技(比嘉准教授)」「組踊実技(阿嘉准教授)」の2科目に加えて新たに「舞踊実技(高嶺教授)」を加えた3科目を実施することとした。

実践教育プログラムの方法はこれまで同様、しまくとぅばで芸能を教わってきた先達を「特別講師」として招聘し、沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の教員が技術を指導する講義において、芸能を指導する際に用いられる用語や、衣裳・小道具・楽器などの名称など、芸能に関わる用語を講義の中で「特別講師」に語ってもらい、教員と学生が学ぶ、という教授方法である。

授業を担当する教員にそれぞれの授業を担当する「特別講師」を選定してもらい、研究会の承認を経て、「特別講師」の先生方へ事業内容を説明し、4月から通年で授業実践を担当する特別講師が決まった。特別講師は「舞踊実技(高嶺)」が島袋光晴先生と金城光子先生、「舞踊実技(比嘉)」が宮城幸子先生、「組踊実技」が金城清一先生に依頼した。各特別講師の先生方のプロフィール等は、次の授業実践の報告で詳述する。

そして毎年行っている「しまくとぅば講演会」の企画内容についても研究会で議論し、実施した。講演会は昨年度同様、しまくとぅばのみで芸能を語る、という企画である。今年度は前年度までの4回の企画に続き、令和元年7月12日の第5回講演会には、沖縄県指定無形文化財「琉球歌劇」保持者の仲里松子氏に、11月8日の第6回講演会には、沖縄県指定無形文化財「琉球歌劇」保持者で劇団「綾船」座長の平良進氏に登壇を依頼した。

研究会では『琉球芸能用語事典(仮)』を作成するために「琉球芸能用語事典部会(以下、部会とする)」を発足させた。担当者は西岡を部会長とし、鈴木・波照間・仲原・仲嶺・比嘉・阿嘉の7名である。

部会では、実践授業で出たしまくとぅばのキーワードを蒐集するとともに、文献などから琉球芸能の用語を蒐集し、本事業の最終年度(令和4年を予定)に『琉球芸能用語事典(仮)』を刊行する事を目標としている。今年度は前述のキーワードの蒐集及び、実践授業における副教材の開発、施設名のしまくとぅば表記、授業におけるしまくとぅばでの応答語の研究開発を行った。

今年度はしまくとぅば実践教育科目と、一般教育科目である「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」をカリキュラムとして連携させるため、琉球舞踊の特別講師である島袋光晴先生を「琉球語Ⅰ」(7月11日実施)に登壇いただいた。

今年度の実施事項は以下の通りである。時系列で示した。

平成31年

- 4月4日 第1回しまくとぅば実践教育研究会
- 4月8日 授業録画(舞踊実技I:比嘉)
- 4月16日 授業録画(舞踊実技I:比嘉)
- 4月17日 第2回しまくとぅば実践教育研究会
- 4月22日 授業録画(舞踊実技I:比嘉)

令和元年

- 5月6日 授業録画(舞踊実技I:比嘉)
- 5月13日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)
- 5月14日 第3回しまくとぅば実践教育研究会
- 5月17日 授業録画(琉球舞踊組踊研究I)
- 5月20日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)
- 5月22日 授業録画(組踊実技V・組踊実技VII)
- 5月23日 しまくとぅばシンポジウム部会
- 5月24日 授業録画(琉球舞踊組踊研究I)
- 5月27日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)
- 5月28日 第4回しまくとぅば実践教育研究会
- 5月29日 授業録画(組踊実技V・組踊実技VII)
- 5月31日 授業録画(琉球舞踊組踊研究I)
- 6月3日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)
- 6月5日 授業録画(組踊実技V・組踊実技VII)
- 6月7日 授業録画(琉球舞踊組踊研究I)
- 6月10日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)
- 6月11日 第5回しまくとぅば実践教育研究会
- 6月14日 授業録画(琉球舞踊組踊研究I)
- 6月17日 授業録画(舞踊実技I:高嶺)
- 6月19日 授業録画(組踊実技V)
- 6月24日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)
- 6月25日 第6回しまくとぅば実践教育研究会
- 6月26日 授業録画(組踊実技V・組踊実技VII)
- 6月28日 授業録画(琉球舞踊組踊研究I)
- 7月1日 授業録画(舞踊実技I:高嶺)
- 7月3日 授業録画(組踊実技V・組踊実技VII・舞踊実技I:比嘉)
- 7月8日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)
- 7月9日 第7回しまくとぅば実践教育研究会
- 7月3日 授業録画(組踊実技V・組踊実技VII)
- 7月11日 「琉球語I」特別授業(講師:島袋光晴)
- 7月12日 第5回しまくとぅば講演会(講師:仲里松子、聞き手:具志幸大)
- 7月17日 授業録画(組踊実技V・組踊実技VII・舞踊実技I:比嘉)
- 7月19日 授業録画(琉球舞踊組踊研究I)
- 7月22日 授業録画(舞踊実技I:比嘉)
- 7月23日 第8回しまくとぅば実践教育研究会
- 7月25日 仲里氏と具志氏へ講演会のお礼状を送付
- 7月29日 授業録画(舞踊実技I:比嘉・舞踊実技I:高嶺)

- 8月8日 第9回しまくとぅば実践教育研究会
- 8月27日 第10回しまくとぅば実践教育研究会
- 9月9日 第11回しまくとぅば実践教育研究会
- 9月10日 シンポジウム「しま、のことば教育の未来～ olelo Hawaii・しまくとぅば」
- 9月24日 第12回しまくとぅば実践教育研究会
- 10月3日 平良進氏へ講師依頼文を送付
- 10月21日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 10月24日 第13回しまくとぅば実践教育研究会
- 10月28日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 11月6日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 11月7日 第14回しまくとぅば実践教育研究会
- 11月8日 第6回しまくとぅば講演会(講師:平良進)
- 11月10日 平良氏へ講演会のお礼状を送付
- 11月18日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 11月21日 第15回しまくとぅば実践教育研究会
- 11月25日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 12月2日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 12月5日 第16回しまくとぅば実践教育研究会
- 12月6日 授業録画(琉球舞踊組踊研究Ⅰ・舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 12月9日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 12月11日 授業録画(組踊実技Ⅵ)
- 12月18日 授業録画(組踊実技Ⅵ)
- 12月23日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 12月24日 第17回しまくとぅば実践教育研究会

令和2年

- 1月6日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 1月8日 授業録画(琉球舞踊組踊研究Ⅰ・舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 1月9日 第18回しまくとぅば実践教育研究会
- 1月10日 授業録画(琉球舞踊組踊研究Ⅰ)
- 1月15日 授業録画(組踊実技Ⅵ)
- 1月17日 授業録画(琉球舞踊組踊研究Ⅰ)
- 1月20日 第19回しまくとぅば実践教育研究会
- 1月20日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 1月24日 授業録画(琉球舞踊組踊研究Ⅰ)
- 1月27日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 2月6日 授業録画(舞踊実技Ⅱ:比嘉)
- 2月13日 第20回しまくとぅば実践教育研究会
- 2月16日 令和元年度 事業報告会及びワークショップ
- 2月21日 第21回しまくとぅば実践教育研究会
- 2月21日 宮城氏と金城氏へ報告会のお礼状を送付
- 3月6日 報告書原稿を入稿
- 3月11日 第22回しまくとぅば実践教育研究会
- 3月25日 第23回しまくとぅば実践教育研究会
- 3月31日 報告書納品

3 実践教育プログラムについて

3-1 舞踊実技 (比嘉)

実践授業1：琉球舞踊実技I、II (担当者：比嘉いずみ)

授業期間 前期：平成31年4月8日～令和元年7月29日

後期：令和2年1月8日～令和2年2月3日

授業回数 前期：15回 後期：13回

対象学年及び受講人数 前期：学部1年次(2名)

後期：学部1年次(2名)

特別講師について

宮城幸子(みやぎ ゆきこ) 85歳 / 「真踊流佳幸の会 会主」

宮城幸子先生は、昭和26年に琉球舞踊真踊流家元の眞境名佳子師に入門され(芸歴68年)、昭和26年に沖縄タイムス芸術選奨大賞を受賞し、平成8年には沖縄県指定無形文化財沖縄伝統舞踊技能保持者に認定された。また平成15年に沖縄県文化功労賞を受賞し、平成21年には国指定重要無形文化財保持者に認定された。令和元年11月には、沖縄県功労者として表彰され、現在も琉球舞踊実演家として活躍される一方、伝統芸能の後継者育成にも尽力されている。

また、眞境名佳子師匠からはしまくとうばでの舞踊指導を受けており、当時の指導法を体得し、伝授できる重鎮な舞踊家の一人である。

しまくとうばキーワード

しまくとうば	意味
ウッチャカレー	寄りかかる
シチャワタンカイ アギイッティ イーチ ヌチュン	下腹にあぎをいれて息を抜く
ヒサ クマンガートウー アッチュン	足を組まないで歩く
シチャワタンカイ ネーチリ イリレー	下腹にあぎを入れて
スリケーラングトゥ メーンカイ ウッチャカレー	振り返らず前に寄りかかる
ナークーテン メーンカイ ウッチャカレー	もう少し前に寄りかかる
ドーテーシー ウッチャカレー	胴体で寄りかかる
ヤファッテングアー ヒサ ンジャスン	柔らかく足を出す
イチ ヌチュシトウマジユン ネーチリ イリレー	上半身の息を抜くと同時に下半身にため込む
クシ ユルミレー	腰をゆるめる
ウッチャカイガチ ヤファッテングアー ヒサ ンジャスン	前に寄りかかりながら足を出す
マチジカラ チビヌミーマデ テーチ	頂上(頭)から尻の穴まで一つ
ドゥーテーサーニー ヒツパッティ イチュン	胴体で引っ張っていく
ヒサヌ ンジャシヤッサル トウクルヌアイン	足が出しやすいところがある
アッチュルウツピシ モーイナテー ナランドー	歩くだけでも、踊りになっただけでいなくてはならない
イチ ヌチュシトウマジユン シタハランカイ アギイリレー	息を抜くのと同時に、下腹にあげを入れる
メーンカイ ウッチャカティ クシ ミグラサーニ ヌチュルウツピ	前に寄りかかって、腰をまわして息を抜くだけ
ドゥーテーシ アッチュンドー	胴体で歩む
アゴ ヒチーネー アッキ ヤッサルハジ	顎を引くと歩きやすいはず
ヒサヌハバヤ コブシ テーチ アキユン	足の幅は拳一つ開ける
ハニーネー ヤファッテングアー	足をはねるときは、柔らかく

しまくとぅば	意味
クシ ミグラチ ヌジャーニ メンカイ ウッチャカレ	腰を回して、抜いて前に寄りかかる
ヌバングートゥー メンカイ ウッチャカレ	伸びないで前に寄りかかる
ヒサトウ ヒサヌ アイダー コブシ ティーチ アキユン	足と足の間は、拳一つ分間隔をあける
サンシンヌ チル フミヨー	三線の弦を踏みなさい
クシ ミグラサーニ ウヌママ ウッチャカレ	腰を回して、そのまま前に寄りかかる
ティーヤ メンカイ ムッチチェー ナラン	手は前に持ってきてはいけない
ウチャガテェーナラン メンカイ ウッチャカレ	振り返ってはいけない、前に寄りかかりなさい
ネーリチ イリレー	あげを入れなさい
ウウドイヌ ジクヤ シチャワタ	踊りの軸は下腹
ヒサヌ アイダー コブシ ティーチ アキユンドー	足の間は、拳一つ分開けなさい
ヌーベサン ウチャカイル ウッピ	伸びないで寄りかかるだけ
ディーテーシ ヒサ ヒツパティ イチュン	胴体で足を引っ張る
チカラ イリラングウトウ ヤファツテングアー ヒサ ンジャセー	力を入れないで、柔らかく足を出しなさい
サンシンヌ ユイン チキヨー	三線の余韻も聞きなさい
ディーテーシ ウッチャカレ	身体全体で寄りかかる
ネーチリ イリーヨー	下腹にあげを入れなさい
メンカイ ウッチャカル ウッピ	前に寄りかかるだけ
ナーケーテングワー イーチ ヌケー	もう少し息を抜きなさい
ヨンナー ヨンナー ヒサ ヒツパッティ イチュン	ゆっくりゆっくり足を引いていく
クシ イシヤーニ ウヌママ メンカイ ウッチャカレ	腰を据えたらそのまま前に寄りかかる
ツケネカラ ヌジャーニー メンカイ ウッチャカイル ウッピ	足のつけ根から力を抜いて、そのまま寄りかかるだけ
マルヌベー サン	全部(あげ入れ)は伸びない
ウッチャカイル ウッピ	寄りかかるだけ
メーホーヤー ナラングートゥー ウッチャカイルウッピ	前にたおれすぎず、寄りかかるだけ
ンジャシヤッサル トウクルヌ アルハジ	出しやすい所があるはず
クシ イシヤーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を据えたら前に寄りかかるだけ
ヒサヌ ツイキニ ユルミヤーニ ヒサ ウジスン	足の付け根を緩め、足を出す
ドゥーテーシ ヒツパッティ イチュン	胴体で足を引っ張っていく
ムチツテングワー	餅のように柔らかくのびやかに?!
ヒサバカー アッカサングートゥー	足だけを歩かさないように
スリケーラングトウ ウッチャカイドウスンドー	振り返らないで前に寄りかかりなさい。
ウチャガテェーナラン	振り返ってはいけない
ヌジュル ウッピ	抜くだけ
マルヌベー サン ウッチャカルウッピ	全体を伸ばさず、前に寄りかかるだけ
クシ ミグラサーニ ウッチャカル ウッピ	腰を回したら、寄りかかるだけ
ミグイネー マルヌゲーサングトウ メンカイ ウッチャカレ	回転した後は、ため込んだ部分をすべて伸ばさず、前に寄る
ジクヤ シチャワタンカイ	軸は下腹
ミグイネー イチ ヌチュル ウッピ	回る時は息を抜くだけ
ヒサ クマングートゥー メンカイ ンジャセー	足を交差せず、まっすぐ前に出す
ヒツチャティヤーニ ウッチャカル ウッピ	腰を引き上げたら前に寄りかかるだけ

しまくとぅば	意味
ヒサビケー アッカサングートウ ドゥーテーサーニ ニ ヒツパッティ イチュン	足だけで歩くのではなく、胴体で引っ張っていく
ミグイルートウチネー ウフェー ガマク チカレー	回る時は、少しガマクを使いなさい
ヤーヌ ハーヤーヌグトウ シン タティレー	家の柱のように、体に芯を立てなさい
イナグウドウイヤ イリミシドウ アッチュン	女踊りは良い身で歩く
ドゥーテェーサーニ ウビーリヨー	身体で体得しなさい
シングァーヤ カネードー	身体の芯は要である
アタマヌ マチジカラ チビヌミーマディ ティーチ	頭の頂上から尻の穴まで一つ
クシ イシヤーニ ヌチュル ウッピ	腰を据えたら、あとは抜くだけ
シチャワタンカイ アギイリヤーニ ウヌママ ウッ チャカレー	下腹にあげを入れて、そのまま寄りかかるだけ
チュイチ ヌチュン	息抜きなさい
ウヌマーマー イシヤーニ ウッチャカイル ウッピ	そのまま腰を据えたら、前に寄りかかるだけ
イチ ヌチュシ マジュン シャワタンカイ ネーチ リイリレー	息を抜くのと同時に、下腹にそのまま寄りかかる だけ
クシンカイ タマティ ウヌマーマー ウッチャカ レー	腰にため込み、そのまま前に寄りかかりなさい
シチャワタンカイ アギー イリレー	下腹にあげを入れなさい
ヒサヤ ドゥーテェーシドウ ソーティ イチュン ドー	足は胴体で引き連れていくようにしなさい
ヒサバカー アッカサングートウ ドゥーテェーシ ヒツパッティ イチュン	足だけで歩くのではなく、胴体で引っ張っていく ようにしなさい
アユミヌナレー モーイン チュラサン	歩みが出来ると踊りも美しい
ヤファッテングァー ヒサ ハニーヨー	柔らかく足を跳ねなさい
モーイヤー リクチェーアラン ドゥーテェーサーニ ウビーリヨー	踊りは理屈ではなく、体で覚えなさい
ナガリールグトウ シゼンタイシ モーレー	流れるように自然体で踊りなさい
ハニーネー チカラ イリラングート アッケー	足先を跳ねるときは力を入れず、歩きなさい
マチジカラ チビヌミーマディ ティーチ	頭の頂点からお尻の穴までひとつの線で結ぶ
メーホーヤー ナラングトウー ウッチャカレー	前に倒れすぎず、寄りかかるだけ
ユルミグァー イリーヨー	緩みを入れなさい
アユミトウ ジクヌナレー ウドイン ナトーサ	歩みと身体の軸が出来れば、踊りもできている
ウシルシガタ ビケージ ウドイナラトーナラン	後ろ姿だけで、踊りになっただけではならない
クシ ミグラチ ヒッタティヤーニ ヌジュル ウッピ	腰を回し、下腹をたたみ込んだら、息と共に抜く だけ
クシミグラサーニ メーンカイ ヒツパッティ イチュン	腰を回したら前に足を引っ張っていく
ドーナ ジクヤ カナミドー	身体の軸は要である
ヒサヌ チキニ ヌルミーネー アッキヤツサル ハ ジドー	足の付け根を緩めると、歩きやすくなるはず
メーホーヤ ナラングートウ	前に倒れすぎないように
ユイン チキヨー	三線の余韻も聞きなさい
クシミグラサーニ ウッチャカイル ウッピ	腰を回したら、前に寄りかかるだけ
ヒッタティル トウチヤ マルヌベーサン	腰を引き上げるときは、全部伸びきらない
ユルッテングァーシ チカラ ヌキヨー	ゆったりして、力を抜きなさい
アギイリユン トウ ネーチリイリユン ヤ ティー チャサ	あげを入れると、たたみ込む(着物の裾上げのよ うに)は同じ意味で

しまくとぅば	意味
クシ イシール トウチニ ヒサヌ ンジャシヤツサル トウクルヌ アイルハジ	腰を据える時、足が出やすい位置があるはず
チブルヤ ウチャガラングウトウ メーンカイ ウツチャカレー	頭は倒れすぎず前に寄りかかりなさい
マチジカラ チビヌミー マデイ ティーチ	頭の真上から尻の穴まで一つの線で結ぶ
ヤーヌ ハーヤートウ マジュン シンヤ カナミドー	線の弦を踏むように歩き、余韻も使いながら歩く
クシミグラサーニ イシティ ウヌマーマ ウツチャカレー	腰を回し据えて、そのまま前に寄りかかりなさい
ヒサヌワサーニ ユカ シツティ アツチュン	足の腹(裏)で、床をするように歩く
イチ ヌジ メーンカイ ウツチャカレー	息を抜いて、前に寄りかかりなさい
チキニンカイ ユルミグアー イリレー	足の付け根に、緩みを入れなさい
ヒサ マゲェーシェーアラン クシ イリレー	足を曲げるのではなく腰を入れなさい
ヘソヌ シャカンカイ ネーチリ ウリユン	へその下に、上げを入れなさい
ヤーヌハーヤートウ イヌグトウ クシヤ カナミドー	家の柱と同じく、腰は要である
ハニーネー チカラヌジ ヤファッテングワアー ンジャセー	足を跳ねるときは、力を抜いて、柔らかく足を出しなさい
ミグイルトウチュー クシ ミグラサーニ ウルサガチー メーンカイ アツチュン	回転の時は、腰を回し、下ろしながら前に歩む
ミジチン テーシチドー	目付(目の表情)も大切である
イチ ヌジュシトマジュン シチャワタンカイ アギイリレー	息を抜くのと同時に、下腹にあげを入れなさい
クシ ミグラサーニ ヒサ ヌジュル	腰を回したら、足を抜く
クシ ミグラチアトウヤ ヌベーサングトウ ウツチャカイルドスンドー	腰を回した後は、上に伸びるのではなく、前に寄りかかりなさい
ハニーネー ヤファッテングワアー ンジャセー	足を跳ねるときは、柔らかく足を出しなさい
メーンカイ ウツチャカレー	前に寄りかかりなさい
ジクヌキマレー ウドイヤ ナトーサー	軸が決まれば、踊りは出来ている
シナヌナーカンカイ アシイッティ トウバサングウー トウー	砂の中に足を入れて、飛ばさないように足を出しなさい
ミジチン ヤファッテングワアー	目付も柔らかく
ヤーヌハーヤートウ ジクヤ カナミ	家の柱のように、軸が要である
イキガウドイヌ カマエヤ チビサージャー ナテェナラン	男踊りの構えでは、お尻の穴が下がりすぎではいけない
ヒサヤ ヤファッテングワアー ンジャセー	足は、柔らかく出しなさい
ユインサーニ ハニーリヨー	音の余韻で足を出しなさい
イリミシ アツチュンドー	入り身で歩く
チリケーシ	切り返し
イチ ヌチュン	息を抜く
イリミサーニ ウツチャカレー	入り身で寄りかかる
カタ チカーラングトウ クシ ミグラシエー	肩を使わないで、腰を回しなさい
タチノーイ	立ち直り
ネーチリ イリユン	あげを入れる
ヒサ ヌジュル	足を抜く
ヤアッテングワアー ヒサ ンジャセー	柔らかく足を出しなさい

学生の反応・印象に残った言葉（前期・後期）

《前期》

- ①授業初めの自己紹介で、学生一人一人がこの授業に対する意気込みと目標を確認することが出来た。自分自身の体の癖などを確認しつつ、姿勢・歩み・回転の3つの基本を繰り返して行った。
- ②体の軸がまだまだしっかり保たれておらず、バランスが整っていない。各々の体の癖（右肩引きぎみ・顎が出る・組足）を指摘し、繰り返し基本動作の修練を継続し行う。
- ③一人一人の姿勢、歩みを宮城先生に確認して頂き、それぞれが自覚し、繰り返し修練するようになってきた。基本を習得すれば、すべての踊りに通用し、美しい表現ができる。
- ④姿勢・歩みにおける癖を指摘して頂き、一人一人の体と意識の変化が感じられた。「かぎやで風」の1節～4節までの型を確認し、それぞれの流派の違いを実感した。
- ⑤授業5回目の今回の授業では、だいぶ上半身の硬さが抜けているように感じられた。歩みの時、足を組んで歩いている学生が多く見受けられる。体幹＝体の軸がしっかりしてきているが、体全体の力が抜き切れていない。
- ⑥少しずつ力が抜けてきているように感じられた。基本動作の中で、しまくとぅばが自然に出てきて、イメージが出来ているように感じられた。
- ⑦全体で基本の修練を40分行った後、一人一人音楽に合わせて姿勢・歩み・回転の確認を行い、宮城先生より指摘を頂いた。その中でもKさんの改善の変化が見られ、昨年からの継続の成果が出て嬉しく感じた。（本人も嬉しそうだった。）KさんとSさん、男性2名の背中力がまだ抜け切れておらず、上半身の息を抜く方法やそれをイメージできる言葉を、しまくとぅばの表現であるかを、次回に尋ねてみたいと感じた。
- ⑧姿勢と歩みがだいぶ良くなってきた。背中力も少しずつ抜けてきている。それぞれの表情も良くなってきた（全体に力が抜けてきている）。
- ⑨「かぎやで風（女踊り）」を通して、ガマク使い、面使い、腰と所作の関係など、女踊りの基本を習得することを目指しながら、根幹となる歩み姿勢を継続して行う。
- ⑩宮城先生に一人一人の動きを見て頂き、それぞれの癖や修正点を確認できた。姿勢と歩みがだいぶ良くなってきた。背中力も少しずつ抜けてきている。回転の時の重心のかけ方と面の入れ方がまだぎこちない。
- ⑪通常行っている前半の歩みを今回は省き、「かぎやで風」の型の確認と音の取り方を中心に授業を進めたが、姿勢・歩みも良くなっていた。壁に寄りかかり体の線を確認し、基本姿勢に入った時、両肩が前に入りすぎていることを学生自身が気づき、基本姿勢のイメージと自己観察が出来ていると感じた。回転の後、腰が全部抜けてるときがあるので、上半身と下半身の繋がりを意識づけることが必要と感じた。
- ⑫一人一人に体の線と、歩みの足の出し方が美しくなっている。上半身の力が抜けてきている。回転時のガマク使いを次回は集中して行いたい。
- ⑬姿勢・歩み・回転が、長い時間をかけずに整ってきている。今週末に実技試験があるため、一人一人踊って詳細の部分の確認を行った。Sさんのアゴと上体が反り返る為、ビデオで撮影して、本人に自分の姿を確認してもらった。しまくとぅばがだいぶ聞き取れるようになっている。
- ⑭先週に前期の試験が終わり、気持ちも体もリラックスしている感じがあった。来週の最終講義では、3回目と14回目との映像を見て、それぞれの身体の変化を確認する。
- ⑮これまでの記録映像を見て、各自が自身の変化を確認し、この授業を通しての学びを発表してもらった。初めの頃は、それぞれ戸惑いもあったようだが、回を重ねるごとに、しまくとぅばでの指導を理解し「息ぬちゅん」「あぎ入りゅん」などの基本動作ができるようになったとの感想があった。宮城幸子先生の丁寧な指導のおかげで、琉球舞踊における基本動作姿勢・歩み・回転が、しまくとぅば実践授業を通して体得できたことは大きな成果だと感じた。

《後期》

- ①授業初めの自己紹介で、学生一人一人がこの授業に対する意気込みと目標を確認することが出来た。自分自身の体の癖などを確認しつつ、姿勢・歩み・回転の3つの基本を繰り返し行った。
- ②学生それぞれが体のゆがみがあり、自らの体を整える事から始めることが大切。体の線が整っていないければ、美しい歩みに繋がらないことを確認した。自分自身の体の癖などを確認しつつ、姿勢・歩み・回転の3つの基本を繰り返し行った。
- ③受講生が1名だったので、歩み・姿勢を集中的に練習し、腰の入れ方と息の抜き方などが、体得できてきた。この感覚を体に覚えさせるまでの修練が必要で、安定した根幹を身に付けてほしい。
- ④歩みの足の運びは次第に良くなってきている。Hさんは前回、一人で90分基礎を学び姿勢がだいぶ変化が見られた。Mさんは、上半身の力がまだ抜ききれておらず、歩みの足が先に前に出ている。自分自身の体の癖などを確認しつつ、姿勢・歩み・回転の3つの基本を繰り返し行った。授業以外の修練の時間を確保し、ゆるぎない基礎を身に付けるよう努力が必要。
- ⑤一人一人、歩み・姿勢・回転を宮城先生に見て頂き、それぞれの癖や修正部分を確認できた。今回は、自分自身の動きを確認できるように携帯を持参し、動画で確認することとした。
- ⑥姿勢・歩み・回転がだいぶ整ってきている。宮城先生に一人一人の動きを見て頂きながら、各自の携帯で動画を撮影した。今回は、その自分自身の動作を観察しての感想を発表することとした。
- ⑦歩み・姿勢・回転がだいぶ整ってきている。前回、各自の携帯で動画を撮影しその感想を発表してもらった。自分自身の動作を映像で確認し、改善点を確認できたことを喜んでおり、同時に今後の課題も明確に感じたようだ。今回、二人とも体の力の抜き方を学び、宮城幸子先生のしまくとぅばによる指導で、かなりイメージがつかめたことを確認できた。
- ⑧歩みの練習時間の経過とともに、基本(歩み・姿勢)が整ってきている。それを体得するまで自主練を積み重ねることが大切である。本貫花を踊っている時も、丹田への意識や動作がスムーズになってきている。
- ⑨舞踊の基本となる土台作りをしっかり身に付けるよう鍛練してほしい。
- ⑩歩みと姿勢がだいぶ良くなってきた。歩みの練習の時、目の表情を同時に練習するように心がける。本貫花の音の取り方が良くなってきた。
- ⑪週2回目の授業ということもあり、歩みと姿勢そして表情がとても良くなってきた。回転の時のガマク使いがスムーズにできていない。今回は、本貫花を一人で踊れるようにする。
- ⑫身体の線がだいぶ整ってきている。歩みの時、つま先のはね足もよくなっている。女立ちの時、右尻があがるので、右膝を開くと入るので形が整う。上半身の力がもう少し抜けるとよい、本貫花の曲の取り方もよく、表現力が豊かになりつつある。
- ⑬先週に実技試験を終え、基本の最終確認を行った。姿勢・歩み・回転がだいぶ美しい形になりつつある。本貫花を一人一人踊り、それぞれの今後の改善点を指摘して頂いた。“継続は力なり”を実践してほしい。

今年度の授業について

琉球舞踊の授業においては、昨年度と同様に基礎を重点的に学ぶ1年次対象の「舞踊実技Ⅰ・Ⅱ」の授業で、「しまくとぅば実践教育プログラム事業」行ってきた。

姿勢・歩み・回転の3つの基本動作が、イメージしやすい様々なしまくとぅば言葉を指導して頂き、基本習得の修練を行ってきた。授業を始めて間もない頃は、言葉の意味が分からず解説が必要であったが、同じ言葉を繰り返し使いながら、身体を通して学んでいる中で、次第にその単語が動作をイメージするキーワードとなり、回を重ねるごとにその成果が表れてきた。

次年度への展望

令和2年度は、しまくとぅば実践教育事業に「舞踊創作演習Ⅰ」の科目を追加し、琉球歌劇の特別講

師と指導助手を招聘して、琉球語と演劇的身体表現を学ぶ。

同時に、琉球歌劇を伝承する上で使用される、しまくとぅばによるわざ言語を取り上げていく。

以前、沖縄芝居の役者が話されていた言葉に、「舞いや白波ぬ寄しんねー舞ーゆんどー」という表現があり、波の押し引きのように踊る、という言葉に感銘を受けたことがあった。先人達が残してくれた伝統芸能を継承する中で、技術と共にわざ言語＝黄金言葉も大切に受けついでいく事を目的として取り組む。



舞踊実技の様子1



舞踊実技の様子2

3-2 舞踊実技 (高嶺)

実践授業2：琉球舞踊実技I (担当者：高嶺久枝)

授業期間 前期：令和元年5月13日～令和元年7月29日

授業回数 前期：10回

対象学年及び受講人数：学部1年次(2名～3名)

特別講師について

特別講師①：島袋 光晴 (しまぶくろ みつはる) 島袋本流紫の会宗家／85歳

- ・島袋光裕に師事
- ・沖縄タイムス芸術選奨大賞受賞
- ・伝統組踊保存会六代目会長
- ・国指定重要無形文化財「組踊舞踊」保持者(総合認定)

特別講師②：金城 光子 (きんじょう みつこ) 渡嘉敷流守藝の會家元三代目／73歳

- ・渡嘉敷守章に師事
- ・沖縄県文化協会賞受賞
- ・沖縄タイムス芸術選奨奨励賞受賞
- ・沖縄県南部連合文化協会賞受賞
- ・町制70周年記念与那原町文化協会文化功労賞受章

しまくとぅばキーワード

しまくとぅば	意味
ウチナーグチ アランデー ナラーサラン コトバ トメーユンディチ	しまくとぅばでしか表現できない言葉があるのか探そうとして
シンカヌチャー	臣下の皆さん (→に対してウスーヨ:世間の皆様)
モーイヌ ビンチョー	踊りの勉強
シンシーサイ・シンシータイ	先生 (男からの呼び方)・女からの呼び方
イスジ	急いで
カミティ	頭の上において (しまくとぅばだと敬意を含む場合もある)
シチャワタンカイ	下腹部に
ミジリヌティ ヒジャリヌティ	右の手 左の手
クンパティ	踏ん張って
メーンカイ	前へ (に)
チャクヌ メーンカイ	お客の前に
チリケーシ	切り返し
クンパイネー アッチ イカリーミ	踏ん張ると歩いていけるねー
ミーヤ ハツパテーナラン	目は大きく開いては (睨んでは) いけない
チムヤナーカンカイ ウチキティ ウチュティ	心 (思い) は、中に込めておいて
イチグミ	意気込み
ティーカチャイ ヒサカチャイスル モーイヌハジメー	手での所作・足の動きをする踊りのはじめは
ウチナーヤ スージヌ マンドー	沖縄は祝いごとが多い
チラー	顔は
ジンブン チカティ	頭 (知恵) を使って
ハマリヨー	しっかりと頑張って
ウー	はい (敬語)
ドゥーヌ メーンカイ チャクノメーンカイ	自分の前に お客の前に
ワチャー シミティ	脇を (は) しめて
タマガ テーチ イールアタイ	卵がひとつ入るぐらい
ヤファッテングワー	柔らかく
チリケーシ	切り返し
ハニピサ	はねる足裁き
ナトンドー	出来ているよ
ティーヌワター	手のひら
ティーチ テーチ クメーキティ イチネー ジョウトウ トウ ナインドー	一つ一つ心を込めてやると上等になるよ
ヒサ サチカラ イービヌサチマデ	足の先から (言い換え) 指の先から
チーチキティ チカユルグトニ	気をつけて使うごとに
トー シコーイガタシェー	さあ 準備をして
クーテングワー チンシー ヒイシィティ	少しだけ膝を曲げて
ヘークナー	早く
イービングワ	指 (しまくとぅばでは愛称を込めて使う)
アティファ	あてる手 (所作の決まる時に使う)
シティンティ	捨てる手 (所作)
ミーナリ チチナリ シワル	見たり、聞いたりすることによって
ジンブンムチ・スグリムン	智慧持ち (女に使う)・優れている (男に使う)
ナマヌアッチカタトウ メーヌアッチカタ	今の歩き方と前の歩き方

しまくとぅば	意味
アリガ ネービシェー	あの人のやるように真似をなさい
クンピリヨー	踏みなさいね。(歩むとき三線の音を踏むイメージ用語)
ナンドルミチ アッチェルグトゥ	滑る道を歩くように
メーンチンボー	前かがみ
イリミ	半身になる
キナグノタチカタ・キキガヌタチカタ	女の立ち方・男の立ち方
ガマクイリレー	腰を入れなさい
ガマクヌ イランレー	腰が入らないと
シェーヌグトゥ マガトンドー	エビのように(腰が)曲がっているよ
チビヌ アマカイハティ	おしりがあそこに行っている
テーゲーヤ ワカイン	大体は分かる
メーンカイ	前へ
クーガ ダチョール ドーヨー	(脇に)卵を抱いたように
シ マーニ	やってごらん
ミジュヌ ナガユルグトゥ	水が流れるように
チュイナーチュイナーヌ	一人一人(個人個人)の
ドウチュイヌ カンゲーガタ ヤグトゥ	一人の考え方だから
サカジチ	杯
ウサガミソーレー	どうぞお召し上がりください
アンシイチネー ミジュー アンリーシ クブサングトゥニ	こうして行くと(歩くと)、水は溢れる、こぼさないように
クヌメーヤ ディキトウタン	この前はできていたよ
ファヌ ヒラチュンネー	葉が(花びらが)ひらくように
ティチナー、ティチナー、ケーシーネー	一枚一枚返すと
ヒラチャーニ	ひらいて
ウサミカター チャスガ	納め方をどうするか
ニーサ フェーサ	遅さ 早さ
オドゥイサーガ カンゲーティモーリヨー	踊りする人が考えて踊りなさいね
クシ イリーヌバス チンシーン イフィグアマギーン	腰を入れる時 膝も少し曲げる(ゆとりを持たせる)
ドウテュー	体の線
シージュウサヌ	やり過ぎ(はだめ)
アディーシ	まっすぐ当てる手
ワンネーミジリンカイ ジクヌ イッチョーン	私は右に重心が入っている。
ティーナ	手の甲(表)
ミジリヌテーヤ ティーダ ジファイヌティーヤ チチ	右手は太陽 左手は月
カンナジ	必ず
クバヌオオジ	クバの扇
サージ	布
マンサージ	繭布
チブルンカイ イットオーケー	頭の中に入れておいて
ナラーチャイ ナラーサツタイ	教えたり 教えられたり
ドウヌクトウ ドウクルヤ ミーラングトゥ	自分の事はじぶんでは見えないから
キツチャキ	挫折
ドウヌクトウシ イチュナサグトゥ	自分のことで忙しいから
ヤングウトウ アランデー	正しいことで無ければ

しまくとぅば	意味
マーンカイ ムカトーガ	どこをむいているのか
ムテイ	方向
クダミユン	踏む
クンピレー クダミティアクケュー	(浮かないように) 踏んで歩きなさい
ヒサヌスンポウ	一足のスンポウ
ヒサマンチ カキレー	正座をしなさい
ウッチャキ	うちかけ
ウヌママー ソーケー	そのままにしておきなさい
ンジチャルトウクマンカイ ムドウティ イチュン	出てきたところに戻っていく。
アンシウッチ ワーガ ンジラリーミ	(拍子木を) このように打って、私が(舞台に)出られるか?歩けるか? (真境名由康師のエピソード)
ミーグスイ、ミミグスイ	目の薬、耳の薬
ミーマントウーティ クミソーリヨー	見守っていてください
ナゲーサ ウガマンタンヤー	長くご無沙汰していましたね。
イチュセー	行くのは
チラヤメーンカイ	顔は前に
チャーヤタガヤー	どうでしたか
ヌーヤティン ハジメー ムチカサン	何でも始めは難しい
ククルヌムチヨー	心の持ち方
トー ンチョーキヨー	さ、見ていなさい
ナーチュケー タッチンマーニ	もう一度立って(踊って) みなさい
トー タッチマーニ	さあ 立ってみて→さあ 踊ってみてください
ターチヌティー ウルチ	両手を下ろして
テンプス	おへそ
ナー チュケー	もう一回
トー ナトーミー	さあ(心の)準備はできていますか
チャー	常に、毎日
チビラーサンドー	素晴らしい、見事です
タチファ	立つ位置
ウビートーキヨー	覚えていてください
ウワアビン カイ	上の方に

学生の反応・印象に残った言葉

- ①先の5回の授業で所作・型の指導をして臨んだ授業だったので、学生は、教わった型・所作を基本にしまくとぅばを聞き取っていた。しかし、初めて出会う講師の言葉をしまくとぅばで聞き取るのは難しい様子だった。まだ18歳前後の学生にとって、日常にしまくとぅばを使う場が無いので、英語の授業の習いはじめを受けているような同じ感覚で単語・単語を覚えていたのであろうか。
- ②授業終了後、教員から「ミーナリ チチナリ シワル 上等ナインド:」色々なものを、見る・聞くことによって上等になるのだよ」と、という言葉のリズムが面白くないですか?と聞いたら、学生は、リズムとして覚えて、しまくとぅばを繰り返していた。そのことは印象的だった。
- ③多くを伝えたく日本語まじりで授業する講師に、しまくとぅばでは何と言いますか?などと講師からしまくとぅばを引き出す作業をした。教員として、学生の雰囲気を見て、「シンシータイ クヌ クトゥバヤ

しまくとうばシェーヌーディ イヤビーガヤー」と聞いて、共通語としまくとうばとの両方を通訳の役目をしながら学生に伝えた。学生らは、こうして所作の一つ一つに拘ることを学んだと思う。

- ④講師から「話はいくらでもできるが、まねはできないよね。」という、学生は意味不明のようだった。解釈してあげると学生は微笑んでいた。まずは、自身でやるのが大切という事を色々な言葉で表現して下さった。
- ⑤光晴先生のお話に興味深く聞き入っていた。庶民の生活の中から小道具として踊りに、衣装に取り入れられている。などなど、色々な話に発展していき、県外からの学生は興味深く聞き取っていた。講師から教員は光裕芸の薫陶をうけた者だから、自身(光晴師)と同じ考えて良い。とコメントされ、さらに、女芸・男芸の違いがあると、型の仕方の説明をして頂いた。また、「上り口説」について、今と昔の面白い話を伺えた。教員は、学生の皆さんはこの大学で色々な出会いと、もの・ことが習える。また、色々な事に疑問を持つことをも心がけて欲しい。と結んだ。
- ⑥光晴師から、「私は、恥ずかしい話だが新人賞をとるのに7年間かかった」、当時は自分で覚えるしかなかった。先輩達にお願いしても先輩らも自身の事で忙しいから後から付いて自身の感覚で覚えるしかなかった。覚えた後、光裕師匠に見てもらおうが、「マーンカイ ンカトーガ(何処にむかっているのか)」とおしかりを受けることで、また、研究して体得していく。など等のお話を伺うことができた。学生は、今はまだ貴重さは分からないが、精神のレベルが満ちた時に回顧するでしょう。
- ⑦*踊り方、化粧の仕方、衣装の着付け方も回数がものを言う。一にも歩け、二にも歩け、師が良しという迄歩けと言われて歩くが、師はなかなか良しとは言わなかった。つまり、自身が悟るまで稽古は続ける。
- * (ミーグスイ、ミミグスイ) 意味：目の薬、耳の薬→後になって財産になると思う日が来る。→光晴師には、実に多くの貴重なお話しをして頂きました。
 - *最後に学生は「かぎやで風」「上り口説」「かせかけ」を舞って、師に見ていただいた。→師曰く：上半身で動いていると体が浮いてしまう。腰を入れて常に意識して繰り返し稽古してください。
 - *今後の成長をミーマントウティ クミソーリヨー。意味：見守っててください。
シンシータイ イPPERニフェデーピタン。で締めくくった。
- ⑧当初は、実技としまくとうばを同時に行い、戸惑いの表情だったが、回を重ねるごとに、笑顔が増えていった。慣れることで習うということも分かったのではないかと思います。

今年度の授業について

今年度、「しまくとうば実践教育プログラム事業」を通して、共通語で指導した時の心と体の受け止め方と、しまくとうばで指導した時に違いがあるのか。日本語では表現が浅いが、しまくとうばでは言葉のもつ表現が深くなるのでは、との期待からスタートした。

- *授業の中で、特別講師の生立ちや小道具の扱い方を「しまくとうば」で聞いたことは貴重であった。
 - *先生方は、「踊りは、誰かから習ったわけではない。どうやって上達するのか意識をもって、自分自身で探して身に付けた。」(A) という事を強調しておられた。
- 鳥袋光晴先生：父親(鳥袋光裕氏)が師匠。
→金城光子先生：渡嘉敷流宗家(渡嘉敷守良氏)の息子(渡嘉敷守章氏)が師匠。
- *その言葉を聞いた学生達は、上達するためには指示待ちで学ぶのではなく、自分で探してつかみ取っていくものだと感じ取った様子だった。
 - *授業の回を重ねるごとに、所作や琉歌の意味をイメージすることができ、笑顔が増えていった。
 - *「しまくとうば」を聞いて理解しようとする様子やその意味を身体で捕らえ学習しようとする賢明な姿勢が見られた。

その成果は、「組踊上演300周年記念組踊・琉球舞踊公演」の五公演(2019年1月16日～2020年1月5日)にて、配役した演目の数々で見られ、有意義な授業であった。

次年度への展望

- ①琉球舞踊を丁寧に指導する方法として、専任教員としてやるべき部分と、特別講師へ依頼する部分のすみ分けをまとめ次回に生かそうと思う。
- ②琉球舞踊の総合性と多様性を意識して「しまくとぅば」を交え話して下さるよう講師依頼をしたい。
- ③私の指導法の一つである琉球・沖縄の文化に意識を向けさせることについて、あらゆる角度から考え、声かけすることを心がける。

学生は幸い県内と県外の学生であり、15回の内5回は、芸歴50年の自身の持つ言語、造語も含めて所作と技のたたき込みを授業してきた。その後、講師の先生方には、各5回の授業で学生と直接触れていただき、瞬時に実態を把握して頂き、イメージしたお言葉を頂いた。(50年・60年余の年齢差があり、ウチナーの黄金言葉で「年の劫や亀の甲(トウシヌクウやカーミヌクウ)」という言葉をかみしめ学ぶことができ、「年長者の経験は尊ぶべきである。」そして、「敬う心(ウヤマイヌ ククル)」を教えることができた。敬う心は、礼儀作法を学ことにつながる。

学生にとっては、直接ご指導を受けることができることに感謝し、「しまくとぅば」によって沖縄を広く知るきっかけともなり、また、私自身にとっては、1970年前後の中学校時代の歴史を振り返る場ともなった。(参考:「沖縄文化と言葉 意識した教育(高嶺久枝)」2020.12.24 琉球新報)

*しまくとぅば実践授業で印象に残った言葉(言霊が感じられる)

例:① ククルムチ・ククル チミティ→意識的→姿勢が良くなる。

ウエーサチ(挨拶)→ユタサルグトウ ウニゲーサビラ

- ② 今からハジマインドー→踊りはじめのククルムチ
- ③ ヒシティ・クンパティ(座って・踏ん張って→意識の持ち方)
- ④ ガマクンカイ ウシクミティ→感覚のイメージ
- ⑤ ムチャギティ(持ち上げて:押し上げて・押し下げて)
→言葉の持つリズムとイメージ
- ⑥ つく→どうぞ(という気持ちで前を出す)→ウサガミソーレー
- ⑦ 良く歩いているよ→ユーアッチョーンドー



舞踊実技の様子1



舞踊実技の様子2



舞踊実技の様子3



舞踊実技の様子4

3-3 組踊実技 (阿嘉)

実践授業3：組踊実技V、VI、VII、琉球舞踊組踊研究I (担当：阿嘉修)

授業期間 前期：令和元年5月17日～令和元年7月19日

後 期：令和元年12月6日～令和2年1月24日

授業回数 前期：21回 後期：8回

対象学年及び受講人数 前期：3年生(3名)、4年次(2名)、院1年次(2名)

後期：3年生(3名)、院1年次(3名)

特別講師について

金城清一(きんじょう せいいち) 79歳

初代玉城盛義に師事

重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)

沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者

沖縄県文化功労章受章

玉城流金城清一「組踊会」主宰

玉城流翠扇会家元

しまくとぅばキーワード

しまくとぅば	意味
イミシエータン	おっしやった
ワジャ	技
シージャカタ	先輩方
ガマク	腰
チカイヨー	使い方
イイワーチジデービル	良いお天気です。
ジママ	わがまま
ヨーンナー	ゆっくり
マギク	大きく
アビランネー	言いなさい
ドゥークル	自分で
カンゲーティ	考えて
ヒサシ カキティ	足でかけて
ドゥーナ ミーンカイ	自分の所に
ムッチチューン	持つてくる
イチチューイカラン	生きていけない
ティー	空手
エーサチ	挨拶
カチミティ	捕まえて
チン・アギレー	着物を上げなさい
アタビチ	蛙
ウリ・トゥイガ	それを取りに
アチケーグリサン	扱いにくい
アンシルヤタン	そういう風にした
クサーンカイ	後に
イッティ	入れて
ユレー	寄りなさい

しまくとぅば	意味
カンシ・カチミレー	こういう風につかみなさい
ウリビケーンジーガチョータン	これだけを観に来ていた
クマカラ・ミグインテー	ここから回る
ンジティ・イチュン	出ていく
ウティブ・ヒールレー	落ち穂を拾いなさい
アマカラ	あそこから
ンジャニー	見て
クリカラ・ミグレー	これから回りなさい
アマンカイ	あそこに
アンスカ・サンケー	そんなにするな
ヘーク・ウビリヨー	早く覚えなさい
イラナ	鎌
クマンカイ	ここに
ンカレー	向かいなさい
カンシ・カチミランネー	こういう風に捕まえないと
スバンカイ・ユレー	側に寄りなさい
ヒサマンチュー	正座
グリーサンネー	お辞儀をしなさい
ナーウフィグワー・ユレー	もう少し寄りなさい
イザイビー	漁火
トウンタッチー	中腰
ミーグルグル	きよろきよろ
ウスレーカラ・マーマディンイチュ	押ししてしまうと、何所までも行ってしまう
ウヤックワ	親子
マジュン・ンジレー	一緒に出なさい
ナーウフィグワァー	もう少し
ヨーンナー・アビリヨー	ゆっくり言いなさい
フドウ	背丈
ダッチャグトウ	ハグする
マッシグ アビー	単刀直入に言う
ワジャ グワー	技
ウヌママ	そのまま
ウムサン	面白い
ウフェー・ニーサン	少し遅い
ヨーンナーサンネー	ゆっくりしないと
クズー	小僧
カニ	鐘
スグラリレーカラ	叩かれたら
ンカシヨカーナガクナトーン	昔より長くなっている
ウッピシ・シムサ	これくらいで良い
チバリヨー	頑張りなさい
チルダイ	体が怠い
テーゲーナー	いい加減
クーガ	卵
クサーンカイ	後に

学生の反応・印象に残った言葉（前期・後期）

《前期》

金城先生が普段から使われている「しまくとぅば」徐々に増えてきている。／大学院1年次は、学部3年次から「しまくとぅば」講義を受けているので、ほとんどの言葉を理解していた。／3年目ともあり「しまくとぅば」ほとんどの言葉を理解していた。／4年次は今回から初めて「しまくとぅば」の講義を受けた。しかし日頃から聞きなれているのかヒアリングができていた。／実技になると自然に「しまくとぅば」での指導が増えてきている。／「しまくとぅば」が自然に聞け、言われた通りに所作するようになった。／「しまくとぅば」で指導しても、ほとんどの言葉の意味を理解して踊っていた。／離島（宮古島）の出身で「しまくとぅば」が慣れていない学生が理解をする姿勢があるので今後楽しみ。／「しまくとぅば」に慣れ、言われた通りに所作するようになった。／「しまくとぅば」徐々に増えてきている／「しまくとぅば」で所作の指導をしても、ほとんどの言葉の意味を理解して踊っていた。／「しまくとぅば」徐々に増えてきている。／徐々に「しまくとぅば」が慣れていない学生が理解をする姿勢があるので今後楽しみ。／難しい「しまくとぅば」での指導に戸惑いもあったが、嬉しそうに受け答えをしていた。

《後期》

清一先生の「しまくとぅば」での指導が増えて、学生も慣れてきたと思う。／「しまくとぅば」で所作の指導をしても、ほとんどの言葉を理解していた。

今年度の授業について

- ・今年度は「琉球舞踊組踊研究Ⅰ」大学院1年次の授業でも清一先生の指導を行った。院生は学部でも清一先生の指導を受けていたため「しまくとぅば」での指導は慣れていたように感じた。また、初代家元玉城盛儀先生の貴重な資料を鑑賞しながら、当時の舞踊所作や組踊の指導法などのエピソードを「しまくとぅば」を交えて説明を受け、かなり学生から評判があった。
- ・学部3年次は「しまくとぅば」実践授業3年目ともあり「しまくとぅば」での指導は慣れていた。組踊台詞の発音など上手く言えるようになっていたと感じた。

次年度への展望

- ・次年度も同様に清一先生から「しまくとぅば」での組踊指導を行う。
- ・組踊資料鑑賞をしながら清一先生の「しまくとぅば」を交えて解説をしてもらい、更にレベルアップした組踊の専門的な「しまくとぅば」での指導を行いたい。



組踊実技の様子1



組踊実技の様子2

3-4 学生による授業評価アンケート

3-4-1 学生アンケート結果（令和元年度・前期）

実施日時：令和元年7月

対象：琉球芸能専攻学生

I. 対象授業名と受講者数、アンケート回収枚数

受講者合計12人、うちアンケート回収枚数7枚

内訳：「琉球舞踊実技I」5人、5枚／「組踊実技V・VII」「琉球舞踊組踊研究I」7人、2枚

II. 質問と結果

1. この授業を受けるまで、

- ①しまくとぅばに接する機会はどのくらいありましたか。
- ②しまくとぅばをどれくらい理解できましたか。
- ③しまくとぅばを意識していましたか。

質問1-①

選択肢	人
ほぼ毎日	0
週に数回	3
月に数回	1
年に数回	2
ほとんどない	1
計	7

質問1-②

選択肢	人
ほぼ全て理解できた	0
8割程度理解できた	3
半分程度理解できた	1
3割程度理解できた	1
ほとんどわからなかった	2
計	7

質問1-③

選択肢	人
はい	5
いいえ	2
無回答	0
計	7

2. この授業を受けている間、

- ①授業内で使用されたしまくとぅばをどれくらい理解できましたか。
- ②しまくとぅばを以前より意識していましたか。
- ③授業外でしまくとぅばを使用する機会はどのくらいありましたか。
- ④しまくとぅばによる実技指導は標準語での指導と比べて体得しやすいと感じましたか。

質問2-①

選択肢	人
ほぼ全て理解できた	1
8割程度理解できた	3
半分程度理解できた	2
3割程度理解できた	1
ほとんどわからなかった	0
計	7

質問2-②

選択肢	人
はい	6
いいえ	1
どちらでもない	0
計	7

質問2-③

選択肢	人
増えた	5
減った	1
変化なし	1
計	7

質問2-④

選択肢	人
はい	5
いいえ	0
どちらでもない	2
計	7

3. 今後について、

- ①しまくとぅばに接する機会を増やしたいと思いますか。
- ②しまくとぅばをもっと学びたい・使いたいと思いますか。
- ③しまくとぅばでの実技の授業をまた受けたいと思いますか。

質問3-①

選択肢	人
はい	5
いいえ	2
無回答	0
計	7

質問3-②

選択肢	人
はい	5
いいえ	2
無回答	0
計	7

質問3-③

選択肢	人
はい	5
いいえ	2
無回答	0
計	7

4. 「琉球語基礎」、「琉球語Ⅰ」、「琉球語Ⅱ」を受講されましたか。(複数回答可)

選択肢	人
はい	5
いいえ	2
無回答	0
計	7

5. 授業の感想・意見、印象に残っている言葉などがありましたらご記入ください。

- ・授業を受ける前はしまくとぅばは大和ぐちと全く違う言語だと思っていましたが、授業を受けて大和の言葉がもつて変化しているのもあって身近に感じれるようになりました。もっと勉強したくなりました。心に残っている言葉は「なとんどー」です。
- ・初めて知る言葉が色々あり、日常で使えるようなしまくとぅばもたくさん出てきたので、普段の生活から使ってみようと思った。
- ・しまくとぅばの例を訳すことで、とても分かりやすい物だなと感じました。本当にありがとうございました。
- ・しまくとぅばは、標準語よりも分かりやすくイメージがしやすかった。

3-4-2 学生アンケート結果(令和元年度・後期)

実施日時：令和2年1月

対象：琉球芸能専攻学生

I. 対象授業名と受講者数、アンケート回収枚数

受講者合計8人、うちアンケート回収枚数8枚

内訳：「琉球舞踊実技」2人、2枚／「組踊実技Ⅵ」3人、3枚「琉球舞踊組踊研究Ⅰ」3人、3枚

II. 質問と結果

1. この授業を受けるまで、

- ①しまくとぅばに接する機会はどのくらいありましたか。
- ②しまくとぅばをどれくらい理解できましたか。
- ③しまくとぅばを意識していましたか。

質問1-①

選択肢	人
ほぼ毎日	1
週に数回	4
月に数回	1
年に数回	1
ほぼ無し	1
無回答	0
計	8

質問1-②

選択肢	人
ほぼ全て	0
8割程度	3
半分	2
3割	2
皆無	1
無回答	0
計	8

質問1-③

選択肢	人
はい	7
いいえ	1
無回答	0
計	8

2. この授業を受けている間、

- ①授業内で使用されたしまくとうばをどれくらい理解できましたか。
- ②しまくとうばを以前より意識していましたか。
- ③授業外でしまくとうばを使用する機会はどのくらいありましたか。
- ④しまくとうばによる実技指導は標準語での指導と比べて体得しやすいと感じましたか。

質問2-①

選択肢	人
ほぼ全て理解できた	0
8割程度理解できた	5
半分程度理解できた	2
3割程度理解できた	1
ほとんどわからなかった	0
計	8

質問2-②

選択肢	人
はい	8
いいえ	0
どちらでもない	0
計	8

質問2-③

選択肢	人
増えた	8
減った	0
変化なし	0
計	8

質問2-④

選択肢	人
はい	6
いいえ	1
どちらでもない	1
計	8

3. 今後について、

- ①しまくとうばに接する機会を増やしたいと思いますか。
- ②しまくとうばをもっと学びたい・使いたいと思いますか。
- ③しまくとうばでの実技の授業をまた受けたしたいと思いますか。

質問3-①

選択肢	人
はい	8
いいえ	0
計	8

質問3-②

選択肢	人
はい	8
いいえ	0
計	8

質問3-③

選択肢	人
はい	8
いいえ	0
どちらでもない	0
計	8

4. 「琉球語基礎」、「琉球語Ⅰ」、「琉球語Ⅱ」を受講されましたか。(複数回答可)

選択肢	人
琉球語基礎	3 (2)
琉球語Ⅰ	2 (2)
琉球語Ⅱ	2 (2)
無回答	5

※括弧内の数字は重複して受講した人数

5. 授業の感想・意見、印象に残っている言葉などがありましたらご記入ください。

- ・「あぎいりれー」、「やふあってんぐわおー」何回も繰り返し稽古し、体で体得することの大切さを学びました。授業を受ける前と比べてちゃんと成長できてるか、不安で自信がありませんでしたが、第1回の授業と最後の授業の映像を見比べ、変化していることを知れて、少し自信が出て、稽古は嘘をつかないことを知れ、やる気が出ました。
- ・「やふあってんぐわおー」「めーほーやー」「くしししやーに」
- ・しまくとうばでしか表現できないような言葉や、ニュアンスが沢山あるので、しまくとうばをもっと理解して、踊りや歌にも生かせるようにしたいと思います。とても大切な授業だと思うので、また来年も受けれたら嬉しいです。
- ・また来年もぜひ受けたいです。
- ・清一先生からしか聞けないお話が沢山あったのもっと聞きたいです。ありがとうございました。

3-5 「琉球語」関連授業の取り組み

仲原 穰

(沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員/
沖縄県立芸術大学非常勤講師)

実施期間：平成31年4月11日～令和元年7月16日(琉球語Ⅰ)、令和元年10月3日～令和2年1月30日(琉球語Ⅱ)、平成31年4月8日～令和元7月29日(琉球語基礎)

授業回数：「琉球語Ⅰ」(15回)、「琉球語Ⅱ」(15回)、「琉球語基礎」(15回)

受講年次：「琉球語Ⅰ」合計5人 (琉球芸能専攻 学部2年生2人、3年生1人)
(聴講：留学生2人 ※ペルー人、ブラジル人)

「琉球語Ⅱ」合計5人 (琉球芸能専攻 学部2年生2人、3年生1人)
(聴講：留学生2人 ※ペルー人、イタリア人)

「琉球語基礎」合計37人 (琉球芸能専攻 学部4年生2人、1年生2人)

(上記以外：1～4年生 美術・工芸学部29人、音楽学部4人)

担当教員：「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」「琉球語基礎」 仲原 穰

1. 科目について

今年度から「琉球語Ⅰ」が琉球芸能専攻2年生の必修科目となった。琉球語を全く話せず、聞き取りも危うい学生が多い傾向にある琉球芸能の学生が、この「琉球語Ⅰ」を必修として学ぶことの意義は、非常に大きいと考えている。

なお、今年度の2年生は、所属する学生があまり多くない学年であるため、相対的に受講生の数が少ない。その一方、聴講生である留学生は、前期・後期ともほぼ休まずに出席し、前期・後期ともに受講した留学生は期末試験も受験するなど、意欲的に学んでいた。

「琉球語Ⅱ」は「選択科目」の科目であったが、前期と同じ受講生が後期も引き続き受講したため、前期から引き続いて後期の内容に入ることができた。なお、後期のみの参加となった聴講生の留学生も積

極的に参加し、仲間に加わったため、相乗効果で受講生のモチベーションがあがったように感じた。

ただ、本来「琉球語Ⅰ」が2年生の科目となっているのは、1年生で「琉球語基礎」を受講していることが前提であるが、今年度の2年生は2人とも「琉球語基礎」を受講の経験がなかった。ただ、3年生の学生1人は、1年生の際に琉球語基礎を受講済みであったため、「琉球語基礎」と「琉球語Ⅰ」の連携が可能ではあったが、受講までに1年ブランクがあったことと、他の受講生との兼ね合いもあり、琉球語基礎の内容を引き継いでの講義ではなく、「琉球語Ⅰ」では、基礎的な内容からスタートさせることとなった。このため、シラバスで予定していた到達目標には達することができなかった。必然的に「琉球語Ⅱ」も同様に目標には届かなかった。しかし、スピードをゆるめて講義をおこなったことで、受講生のみならず、聴講していた留学生からも講義内容を理解した様子であった。

「琉球語基礎」は、基礎語彙(日常で使用される頻度の高い単語群)を身につけ、助詞、動詞、形容詞、繋辞などを覚えることで短い文を作ることができるようになるための科目である。「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」では、基礎語彙をゆっくりと教える時間がほとんどないため、琉球芸能専攻の学生は「琉球語Ⅰ・Ⅱ」の受講前に「琉球語基礎」を受講しておくことが望ましい。しかしながら、今年度の「琉球語基礎」の受講生37人中、琉球芸能専攻は4人(1年次は2人のみ)と少なかった。当研究会の琉球芸能専攻の先生方を中心に他の専任の先生方にも「琉球語基礎」の受講を薦めていただき、来年度からは、琉球芸能専攻の学生からの多くの受講を期待したい。

2. 本事業との関わり

本事業の「しまくとぅば実践教育プログラム」のカリキュラムで「琉球語」に関する知識の有無は講義内容の理解度と直結する。イタリア語のみで教えるオペラの授業があった場合に受講生がイタリア語を知らずに受けるようなものである。ただし、琉球芸能専攻の学生は、通常の講義以外にも舞台などで琉球語を母語とする高年層の方々と触れあう機会があるので、琉球語を全く理解できないということは少ない。

なお、ネイティブ・スピーカーの特別講師が話すことばをあまり理解できない学生でも本事業の実技科目を受講することができる。実際、昨年度までの実技の受講生のなかには、「琉球語」関連科目を一度も受講していない学生も受講していた。座学とは違い、所作とことばを同時に学ぶことで理解が深まっているようである。

このように受講生は実技のなかで「しまくとぅば」を少しずつ身につけていくのだが、その「素地づくり」にあたるのが「琉球語」関連科目である。琉球芸能専攻の学生の多くは、「琉球語基礎」「琉球語Ⅰ」「琉球語Ⅱ」のいずれかを受講していることが多い。さらに今年度より「琉球語Ⅰ」が必修科目になったことで、「しまくとぅば」を全く理解できない学生は少なくなるだろう。実技と座学の相乗効果で「しまくとぅば」の理解度が向上することを目指している。

3. 「琉球語」関連科目と実技科目との接点づくり

昨年度より、「琉球語」関連授業の「琉球語Ⅰ・Ⅱ」において、実技でご協力いただいた「特別講師」の先生方を琉球語の授業にゲストスピーカーとして招いて「しまくとぅば」による講話を実施している。

今年度も前期に実技の高嶺久枝先生の実践授業より、特別講師の島袋光晴先生を「琉球語Ⅰ」にお招きし、しまくとぅばによる講話を行っていただいた。

表1. 「琉球語」関連授業における「しまくとぅば講話」の実施状況(令和元年度)

科目名	特別講師	期日	参加人数
琉球語Ⅰ	島袋光晴(琉球舞踊)	令和元年7月11日	5人+オブザーバー1人

4.1 「しまくとぅば講話」について

特別講師による「しまくとぅば講話」を75分行っていただいた。本事業のメンバーでもある高嶺久枝先生にも参加していただき、仲原が進行を務めた。当初は講話終了後に講話の内容について参加

者からの質疑の時間を設ける予定であったが、参加人数が限られていたことや受講生のなかに2人の留学生も受講していたため、質疑応答ではなく、コメント用紙に記入してもらうことにした。以下がその抜粋である。

◎受講後のコメントシートの紹介 (一部抜粋)

- ・「クトゥバ ジン ジケー」(言葉は錢づかい)のように言語にもお金と同じくらい価値があることを教えて頂き、大切にしまくとぅばを使い残していきたいと思います。
- ・琉球芸能に携わっていただけること自体が幸せなのだということを実感しました。(中略)琉球芸能に魅了された一人として、その魅力を縁のある方に伝えていけるよう勉強を続けていきたいと思います。
- ・先生がおっしゃった言葉で人も言葉も変わっていくよ「人も言葉もかわっていちょーん」と聞いたときにこの「かわっていちょーん」という、うちなーぐちが奥深くて心にしみました。
- ・いろんな経験を学びました。人たちはコミュニケーションのためにウチナーグチとヤマトウグチの混ぜたことばで話していました。踊りの中でウチナーグチはまだ残りました。でも時間のなかでことばは変わっています。だからことばは生活の反射です。
- ・私は島袋先生が方言で話すのを聞いたときに、私が(中略)多くの親戚を思い出せたことを実感しました。

※なお、今回のコメントシートには、「しまくとぅば講話」全体のうち、どの程度聞き取れたのか、パーセントを記入する欄を設けた。結果は以下の通りであった。

70% (1人)、50% (1人)、40% (1人)、未回答 (2人)

4.2 「琉球語II」受講後のコメントと考察

「琉球語II」の講義終了後に実施した、コメントには以下のような記述がみられた(抜粋)。

- ・1年生の頃にとった入門編に比べ、だいぶ進むのがゆっくりに理解しやすく、とてもよかったです。慣れてきたらどんどん進んでたくさんの情報を教えていただきたいですが、ひとつひとつじっくり取り組むやり方が私には合っています。
- ・琉球語IIの授業を受けて、ウチナーグチをしゃべるのが楽しくなりました。スライドの説明と発音の練習が分かりやすく、とても勉強になりました。
- ・良かったところは、日本語の古語と琉球語はつながっていることが分かったところです。動詞の尾略形や終止形など、使っていったら本当に沖縄の言葉が話せるようになると思いました。
- ・前はぜんぜん分かりませんでした。簡単な文を作れるようになり、だんだん分かっているからとてもうれしいです。良く使えるように、今から習ったことをたくさん練習したいです。

今年度は留学生らも参加していたこともあり、彼らに伝わるように説明を丁寧に行っていたこともあり、例年より進捗がかなり遅れ気味であった。そのため、目標としていた到達点まで進むことができなかったことは大きな反省点である。しかし、上のコメントにあるように、その進捗が受講生の理解を助けた面もあったようであり、今後の進捗を考える上で考えられる点もあった。

4.3 「誇らしゃ しまくとぅば」(講演会)の感想

「琉球語I・II」を受講している学生には、「誇らしゃ しまくとぅば」(講演会)への参加を呼びかけているが、しまくとぅば講演会へ参加した受講生からコメントをもらったので、ここに記載する。

◎受講後のコメントシートの紹介 (一部抜粋) ※末尾の()は理解できた割合。

- ・昔の沖縄のことを分かる人たちからたくさん学びたいから、これからも講演会を続けてほしいです。(50%)
- ・ぜひ続けてください!本当にネイティブ・スピーカーの方たちのお話を伺える機会は少なくなっているし、自分がまだまだ会話できるレベルにないためお話を伺いに行く勇気もありません。なので、こういう機会を設けて頂けるのは本当にありがたいです。ぜひ継続をお願いいたします。(30%)

・だんだん分かってきたから良い体験になります。だから続けてほしいです。(10%)

5. まとめ

以上、今年度も実技との関連で「しまくとぅば講話」を取り入れ、「琉球語」関連授業を行ってきた。このように、しまくとぅばのみで話される講話を聞く機会を設けることにより、受講生は学びによって身につけたウチナーグチを聞き取る能力の度合いを測る実践の場であり、更なる向上を誓う機会にもなることであろう。以上のことを踏まえ、今年度の「琉球語I・II」では「しまくとぅば講話」の機会を増やすことができなかったことが最も大きな反省点である。次年度は前期3回、後期3回の講話を実施できるようにペース配分に最も気をつけて取り組みたい。

4 East-West Center 研修

4-1 研修概要

令和元年6月28日から7月2日の日程で、ハワイへ研修を行った。ハワイ East West Center (以下 EWC) にて6月28日から29日に行われる「Retrospective Symposium: “Inside Out: 15 Years of Exhibitions at the East-West Center Gallery”」に参加するためと、次年度計画している「金武良章の琉球芸能指導ワークショップ」の講師打合せおよび、9月に行った「シマ、のこことば教育の未来」シンポジウムの打合せが目的である。

EWCの研究発表はEWCのギャラリーにおける展示15周年を記念したもので、これまで展示に関わりのあった団体を中心に声をかけ、発表者を募るものであった。本学は平成28年9月25日から翌年1月8日の日程でEWCとの共催によるイベント「綾虹—芸大のお宝展 in ハワイ—」を開催した。この事がきっかけとなり本学音楽学部、小西教授から本研究会に発表の打診があった。

そこで、本事業は沖縄県立芸術大学開学30周年記念事業であった「ハワイ大学等交流事業」の一部として行われた「しまくとぅばプロジェクト」が嚆矢であるということ、これまで本事業で取り組んできたハワイ大学等との関わり、そして展望を発表することとなった。本研究会からは鈴木が代表して研修に参加することが決まった。ハワイ研修のスケジュールは以下の通りである。

沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業ハワイ研修行程表

日付 (JP / US)	内容	宿泊先	備考
6月28日 (JP)	12:10 那覇 — 14:45 成田 20:40 成田 — 9:20 ホノルル	機内泊	GK304 JL780
6月28日 (US)	9:30ホノルル空港で小西教授と合流。ホノルルAPからホテルへ。14:00HTLチェックイン、15:00EWCにて展示見学。 16:00～17:30シンポジウムに先立ってチャントとギャラリー解説、基調講演。18:30～20:00シンポジウムsession I (シンポジウム日程詳細は28頁参照)	Lincoln HALL	
6月29日 (US)	9:00～10:00 シンポジウム開催に先立ってチャント、そしてシンポジウム session II 10:00～11:00 シンポジウム session III 11:00～11:30 パフォーマンス① 11:30～12:30 シンポジウム session IV (鈴木発表) 13:30～14:30 シンポジウム session V 14:30～15:00 パフォーマンス② 15:00～16:15 シンポジウム session VI 16:30～17:30 シンポジウム session VII 17:30 パフォーマンス③ (比嘉准教授による琉球舞踊。解説：鈴木)		

日付 (JP / US)	内容	宿泊先	備考
6月30日 (US)	13:00LincolnHall のロビーにて仲宗根芳江先生と次年度の企画について打合せ。 16:00LincolnHall のロビーにて聖田先生と打合せ。(その後ディナーミーティング 2 H)	Lincoln HALL	GK304 JL780
7月1日 (US)	8:00 Lincoln HALL チェックアウト空港へ。 11:10 ホノルル—14:30 成田	機内泊	JL785
7月2日 (JP)	14:30 成田空港着 19:00 成田—22:05 沖縄那覇		

4-2 研修内容報告

【6月28日】

日本時間12時10分に沖縄から成田へ出発。その後成田空港から20時40分、ハワイホノルル空港に向けて出発。

ハワイ時間9時20分にホノルルへ到着。先にハワイ島で調査を行っていた小西教授とともに、ホノルル空港からハワイ大学へタクシーで移動。30分程でハワイ大学に到着。Lincoln HALLへのチェックイン時間が14時だったため、ハワイ大学構内の食堂にて食事、そしてアタガイの発表内容の確認を行った。

14時にチェックインを済ませ、15時前にEWCへ到着。シンポジウムが始まる前に、展示内容を確認、そしてEWC学芸員のDr.Michael Schuster氏らと挨拶を交わした。シンポジウムが始まると、最初にチャントが行われ、その後、Schuster氏によるギャラリー解説が行われた。その後基調講演、そしてsession Iが行われた。この日は参加者の挨拶と交流を兼ねて夕食会が同会場で行われた。参加者はスタッフを合わせて約40名程で、学芸員、研究者が中心だった。基本的にそれぞれの発表者のみが参加しているシンポジウムであった。

【6月29日】

8時にホテルを出発、8時過ぎ、EWC到着。この日は発表があるため、発表内容の最終確認を行った。9時、シンポジウム開催に先立ってチャントが行われた。そしてシンポジウム session II、session IIIが行われ、11時から発表者によるパフォーマンス(その①)が行われた。パフォーマンスは各国の民俗芸能で、韓国やアラスカ、インドなど様々なものを見ることができた。

11時30分からのシンポジウム session IVにおいて、鈴木による本事業の発表を行った。スライドと読み原稿は、本研究会の高良教授に英訳していただき、英語による発表を行った。そして、質問に対する回答者として登壇したのは鈴木と比嘉で、通訳として本学美術工芸学部の仲本教授に御助力いただいた。発表は本学とEWCとのつながりから始まり、ハワイ大学等交流事業、そしてしまくとぅば実践教育プログラム開発事業について紹介した。また発表内容にはハワイ大学との連携や、ハワイ語の復興プロセスとしまくとぅば教育の現状などを盛り込んだ。会場からはしまくとぅばの現状について多くの質問が寄せられ、有意義なものとなった。

午後もシンポジウム session V～VIIが行われた。Session Vでは本学の小西教授による、沖縄の芸能の現状と三線にまつわる展示会について発表があった。また、夕食前のパフォーマンスでは、比嘉准教授による琉球舞踊「本貫花」が披露され、鈴木が舞踊解説を行った。シンポジウム発表をきっかけに、休憩時間やディナータイムにしまくとぅばに対する質問や、少数言語と教育についての意見交換ができたことは、本研修の大きな収穫であった。

【6月30日】

午前中はハワイ大学内を散策し、午後からは次年度の企画である「金武良章の琉球芸能ワークショップ」について仲宗根芳江先生と、お弟子さんの儀間さんを交えてミーティングを行った。本研究会から

は鈴木と比嘉が参加した。次年度計画の進め方や、実際にワークショップを行う作品内容、日程調整(案)が行われた。

16時からは聖田京子先生、木田先生と9月に行う「しまのことは教育の未来」シンポジウムについて打合せを行った。その後、本学の仲本教授も一緒に、聖田先生・木田先生と夕食をいただいた。

【7月1日】

8時、Lincoln Hallをチェックアウトして空港へ出発、11時10分、ホノルル国際空港から成田空港へ出発。7月2日の14時30分に成田空港へ到着。ターミナルを移動し19時の便で那覇国際空港へ向かった。22時5分、那覇空港に到着し、全日程を終了した。

East-West Center Arts Program presents

Retrospective Symposium: “Inside Out: 15 Years of Exhibitions at the East-West Center Gallery”

East-West Center Gallery, Dining Room, and Lobby, EWC Burns Hall, Honolulu, HI
June 28 & 29, 2019

Participation by invitation only; attended by 30-35 past exhibition collaborators

Updated Tentative Symposium Agenda:

Friday, June 28, 2019:

3:00 p.m.:

Arrival, snacks & drink (dining room)

4:00-5:00 p.m.:

Welcome with Opening Hawaiian Chant and Ki'i Performance, Aulii Mitchell (hula mound)

Welcoming Remarks by EWC President Richard Vuylsteke

Gallery Exhibition Guided Tour by EWC Gallery Curator Michael Schuster (gallery)

5:00-5:30 p.m.:

Keynote Speaker: Richard Kennedy, EWC Arts Ohana (Arts Programs sponsors) Chair and Former Director of Smithsonian Folklife Festival

Performance of “Wisdoms of the East and West” live music by I Made Widana and Annie Reynolds (lobby)

5:30-6:30 p.m.:

Dinner break (dining room)

6:30-8:00 p.m.:

Session I: All participants introduce selves and previous work with East-West Center Arts Program followed by open dialogue (lobby)

8:00 p.m.:

Adjourn

Saturday, June 29, 2019:

8:30 a.m.:

Arrival, breakfast provided (dining room)

9:00-10:00 a.m.:

Chant/Performance by Chuna McIntyre (hula mound)

Session II: EWC Arts Program Panel and Reflection on Past Exhibitions (lobby)

10:00-11:00 a.m.:

Session III: Individual Presentations Followed by Q&A (lobby)

- 1) “Dancing in Stillness: Exhibiting South and Southeast Asian and Korean Puppets/Masks” by Kathy Foley
- 2) “Ainu Treasures: A Living Tradition in Northern Japan, January 20—May 5, 2013” by Vince M. Okada-Coelho
- 3) “A Retrospective on the Japanese Temple Architecture in Hawai‘i Exhibit” by Lorraine Minatoishi
- 4) “How Unforgettable Exhibition Moments Happen” by Neida Bangerter

11:00 a.m.-11:30 p.m.:

Performances (front lanai)

Iban Dance by Edric Ong and Senia Juga

Sundanese Mask Dance by Kathy Foley

Korean Pansori Singing and Drumming by Chan E. Park

11:30-12:30 p.m.:

Session IV: Individual Presentations Followed by Q&A (lobby)

- 1) “Cultural Exchange between Hawai‘i and Okinawa: OPUA Shimakutuba Practical Education Project” by Kota Suzuki, Izumi Higa, and Masaru Nakamoto
- 2) “Archives and Friendship: An Update on S Ann Dunham’s (Barack Obama’s Mother and EWC Alum) Papers” by Bronwen Solyom
- 3) “Bringing the East-West Center IMIN Historic Murals to Life” by Ben Wood
- 4) “Title TBA” by Gita Kar

Saturday, June 29, 2019 (cont.):

12:30-1:30 p.m.:

Lunch

1:30-2:30 p.m.:

Session V: Individual Presentations Followed by Q&A (lobby)

- 1) “The Social Life of Teak” by Virginia Henderson & Tim Webster
- 2) “AHPADA Crafting Links” by Edric Ong
- 3) “Recent Exhibition and Events of Okinawan Traditional Music and Dance” by Junko Konishi
- 4) “Korean Storytelling in Pansori: Song of the Water Palace” by Chan E. Park

2:30-3:00 p.m.:

Performances (front lanai)

Balinese Mask Dance by Hunter Kaye

Puppetry Scenes by Michael Schuster, Gayle Goodman, & Layla Schuster with live music by I Made Widana

3:00-4:15 p.m.:

Session VI: Individual Presentations Followed by Q&A (lobby)

- 1) “SIT Study Abroad Programs” by Lu Yuan
- 2) “Portrait Series of Pearl Harbor Survivors” by Marco Garcia
- 3) “Recent Exhibition: Yua: Henri Matisse and the Inner Arctic Spirit” by Chuna McIntyre
- 4) “Where Has All the Good Art Gone” by Jacquelyn Lewis-Harris

4:15-4:30 p.m.

Break

4:30-5:30 p.m.:

Session VII: Dialogue (future of EWC Arts Program work and curatorial work more generally)

5:30-7:00 p.m.:

Okinawan Dance Performance by Izumi Higa

Dinner

7:00 p.m.:

Adjourn

Symposium Description Overview:

For the past 15 years the East-West Center Gallery has been under the curatorial direction of Dr. Michael Schuster. The East-West Center Arts Program team wants to take this opportunity to look deeply at our previous collaborations – the successes, the innovations, and the challenges in presenting Asia Pacific arts to diverse audiences. We are seeking the perspective of past exhibition collaborators of the EWC Arts Program to help us with this evaluation. We are planning a symposium in order to exchange viewpoints and we will reflect on this dialogue to inform our future EWC Arts Program endeavors. The symposium is scheduled for Friday, June 28 and Saturday, June 29, 2019 at the East-West Center in Honolulu, Hawai'i. Session formats will include keynote speakers, panel discussions, breakout sessions, and paper or project presentations. In the introductory session, all participants will be asked to briefly describe their past project experience working with East-West Center Arts Program.

This symposium is presented in conjunction with the exhibition entitled “Inside Out: 15 Years of Exhibitions at the East-West Center Gallery,” from May 19 to September 8, 2019. We are inviting symposium participants to share their experience and wisdom with us and invite them to reflect on your past collaborations with us and to also share their current interests and work.

East-West Center will have formal presentations as well as informal discussion panels. This is not intended to be an academic symposium but rather, an opportunity to share recollections, ideas, network, and develop future plans. We look forward to this exciting event, in order to reflect on our past experience and create the potential to manifest future collaborations.

Cultural Exchange between Hawai'i and Okinawa: OPUA Shimakutuba Practical Education Project

KOTA SUZUKI (Okinawa Prefectural University of Arts (OPUA))

1. Cultural exchange project between EWC and OPUA in 2016

First of all, 2016 was a special year, marking our university's 30th anniversary and we were so excited to celebrate this occasion by undertaking a project to build a rainbow bridge between Hawaii and Okinawa through cultural exchanges. Cooperation from the East West Center and Hawaii United Okinawa Association made it truly successful.

The highlights in the project included the exhibition of Okinawa's traditional cultures, dance and music performance, along with a variety of arts and music workshops.

From these cultural exchange activities, another topic of study developed. That is the issue of language preservation. We named it then 'Shimakutuba project'. Shimakutuba is the term for Okinawan regional languages, but the UNESCO listed six variations of them as endangered languages in 2009. The Hawai'ian language revitalization as a successful model, some of us first visited at UH Hilo and Hawaiian immersion schools to observe their language programs. Among them was a Hula class conducted in the Hawai'ian, of course. But this observation led us to a new project in which we explored the use of Shimakutuba in the teaching of traditional performing arts.

2.1 OPUA Shimakutuba project in 2017: a visit to the island of Hawai'i

A new research team was organized in 2017 in order to develop a Shimakutuba practical education program. The team includes Ryukyuan performing arts specialists, a historian and some researchers in literature and languages including Shimakutuba. The team members visited the island of Hawaii to observe their language programs from a variety of perspectives.

At the preschool, Punana Leo, and the immersion and charter school, Nawahi, it was amazing to see teachers and children all speaking the Hawaiian in and out of classrooms. Furthermore their native traditions and culture were taught along with the usual subjects in school. They showed us how important it is to link cultural and traditional aspects of their native land with the language. Through such activities, children will establish their identity as Hawaiians, take pride in learning the language and become aware of their responsibility to preserve its culture and language.

We were also allowed to sit in some classes in the Hawaiian program at UH Hilo that were ranging from introductory to advanced language and culture courses. The faculty members there were so generous in sharing their experiences through the Hawaiian language revitalization movement and in current practices. Their respect and passion for Hawaiian culture and commitment to the language preservation was contagiously powerful and encouraged us to develop our own language and culture program. I will introduce some of our current practices later on.

2.2 OPUA Shimakutuba project in 2017: Recurrent Education Workshops & Lectures in Honolulu

Another major program we endeavored in March, 2018 was Okinawan culture recurrent education workshops and lectures in Honolulu. We received many requests to hold workshops and lectures on Ryukyuan performing arts. Especially from the former exchange students from Hawaii to OPUA.

To respond to their request, we were able to offer a variety of workshops and lectures. The dance workshops included not only the lessons on particular dance pieces, but also hands on workshops in costume dressing and hair and makeup. There are a lot of practitioners of Ryukyuan performing arts in Hawaii, but unfortunately not enough professional dressers, makeup artists or hair stylists for the Ryukyuan dance. We were also able to add a costume

dressing session for Sanshin workshops as well. It was a great opportunity to fill in some missing elements in the learning of traditional arts in Hawaii.

The intensive program also included nine lectures by three of our team members, covering topics such as the study of dance song lyrics, the history of Ryukyuan performing arts, and the history of the Ryukyus. These lectures were open to public and overall we had the total of 112 participants.

3. OPUA Shimakutuba project in 2018: visits to UH Hilo and Manoa

Last year, some of us made another visit to Hawaii. It was a chance to show the researchers in Hilo and Manoa what we had been doing and creating as a part of our Shimakutuba practical teaching project. We were also able to learn more about the overall curriculum design for the Hawaiian language and culture at UH Hilo. The information obtained at Hale Kuamo was also really valuable in creating teaching materials including language textbooks. We also came to UH Manoa to learn about the Okinawan language courses offered by the department of East Asian Language and Literature. We met Professor Stewart Carry and a Professor emeritus Kyoko Hijirida and they generously shared with us the course design and teaching methods used in Okinawan language and culture course and a new Elementary Okinawan course. The structured teaching materials created by Professor Carry and the Hiririda-sensei's textbook with rich cultural elements were really inspiring for our future endeavor.

4.1 Shimakutuba project at OPUA

Based on the researches we conducted in Hawaii, we have been incorporating some Shimakutuba in our teaching of traditional performing arts. Starting October 2017, three teachers in the Ryukyuan performing arts major have been inviting distinguished senior performers to some of their classes. These performers are not only the experts in their fields but they are also fluent speakers of Shimakutuba and they had acquired the arts from their masters in Shimakutuba.

Students are beginners of Shimakutuba, but through the body movements in dance and Kumiodori or the sanshin performance, they have started understanding basic Shimakutuba. Teaching students together with the masters, our teachers have also been able to collect invaluable instructional expressions in Shimakutuba. We are compiling these expressions from each course and eventually planning to publish a performing arts terminology book in Shimakutuba.

Last year we published a booklet with CD. It contains useful classroom expressions in Shimakutuba. Those teachers who are not accustomed to Shimakutuba can practice and use some of these expressions in their instruction.

4.2 Shimakutuba project at OPUA

As a part of the project, we hold special lecture in Shimakutuba. Featuring two distinguished speakers in the field of traditional Okinawan performing arts every year, we ask them to share their experiences in Shimakutuba.

The recordings and data obtained through these lectures will become invaluable language resources. The students studying traditional performing arts get more chance to hear the language and also are inspired by the expressiveness conveyed by it.

4.3 Shimakutuba project at OPUA

We will continue using Shimakutuba in performing arts courses and lecture series. Now for this year we are planning a language and culture symposium with special focus on island regions such as Hawaii and Okinawa. It is schedule to be held in coming September and we are happy that some members from Manoa and Hilo will be joining us.

What we would like in the future is to expand our study of performing arts and the language in use in the regions other than Shuri and Naha. For instance, Yaeyama and Miyako islands are also rich in the tradition of performing arts. It will be interesting to find out the way their traditions have been handed down from generation to generation. We hope we can also provide them a model of Shimakutuba practical education for their versions of native tongue.

These ongoing projects all stemmed from the exchange project we had held with East West Center in 2016. I would like to appreciate such an opportunity to have worked collaboratively and hope that our cooperative relationship continues in the future.

Thank you for listening

5 シンポジウム「〃シマ、のことは教育の未来～ olelo Hawaii・しまくとぅば～」

5-1 「〃シマ、のことは教育の未来～ olelo Hawaii・しまくとぅば～」概要

令和元年9月10日にこれまで本事業が行ってきたハワイ調査と、継続している実践授業の報告を兼ねたシンポジウム「〃シマ、のことは教育の未来～ olelo Hawaii・しまくとぅば～」を開催した。これは、平成28年度より行ってきた本事業で得た、ハワイにおけるハワイ語教育の現状と、それからヒントを得て行ってきた本事業における実践授業を、県内のみなさんに知っていただき、またしまくとぅばの実践教育について考える機会を問う事を趣旨として開催したものである。第1部は各登壇者による報告、そして第2部にシンポジウムという内容で行われた。登壇者は以下の通りである。

【ハワイ側】

聖田京子 (ハワイ大学名誉教授)

Keiki Kawai'ae'a (ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部学部長)

大原由美子 (ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部准教授)

【沖縄側】

比嘉いずみ (沖縄県立芸術大学音楽学部准教授)

仲原穰 (沖縄県立芸術大学非常勤講師)

鈴木耕太 (沖縄県立芸術大学附属研究所専任講師)

シンポジウムはハワイと沖縄の言語教育に主眼を置いたもので、それぞれハワイ・沖縄交互に発表するというスタイルを取った。先ず、鈴木が趣旨説明とこれまでの本事業におけるハワイ調査、そしてしまくとぅばによる実践教育事例を紹介して、各報告を行った。

報告①: Keiki Kawai'ae'a先生「ハワイにおける文化の伝承とハワイ語の教育について」。ハワイがこ

れまでどのような歴史を過ごし、どのようにしてハワイ語復興を果たしたのかをご発表いただいた。発表の中に、Nawahi、punanaleoの活動、そしてハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部の話などが盛り込まれ、たいへん興味深いものであった。

報告②：比嘉いずみ先生「県立芸大の琉球舞踊教育におけるしまくとぅば」。これまで2年間行ってきた「舞踊実技」の取り組みを通して、学生の受講前・受講後の理解や表現の変化などの報告、琉球舞踊を教える際の「しまくとぅば」の大切さについて報告があった。

報告③：大原由美子先生「大学におけるハワイ語教育」。ハワイにおけるハワイ語教育の現状や、大学教育で言語を教授することの意義、疑問や発展的な考えについて言語学者の視点から報告していただいた。本報告にはしまくとぅばや稀少言語についても共通する事例が多くあり、本事業においてもたいへん参考となる報告であった。

報告④：仲原稷先生「沖縄県内の大学における「琉球語」科目の現状」。沖縄県内大学の「琉球語」関連科目の現状と問題点について報告された。県内大学において現状の琉球語科目では、言語をはなすことのできる人材を育てる発展的な授業カリキュラムが構築されていないことが示唆され、今後のしまくとぅばを高等教育で教授する問題について提示した報告であった。

報告⑤：聖田先生「ハワイ大学における『うちなーぐち』の講義について」。ハワイ大学で現在も続いている「うちなーぐち」の講義について、講義が始まった頃のお話から、現在の発展した科目となるまでのことなどをお話しいただいた。ハワイでのしまくとぅばに関係する活動が、ハワイ大学マノア校日本語コースのみならず、県系人を中心として、ラジオや新聞、そしてコミュニティーにおける学習など多岐にわたり、そしてそれぞれが深く学ばれているといったことが報告され、沖縄にとっても刺激となる報告であった。

第2部ではコーディネーターを鈴木が行い、シンポジストとして、上記の登壇者に本研究会から高良則子教授と西岡敏教授を加えた7名でコメントと質疑応答を行った。総合司会は麻生准教授に務めていただいた。

シンポジウムでは、主にハワイの事例について多くのことが寄せられた。また、本事業の取り組みについても意見や提案が寄せられ、予定時間を大幅に超過するほど、活発な議論が行われた。各登壇者の発表内容については、以下に掲載する。

5-2 沖縄県内の大学における「しまくとぅば教育」の現状と提言

仲原 稷
(沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員/
沖縄県立芸術大学非常勤講師)

9月10日に開催された沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業主催のシンポジウム「“シマ”のこゝろ教育の未来」で登壇されたハワイ大学(ヒロ校)ハワイ語学部のケイキ・カヴァイアエ先生や大原由美子先生は第2言語としてハワイ語を身に付けた方々である。ケイキ先生が強調されたのは、講義の内外など日常生活のあらゆる場面でハワイ語を使うことの重要性であった。また、大原先生はイマージョン・スクールで幼児の頃からハワイ語を身に付けた学生と学部に入學してから初めてハワイ語を学ぶ学生の語学力の差を埋めるため、ハワイ語を中心に学ぶ学生とハワイ文化の一つとしてハワイ語を学ぶ学生に合わせて別のカリキュラムがあること、さらに教職課程で学んだ学生は、卒業後にイマージョン・スクールの教職についていることなども紹介された。さらに学びたい学生のための修士課程や博士課程も用意されている。ハワイ大学のハワイ語学習の取り組みから琉球語の継承活動として学べることは、高等教育機関である大学のなかに「様々な選択肢」が用意されている点である。

これに対して、沖縄県内の大学や高等専門学校で「しまくとぅば」や琉球語について講じる科目(これらを「琉球語」関連科目群とする)がどの程度設置されているのかについて各科目のシラバスの講義計画等でその内容を分析してみると、ほとんどの大学には共通科目として「沖縄の言語」「琉球語基礎」「沖

縄方言」「琉球諸語入門」などと称されるさまざまな名称の科目が設置されている。学部や学科、コースなどにとらわれず、すべての学生が受講できる共通科目では、「琉球語」関連科目群は「半期のみ」の設置に留まっている。ちなみに、内容をみても「入門」(文化の一つとして表現をいくつか教える)、「概説」(琉球語の概略を教える)、「語学」(言語習得を目的にする)など科目や担当教員によってばらつきがある。これは、各大学の外国語教育のほとんどの科目にIの他にIIも用意されており、基礎から次第にレベルを上げ、語学としての一定の内容を有しているものと対照的である。

外国語教育では、入門のIで基礎を学んだ学生が、IIで応用を学ぶことで、ある程度の語学力を身に付けることができる。しかし、共通科目の「琉球語」関連科目群ではIの単位を獲得してもIIに進むことはできない。

さらに外国語は週2回の講義があり、IIまで受講すると「琉球語」関連科目群の4倍にあたる60回の講義を学ぶことができるが、琉球語関連科目群は期末試験も入れて15～16回しかコマ数を確保できない。共通科目ではなく、ある「学科」や「コース」の学生のみが受講することができる専門科目に「琉球語」関連科目群でIの他にIIを開設しているのが「沖縄国際大学」と「沖縄県立芸術大学」である。この専門科目は限られた学生しか受講できないのであるが、I・IIを合わせて合計30～32コマを確保することができる(期末試験込み)。しかし、それでも他の第2外国語の半分のコマ数しか確保できないのである。

共通科目のなかには、例えば沖縄国際大学では「沖縄の歴史I」「沖縄の歴史II」がある。Iを前近代、IIを近現代としたものだが、両方を受講することでより詳しい沖縄の歴史を学ぶことができる。さらにI・IIともに5クラスずつ設置されているので、多くの学生が受講できる。なお、この「沖縄の歴史」も「沖縄の言語」と同じく沖縄科目群なので、同じグループに属していることになる。つまり、「沖縄の言語II」の設置も時間をかければ可能なのではないだろうか。

もし、現状の大学運営において、科目を増やすことができないという状況にあり、各大学の共通科目に「琉球語II」の設置が難しいのであれば、一部の大学の「共通科目」に「琉球語II」を設置したうえで、各大学においてIの単位を取得した学生であれば、他大学であっても受講を可能とし、「単位の互換」を認める協定づくりを前向きに考えていくべきではないだろうか。また、沖縄県立芸術大学や沖縄国際大学など、すでに専門科目などで「琉球語」関連科目群にI・IIが設置されている大学において、専門的に「琉球語」を学びたい学生の選択肢の一つとしてIII・IVの設置も考えていくべきなのである。

5-3 Intergenerational Transmission of Hawaiian Culture and Education of Hawaiian Language – Okinawa Prefectural University of Arts –

Keiki Kawai'ae'a (ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部学部長)

P1



P2

Oli Aloha

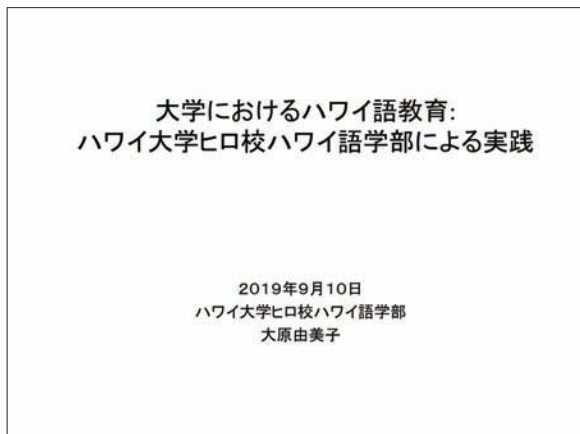
Onaona i ka hala me ka lehua
 He hale lehua nō ia na ka noe
 'O ka'u no ia e ano'i nei,
 E li'a nei ho'i o ka hiki mai
 A hiki mai nō 'oukou,
 Hiki pū nō me ke aloha
 Aloha ē, aloha ē, aloha ē



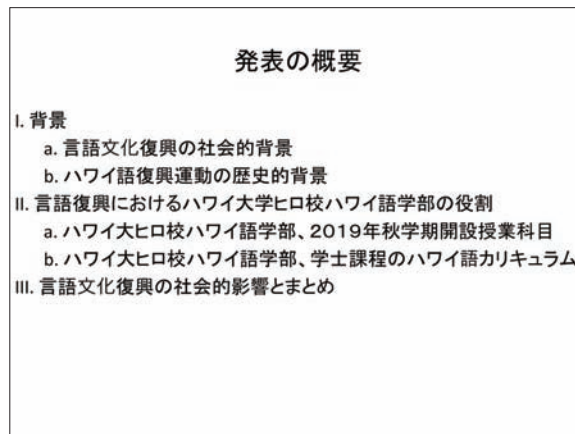
5-4 大学におけるハワイ語教育：ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部による実践

大原由美子（ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部准教授）

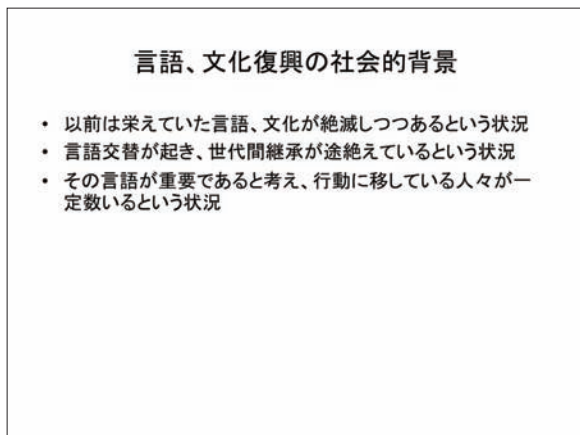
P1



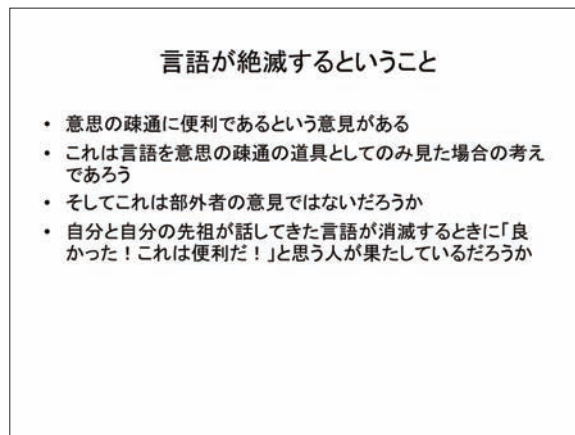
P2



P3



P4



P5

言語が絶滅するということ

- 意思の疎通に便利であるという意見がある
- 日本語の場合
 - 英語の公用語化
 - 小淵首相設立の私的諮問機関「21世紀日本の構想」懇談会」が2000年に発表した言語計画
 - 日産、楽天、ユニクロなど
 - イマージョン教育をする学校が増えてきている
- もしこの動きが拡大し継続すると、、、

P6

言語が絶滅するということ

- 意思の疎通に便利であるという意見がある
- もしこの動きが拡大し、継続すると、、、
 - 自分の子と親が異なる言語を話す「言語交替」
 - 日本語を話す人がいなくなる
 - 日本語で書かれた文献を読める人がいなくなる

P7

消滅危機言語の状況

- 現在話されている約7,000の言語のうち半数は今世紀中に消滅すると言われている(e.g., Crystal 2005, UNESCO 2010)
- 約7,000の言語の約半数は話者数が6,000人以下の言語、いわゆる少数民族の言語である(Harrison 2008)
- 何百年の間に培われた民族の知識は言語に組み込まれていて、言語が消滅してしまったら、何を失ったのかさえ想像をできない

P8

ハワイ語の歴史的背景

- ハワイ唯一の先住民言語
- ポリネシア語派でマルケサス語、トンガ語、マオリ語、サモア語、タヒチ語などに近い
- 1978年、英語と共にハワイ州の公用語に指定される
- Benton (1981)は、ハワイ語がポリネシア言語の中で一番最初に消滅するだろうと予想した
- 消滅危機言語

P9

ハワイの歴史

12世紀頃には族長による土地の支配と統制による階級社会が作られていた

1795 カメハメハ大王1世がハワイ王国を統一

1893 アメリカ人移住者らが米国海兵隊の支援を得、ハワイ王朝を転覆させる

1896 **英語以外での教育が法律で禁止される**
(沖縄では1880年に義務教育が設定された)

1898 米国に併合

1959 米国の五十番目の州となる

1993 アメリカ合衆国議会はハワイ併合の違法性を認める

P10

ハワイ語の歴史

- ハワイ王朝の政府、宗教、教育、商業、メディア、および異民族間のコミュニケーションも全てハワイ語を介して行われていた(Wilson 1998)
- 1834年 ハワイ語で書かれた新聞発行(日本では1862年に初めて発行)、1900年頃のハワイ語の新聞は100以上(松原2006)
- ハワイ先住民は1890年頃まで数の上でも権力の上でも多数派であった

P11

ハワイ語の歴史

- 母語話者数は1778年頃の300,000から1900年頃の37,000と激減した(Wilson 1998)
- 復興運動の始まった1983年には18才以下でハワイ語を話すのは35人以下であった(Wilson 1998)
- 現在、話者は5,000(Kapono 1995)から10,000人('Imiloa)と推定される
- しかし実際に日常的にハワイ語を使用しているのは、2,000人程度だと思われる(大原、サフト2014)

P12

ハワイの先住民言語ーハワイ語

- 先住民言語復興運動の先端に立つ言語(Grenoble and Whaley 2006)
- 言語復興運動の成功例4つうちの1つ(Stiles 1997)
- 言語復興運動が非常に成功している例(松原2006)
- 話者が増加している先住民言語(lokepa-Guerrero 2016)
- 第二言語話者の増加している先住民言語(Warner 2001)

P13

言語交替(世代間継承の途絶え)の主な原因

- 同化政策
- **教育**
- 差別
- 言語の負荷価値の変化

P14

言語復興に関わる主な組織: 教育

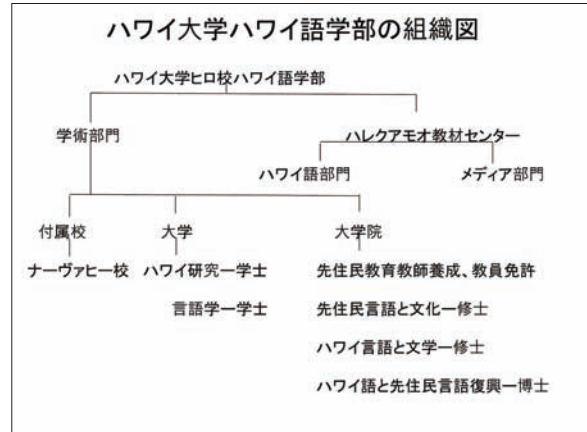
- プーナナレオ保育園
ハワイ州に14
- ハワイ語イマージョン校
ハワイ州に21
- ハワイ大学 (10キャンパス)
カハカウラオケエリコラニ、ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部
ハワイスイアーケア、ハワイ大学マノア校ハワイ語学部
- 語彙委員会
- ハワイ大学ヒロ校ハレクアモオ教材センター

P15

**カハカウラオケエリコラニ:
ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部**

- 1982年にハワイ大学ヒロ校にハワイ研究プログラムが設立された。1896年に法律で英語以外での教育が禁じられて以来、ハワイ州で94年ぶりにハワイ語で講義が行われるようになった
- ハワイ語学部は1997年に設立され、19世紀の王女でハワイ語を重要視したルース・ケエリコラニにちなみ命名された
- 学士、修士、博士過程でハワイ語、言語学、言語習得、先住民文化復興の授業がある
- 現在の学生数約200人 (ハワイ大学ヒロ校全体は3,600程)

P16



P17

ハワイ語学部の講義リスト

- LING (言語学) 7
- HAW (ハワイ語) 3
- HWST (ハワイ研究) 1 5
- KIND (先住民研究) 1
- KHWS (ハワイ語を介してのハワイ研究) 4
- KED (ハワイ語を介しての教育学) 5
- KHAW (ハワイ語を介してのハワイ語) 1 0

----- 合計 45 (2 3)

P18

**カ・ハカ・ウラのハワイ語カリキュラム
(学士ハワイ研究過程)**

区分・教科	1年	2年	3年	4年
テキスト	NK 1 (L1-20)	NK 1 & 2	新聞、雑誌等	新聞、雑誌等
習得語彙数	1000	1000	2000	2000
発音	音声、イントネーション、語彙レベル重視	発音の向上、発音重視	1、2年時習得課題の発音の更なる向上、スピーチレベル	3年時習得課題の発音のさらなる向上、物語、文学レベルの発音
スピーチ	段落の暗記	即興、家系に関するもの	書き方の技法	日常会話(家庭、学校)公的なスピーチ、比喩、ことわざ、伝統的な詩歌、折構、文学

P19

記述、ハワイ語から英語への翻訳	母語話者の談話	母語話者の談話の理解	性別、音声、言い回し等多様な母語話者	母語話者のイントネーション分析、文獻の翻訳
文法	文法構造	1年時履修課題の復習	文法構造の強化	文法構造の強化
英語からハワイ語への翻訳	語彙と文	文と段落	形式による違い	文学、歌詞、ことわざ、及びまだ翻訳されていない表現の文化的側面
メディア	ウルカウの使用、2種の表記(カハコイ使用と無使用)に慣れる	文獻、資料の把握、ウルカウとネットを使った研究、調査	論文や記事を調査、分析する力の強化	ことわざと未発見の表現の調査力の発展
言語復興運動	運動の概要を学ぶ	運動における自分の役割、位置を模索	ハワイ研究の学生として運動に参加	運動における自己の責任のさらなる発展

P20

ハワイ語の歴史	歴史を学ぶ	歴史の知識を拡大	歴史についての論議、分析	歴史における自己の位置についての考察
ハワイ先住民教育哲学	ハワイ先住民教育哲学を学ぶ	課題や問題をハワイ先住民教育哲学の観点から分析	観点の分析	あらゆる面において十分な理解
大学における行事	歓迎式典、ピコへの参加	歓迎式典、ピコへの参加の増加	役割を担う	リーダーシップを担う
ハワイ語全般	ハワイ語の概論	ハワイ語イマージョン	ハワイ語イマージョン	ハワイ語イマージョン

(太原、サフト2014)

P21

言語、文化を失うことに伴う社会的損失

- 貧困
- 身体的、精神的疾患
- アルコール中毒
- 高校卒業率、大学進学率が低い

(Walsh 2018)

P22

言語を取り戻すことによる成果

- 学力が高い
- 問題に対する対処能力が高い
- 大学への進学率が高い
- 心身ともに健康である
- 自殺率が低い
- 薬物、アルコール中毒、うつ等が少ない

(Walsh 2018)

P23

**ユネスコ：
世界の消滅危機言語の地図 (2010)**

- 重大な危機—八重山語、与那国語
- 危険—八丈語、奄美語、宮古語、国頭語、沖縄語
- 極めて深刻—アイヌ語
- 極めて深刻—ハワイ語

ユネスコによる消滅危険度評価

- 脆弱 (Vulnerable)
- 危険 (Definitely Endangered)
- 重大な危険 (Severely Endangered)
- 極めて深刻 (Critically Endangered)
- 1950年以降に消滅 (Extinct)

P24

ハワイ語とウチナーグチの比較

	ハワイ語	ウチナーグチ
母語話者数	20人程度	95,000人程度
新話者数	2,000人程度	???
イマージョン教育	1983年に5人で開始	???
文献	多数	多数
表記法の標準化	確立	???
付加価値	良い方向に変わってきている	???
政府による援助	多少ある	多少ある
地域における活動	多少増えてきてはいる	多少増えてきてはいる
メディア	多少増えてきてはいる	多少増えてきてはいる

5-5 ハワイにおける「うちなーぐち」の教育について

聖田京子 (ハワイ大学名誉教授)

私のタイトルは『ハワイにおける「うちなーぐち」の教育について』です。

次の順序でお話を進めます。

1. ハワイ大学の日本語科における「沖縄の言語と文化」のコースについて
2. コースの文化教材の一つである「チャンプルーハンドブック」について
3. ハワイの地域社会における「うちなーぐち」の教育について

1. ハワイ大学日本語科における「沖縄の言語と文化」のコースについて

私はハワイ大学で40年間勤務しておりました。1970年から2010年までです。最初の10年間は、講師として日本語を教えていました。同時進行の形で教育学の博士課程を終え、助教授や准教授になったところで大学院生を対象にした日本語の教授法、教師養成のための教育実習やカリキュラム理論を専門内容とした講座を継続的に担当するようになりました。そういう訳で30年間は日本語学と教師養成のための日本語教育の分野だけに目を向けていました。沖縄語には一切関与してなくて、それは日本語科内のセラフィム言語学教授の専門分野でした。

ところが西暦2000年になって、夢にも考えつかなかった事が現実になったのです。その年は丁度ハワイの沖縄コミュニティーが移民100年祭を迎えていました。21世紀を迎える米国では少数民族を受け入れる多文化受容の風が、グローバル化に伴って強く吹き渡り始めていました。ハワイにおける沖縄県系の人口は約5万人で、日系人全体の約20%を占めています。毎年ハワイ沖縄連合会 (HUOA) の下で開催される沖縄まつりを中心に沖縄系と一緒に集まる機会が多く、団結心とか伝統文化の継承活動は盛んです。それが移民百年祭の年にはローカル沖縄の活動が新聞やラジオの電波にのってひととき目立つ

ていました。その追い風によってハワイ大学のアジア言語学科にも学生から「日本語科で沖縄の言語を教えてください」との要望や問い合わせが入るようになったのでした。

歴史的奇跡はその時期におこりました。ハワイ大学東アジア言語・文学科では台湾出身の学科長Dr. Y.C.Li 氏のリーダーシップと彼の指揮で台湾語と沖縄語のコース開設が提案され、それが職員全員一致で支持されたのでした。担当教員2人、即ち、専門のLeon Serafim 教授と沖縄出身の私が同僚から背中を押してもらった形でコース内容を創案し、学部長レベルを通過、一年かけて学長の許可を得たのでした。それからハワイ大学の日本研究センターの資金援助でもって沖縄へ赴き資料収集をはじめました。琉球大学等とのネットワークを形成するとともに、豊富な資料・教材を収集する事もでき、講座開講に向けて教材作成を中心とするカリキュラムの準備を順調に進める事ができました。

まず私は琉球大学で宮良信詳教授に沖縄語表記法の指導を受け、狩俣繁久教授にうちなーぐちテキストの使用について許可をいただきました。島袋盛世教授には沢山の資料を紹介してもらいました。それから沖縄国際大学では大城朋子教授に文化教材の使用許可をお願いしました。このように両大学の諸先生のご協力とご指導のおかげで、ハワイ大学における最後の10年間はセラフィム教授と私は一緒に日本語科内に「沖縄の言語と文化」IとIIのコース2つを設定する事ができました。カリキュラム内容の選定及び授業運営方法を編み出し、沖縄語の講座を担当しました。その体験は正にカリキュラム理論の実践への応用でもありました。ハワイ大学で初めて自分の故郷沖縄の言語と文化を海外の学生を通して世界へ向けて発信しているのだと思えた時、本当に感慨無量だった事を覚えています。それ以前の過去30年には夢想だにできなかった事でした。この準備期間中に私は自分自身のうちなーぐちの訓練につとめました。色々なテキストで文法を学ぶことから、「吾んねー猫どうやる」の本の朗読や、言葉や文化の辞典を読む等、どの本もとても役に立ってくれたと感謝で振り返っています。

さて、コース内容はポピュラーカルチャーを含む楽しい文化の学びと、聞き、話し、読み、書きの4技能の習得及び基本的な言語構造を理解するという沖縄語の初級レベルを設定しました。次に文化の部分の説明をしたいと思います。

2. コースの文化教材「チャンプルーハンドブック」について

コースの文化に関する内容は、最初のうちは沖縄国際大学大城朋子先生方のテキストをそのまま使用していましたが、ハワイ大学の学生たちのニーズや日本語のレベルに合うように、共同プロジェクトとして中身を改定していきました。そして最終的にできあがったのが、「ちゃんぷるーハンドブック」です。内容的には、沖縄の年中行事、諺、歴史上の人物、民話、琉歌（民謡を含む）と踊り、料理、世界遺産、ハワイの沖縄コミュニティー、世界のうちなーんちゅなどの領域を取り上げました。特に、沖縄の文化的特徴や価値観などを表すユイマール、イチャリバチョーデー、カチャーシーなどは、クラスのプロセスで実践による習得を目指しました。チャンプルーブックでは沖縄国際大学の尚真貴子先生に料理の章を担当いただき、琉球大学の仲程昌徳先生には琉歌の章のご協力をいただきました。この本はハワイ大学沖縄研究センターのウェブからどなたでもご覧になれます。

ハンドブックの特徴としては、各章の冒頭に自律的な学習が起こりやすいように、その課の「目標」と「学習成果」が明確に記載され、終わりには「タスクとディカッション」のコーナーで、学習者が教室で学んだことをベースにして討論及び展開ができるような工夫がされています。『チャンプルーハンドブック』全体の教育目標は、以下の3点になります。

- ① 沖縄の文化や習慣を理解し、その価値観や考え方を学ぶこと。
- ② 移民社会における沖縄文化の継承のプロセスを学ぶと同時に、他文化との比較をしながら沖縄文化の体験や実践を通して多文化社会への理解を深めること。
- ③ ハワイにおける沖縄県系人の行動様式や共同体を理解することで、コミュニティーの文化活動に気軽に参加し、かつ楽しめるようになり、ハワイの、ひいてはグローバルな多文化社会の中でより良く生きる糧とすること。

本テキストを用いて沖縄の文化を学ぶことになる学習者が、参加型の言語・文化の学習体験を通して、多様な社会の言語・文化を受容し柔軟に活躍できるような人材に育っていくことが願いです。

さて、この内容で基本的な学習が終わると、学生は各自のテーマを決めて研究し、ペーパーを書き、クラスで発表することになります。研究発表によってクラス全員が更に沖縄学の幅と深みを加え、沖縄理解に至ることを目指しました。学生の取り上げた研究テーマは、沖縄の基地問題や平和記念館、平和の礎、ひめゆり部隊、沖縄の祭り、行事、観光、エイサー、歌手、空手、三線、紅型、琉球ガラス、ハワイ沖縄センター、沖縄語の特徴、沖縄研究センター、ムーチャー（民話）、紅芋、基地問題から文化、ポップカルチャー、教育機関など多岐にわたっており、学生の沖縄に対する関心の幅広さが分かります。

コース全体の教育目標は以下のように設定しました。1) 沖縄語の言語研究上の重要性を理解すると共に、基本文法を習得し、初級レベルでのコミュニケーション実践をタスクで学ぶ。2) 沖縄文化を理解し、その価値観や考え方をクラスでの実践を通して学ぶ。3) ハワイにおける沖縄県系人コミュニティの文化活動に気軽に参加し、かつ楽しめるようになる。

当講座は開講以来、受講希望者がコースの定員を上回る状況で、当大学の学生の沖縄の言語や文化への関心の高さを示していました。かちゅーしーやユイマール、沖縄料理などの文化体験は大変好評で、講座終了後のコース評価では、沖縄語をもっと学びたい、沖縄文化をもっと知りたいという学生からの声が多く寄せられました。

ある学期のうちなーぐちクラスのメンバー



（私は毎学期、クラス初日にはさんぴん茶とクルザーターで学生と共に心から喜びの「カーリー！」を叫んでいました。講座が日本語専攻科目として学部内で継続的に設定されてから6年後（2010年）に、安

堵と充実した思いで、私は73歳でハワイ大学を退職しました。)

私の退職に続いてSerafim教授も一年後に退職しました。2人の後継者としてハワイ大学で沖縄学を牽引された方は、岩崎勝一教授でした。カリフォルニア大(UCLA)から転勤されたのですが、数年後にご家族の都合で再びカリフォルニア大学に戻られました。その後任は現在の担当者である Dr.Stewart Curryです。今帰仁の言葉の研究及び崎原貢先生のOkinawan-English Wordbook のEditorをされた方です。

Dr.Stewart Curryの大きな貢献は、日本語を全く知らない学生でも沖縄語を学ぶコースを立ち上げた事です。私とSerafim教授が設定したコースは中級レベルの日本語が分かる学生を対象にしました。学部のコア・コースとして毎学期定期的に開設できる点を優先しての設定だったので、日本語背景のない学生にはコースが取れなかったのです。だれでも履修できる初級クラスができたのは今年の春学期からです。それは将来への大きな進展に繋がるものと思います。今後の見通しとしては、その継続的な発展と、もう一つはdistant education(遠距離学習)の可能性も考えられます。仕事と両立できるようにどこにいても勉強できるというのは若者にとっては望む方向だろうと思われれます。コース開設に伴って学習者の数や講師雇用の課題があります。

ハワイ大学には沖縄研究センターが2008年に創設され、色々な分野の研究者が参加して活動が行なわれています。沖縄語や芸能関係の教授陣も所属していて、センターからの支援を受けることができます。

3. ハワイの地域社会における「うちなーぐち」の教育について

最後にハワイのうちなーんちゅコミュニティにおける沖縄語の教育状況について述べます。

- i) HUOAの沖縄語クラスの活動
- ii) 慈光園の沖縄語クラス活動
- iii) 放送局による沖縄語レッスン：KZOOとKNDI

i)HUOAの沖縄語クラスの活動状況

HUOAは、1990年にワイパフにハワイ沖縄文化センターを設立しました。同センターでは当初から三線と太鼓クラスを開設、沖縄語クラスは3年後に開設しています。言語は文化の基であり、ハワイで盛んな沖縄の伝統芸能や食文化、その他色々関わってくるので、大切なアイデンティティーの一つとされてきました。開設時からの18年間は月1回の夜間クラスで、教師はボランティアの村田さんだ一先生や宮里千恵子先生でした。その後2010年から聖田京子の担当となり、2015年から昼間クラスも追加されました。クラス参加者は昼夜とも10人前後の少人数でした。うちなーぐちを文化や伝統行事などを伝えながらローマ字を用いて指導しています。ハワイのニーズに合った英語とローマ字による『Rikka Uchinaankai』(琉球大学編)をテキストとして使用しています。参加者は三線や踊りを学ぶ方々が多いです。クラスへは中途参加も歓迎しているため、より上級のレベルにまではなかなか進めないという問題があります。昨年2018年から2世のSidney Kobashigawa氏が昼間のクラス担当を引き継ぎ、うちなーぐちを教えるウェブサイト使用で実際に言葉を使う場面が増え、教材も増え、Kobashigawa氏はクラス活性化に大きな貢献をしています。

クラスの他に、HUOAでは夏休み中に8歳から13歳の子供たちのための「わらびあしびプログラム」があって、沖縄の歴史、踊り、言葉、太鼓、武術、お花、料理、ゲームなどが紹介されています。1996年から開催されていて、現在では他の島でもおこなわれ、参加者はキャンプを選ぶ事ができます。そのプログラムはハワイ州の文化芸能基金からの支援が受けられるようになっています。

その他、HUOAでは毎年開催される沖縄フェスティバルにうちなーぐちのブースでしまくとぅばの紹介

につとめています。ブースではテキストやCD、辞書、参考書などの出版物をはじめ、ユネスコの危機言語についての説明などボランティアを動員した2日間のうちなぐち・クラス紹介などにつとめています。

ii) 慈光園におけるうちなぐち・クラス

Ukwanshin Kabudan (御冠船歌舞団)と称するグループは伝統的な琉球舞踊伝承活動に加えて月に2回、Eric Wada 氏とノーマン金城氏がうちなぐち及び文化を慈光園で教えています。パワーポイントに詳しい経過をしめします。

2009年：しまくとぅばクラスが、ノーマン金城氏のマノアの自宅で始まった。

担当者はMs. Michiko Sasaki. Facilitators: Eric Wada and Norman Kaneshiro

2010年：クラスを慈光園に移す。

2011年：2年間教えたMs. Sasakiが家庭の事情でお辞めになった後、Mr. Bairon FijaがSkypeを通して教えることになる。

2012年、Mr. Bairon Fija がSkypeを通して約1年間教えた。

2009年から現在に至るまで、Eric Wada and Norman Kaneshiro氏の2人がしまくとぅばの責任者、先生、Facilitatorsとしてクラスを進めている。

2016年：Mr. Brandon Ingがインストラクターとして、しまくとぅばに参加、現在に至る。

Ing氏は日本のJET Program で沖縄へ派遣され、英語を教えた経験があり、三線を習得し、歌を交え独自の境地を開拓して沖縄語を教えています。クラスメンバーは常時20人位参加されていて、主なテキストは「Rikka Uchinaa'nkai」です。YouTubeも駆使しています。Ukwanshin Kabudanは今年の沖縄フェスタブルから担当主任のJanice Shiiraさんを支援参加することになっています。

ii) 放送番組にみるうちなぐち教育

地域の日本語放送局KZOO1210では大きな沖縄イベントや機会あるごとに沖縄語レッスンを企画してきました。沖縄出身の宇良啓子アナウンサーの貢献ですが、その企画は後任のカリン広江アナウンサー担当に引き継がれています。現在は空手の照屋正一先生と三線のマサンルー先生が生のうちなぐち語りを担当、私がうちなぐちのレッスンと、各々月に15分の2回ずつ担当しています。

KZOOは毎日24時間の日本語放送局ですが、他にKNDI 1270Multi-Cultural Radio Station に12の言語でEthnic Programsというのがありまして、沖縄の部は金曜日の夜2時間の「琉球メロディー」の放送があります。担当の木田信子アナウンサーがうちなぐちの紹介や解説もメロディーと共に流してくれています。この沖縄アワーは今年で25年目を記録しています。



開催日 会場

9月10日(火)

18:00~20:30 (開場17:30予定)

那覇市ほしぞら公民館



報告 シンポジウム

● 報告

- Keiki Kawai 'ae 'a (ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部学部長)
「ハワイにおける文化の伝承とハワイ語の教育について」
- 比嘉いずみ (沖縄県立芸術大学(琉球芸能専攻)准教授)
「県立芸術大学の琉球舞踊教育におけるしまくとぅば」
- 大原由美子 (ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部准教授)
「大学教育におけるハワイ語教育」
- 仲原 稜 (沖縄県立芸術大学非常勤講師)
「沖縄県内の大学における「琉球語」科目の現状」
- 聖田 京子 (ハワイ大学名誉教授)
「ハワイ大学における「うちなーぐち」の講義について」

● シンポジウム

「シマ、のこことば教育の未来 ~olelo Hawaii・しまくとぅば~

総合司会 麻生 伸一

コーディネーター 鈴木 耕太 (沖縄県立芸術大学附属研究所専任講師)

パネリスト ハワイ側 大原由美子 (ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部准教授)

Keiki Kawai 'ae 'a (ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部学部長)

聖田 京子 (ハワイ大学名誉教授)

沖縄側 高良 則子 (沖縄県立芸術大学全学教育センター教授)

比嘉いずみ (沖縄県立芸術大学(琉球芸能専攻)准教授)

西岡 敏 (沖縄国際大学教授)

仲原 稜 (沖縄県立芸術大学非常勤講師)

主催 沖縄県立芸術大学附属研究所 問い合わせ ☎098-882-5615

沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業主催シンポジウム
シマ、のこことば教育の未来 ~olelo Hawaii・しまくとぅば~

趣 旨

沖縄とハワイ——2つの地域は「島嶼性」という共通する環境にある。この2つの地域では、独自の王国のもとに独自の文化が育まれてきた。その文化は「ことば」を中心に発展し、現在もなお、魅力あるものとして伝承されている。

現在、沖縄とハワイでは大学教育において、地域の「ことば」を用いて教育を行うカリキュラムやプロジェクトが行われている。シンポジウムではこの2つの地域における大学の文化教育について報告と、文化伝承のために「ことば」が果たす役割、そして言語教育の可能性について考えを深める。

パネリスト



聖田京子(ひじりだきょうこ)

ハワイ大学名譽教授

1937年名護市出身。1970年から2010年までハワイ大学において日本語教育を行い、多くの日本語教員を養成した。さらに、同大学にて「沖縄の言語と文化」に関する講座を立ち上げ、後年には同大学内沖縄研究センター長を務める。



Keiki Kawai'ae'a(ケイキ カヴァイアエ)

ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部学部長

ハワイ語復興運動に当初は親としてその後教員として関わり、ハワイ研究課程、教員養成課程など保育園から博士課程のハワイ語再導入の大きな役割を担ってきた。National Indian Education Association's Educator of the Year, Henrietta Mann Leadership Awardなど多くの賞を得る。



大原由美子(おおはらゆみこ)

ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部准教授

ハワイ大学マノア校にて博士課程修了。絶滅危機言語の研究、特に言語復興、また言語とアイデンティティについての研究を行っている。近刊にRoutledge handbook of Japanese Sociolinguistics (2019) (Patrick Henrich氏との共編集)がある。



鈴木耕太(すずきこうた)

沖縄県立芸術大学附属研究所専任講師

沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業プロジェクトリーダー。専攻は琉球文学・文化学。琉球文学や組踊を中心に大学での講義・研究を行う。



高良則子(たからのりこ)

沖縄県立芸術大学全学教育センター教授

シカゴ大学大学院言語学科博士課程単位取得退学。専門は英語学。現在は主に英語多説によるインプット量と言語習得との関係について研究を行っている。



比嘉いずみ(ひかいずみ)

沖縄県立芸術大学(琉球芸能専攻)准教授

沖縄県立芸術大学卒(1期生)同大学院修了。平成16年度(2004年)沖縄人材育成財団派遣国外留学(ハワイ)。国際交流基金海外派遣事業による「沖縄の伝統文化紹介」をはじめ、世界各国での公演に参加している。



西岡 敏(にしおかさとし)

沖縄国際大学教授

奈良市生まれ。沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員。専門は琉球語学・琉球文学。主な著作として「沖縄語の入門—たのしいウチナーグチ」(仲原穰氏との共著)。「沖縄文化」編集委員。



仲原 穰(なかはらじょう)

沖縄県立芸術大学非常勤講師

沖縄県内の5つの大学にて琉球語関連科目を担当。専門は琉球語学・日本語学。主な著作として「沖縄語の入門—たのしいウチナーグチ」(西岡敏氏との共著、白水社)、「沖縄の方言—調べてみよう暮らしのことば」(共著、ゆまに書房)などがある。



〔総合司会〕麻生伸一(あそうしんいち)

沖縄県立芸術大学全学教育センター准教授

琉球史専攻。主な業績に「沖縄県史 図説編」(共著、沖縄県教育委員会、2019年)、「近世琉球の國王起請文」「琉球史科学の船出」(勉誠出版、2017年)などがある。

告 知

第6回 しまくとぅば講演会 芸能から受け継ぐ「誇らしゃ しまくとぅば」

演 題：芝居に息づくしまくとぅば 講 師：平良 進氏 開催日：11月8日(金) 19時

問い合わせ：沖縄県立芸術大学附属研究所 ☎098-882-5615

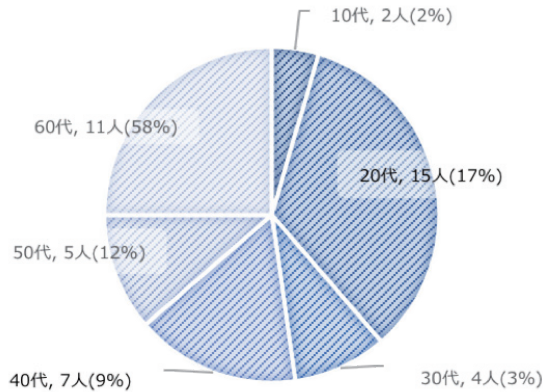
5-6 アンケート結果

会場：ほしぞら公民館
 日時：令和元年9月10日
 対象：一般県民

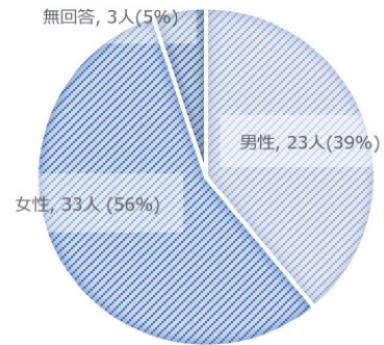
タイトル：「〰シマ、のことば教育の未来～ olelo Hawaii・しまくとうば～」
 来場者数：100人 / アンケート回収枚数：59枚 / アンケート回収率：59%

1. 来場者情報

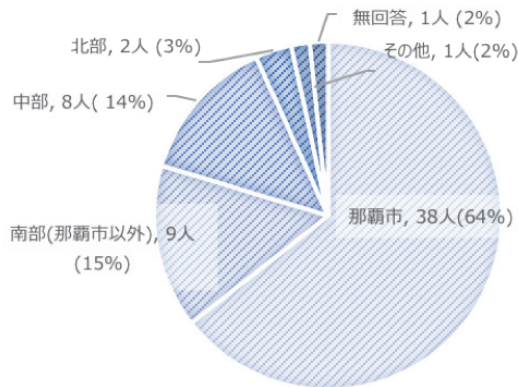
●年齢



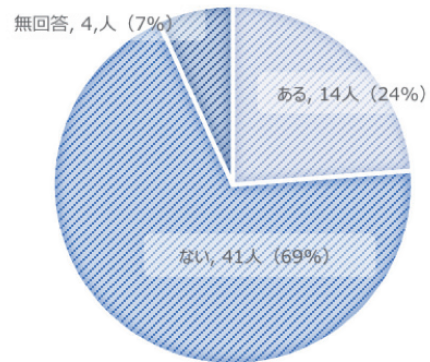
●性別



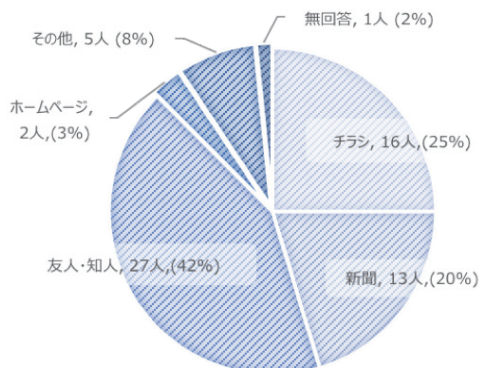
●地域



●附属研究所の講座を受けたことがありますか

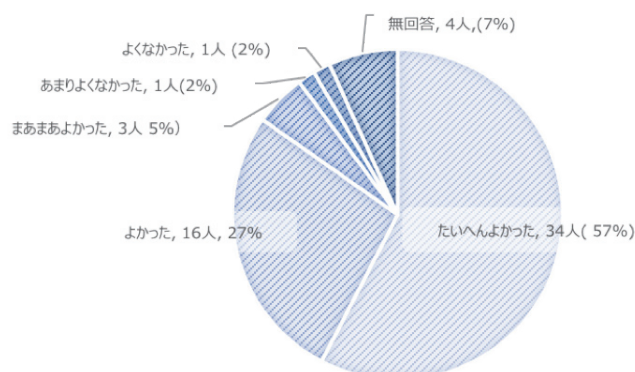


2. このシンポジウムを知ったきっかけ



3. 今回のシンポジウムについて

(1) シンポジウムはどうでしたか？



(2) その理由をご記入ください。

- ・ハワイにおける言語の復活、大変感動しました。
- ・聖田先生によるウチナーグチなどの教えるにあたり、沖縄に帰り大学の先生方の協力のもといろいろ学び、ハワイにて教員の実践がすばらしかった。
- ・ケイキ先生の40年の実践について学べた。仲原先生のデータも学べて良かった。
- ・ハワイ語と琉球語を保つ大切さを知った。言語文化の歴史的背景。一度、琉球語がすたれると、取り戻すのに大変な教育、施策が必要
- ・うちなーぐち(しまくとぅば)が聞けると思い、シンポジウムに参加したが、しまくとぅばは挨拶のみで、拍子抜けでした。先生方、教える側がこのような悲しいありさまである。しまくとぅば実践教育プログラムのアライバイづくりのための講演、シンポジウムに思えた。このようなことではうちなーぐちは決して復活していかない。
- ・沖縄の様子とハワイの様子の違いが知れた。
- ・ハワイの現状や沖縄との文化を通し、課題がより明確になったと思う。
- ・沖縄とハワイ、2つの地域から言語の継承を考える事ができた。
- ・ハワイ語の復興の過程を知ることができました。しまくとぅばの普及の参考になるのでは
- ・ハワイ語の復興から沖縄の琉球語の振興に対する課題を解消できる。その参考となったためです。それから琉球語を大学でどのように講義で身に付けようと画策・取り組んでいるかも学べたためでもあります。
- ・しまくとぅばのこれからに望みが持てました。
- ・大学での琉球語の取り組みを知ることが出来た。また芸大が授業でのしまくとぅばを使って伝統芸能を極める取り組みが大変効果的であるとの報告は興味深かった。しまくとぅばを誇りに持って使おうと思う。
- ・初めて参加させていただき、沖縄口について再認識しました。
- ・ハワイの実践教育が素晴らしい。県内大学でも大いに参考にして取り組むべき
- ・沖縄の活動事例も良かったですが、ケイキ先生による実践家(赤子からハワイ語)のお話がとても良かったです。動画や普段の会話する人達がいたらもっと良かったかなとも思いましたが。大学での講義や舞踊もいいのですが、やはり日常会話から使い続けることから言語の復興はあると思うので、その意味でもケイキ先生のお話は良かったです。
- ・ハワイ語を知り、沖縄の事をさらに興味関心を持ち、沖縄語(しまくとぅば)の大切さを痛感しました。
- ・県民一人一人が大事に守り、沖縄語を使っていこうと思いました。
- ・ハワイ語の復活について興味があった。ハワイ語のみで講義する保育園から大学までであることにびっくりした。
- ・ハワイの取り組みを知ることが出来た。時間の配分が悪かった。

- ・しまくとぅばの文字にひかれて参加しましたが、なんと！奥が深く壮大な学びの場でした。「言葉失いねー国失いん」という言葉がありますが、まさにハワイと沖縄が同じ境遇にあり、沖縄が今だに植民地状態ある中勇気あるハワイの人達はハワイ語の復興に起き上がり今に至る歴史を初めて学びました。
- ・沖縄の状況、ハワイの状況をともに知ることができ、さらに比較することができた。
- ・ハワイの取り組みを知ることができた。
- ・ハワイ大学でのハワイ語復興の現状を知ることができた。
- ・しまくとぅばの意味、社会におけるその重要性がよく理解できた。そしてしまくとぅばを失うことの危険性について大きな教示を受けた。
- ・内容は大変おもしろく良かったが、時間が遅くまでかかったのもっと早い時間からはじめてもらいたかった。17時から始めても良かったのでは。各先生がたのパワーポイントをもらいたかった。
- ・言語文化を残す大切さを感じた
- ・ハワイの取り組みが聞けた。
- ・「わかってもわからなくても使う事が大切」と記して居られました。私も常々そう思っていますのでとてもよかったです。同感です。
- ・ハワイに学び自分も間違いながらも日常で使い、普通に話せるようになりたいと思いました。
- ・うちなーぐちとハワイ語の教育の違いを知れた。
- ・もっと質疑応答の時間が欲しかった。
- ・うちなーぐちとハワイ語の現状を知って、これから私達がやるべきこと、復興させるには3世代必要。
- ・時間の配分
- ・ハワイでの取り組みを知ることができた。
- ・内容が多様的で良かった。
- ・ハワイ語という時に、それは地方方言でなはいでしょうか。琉球語の場合細分化される。ハワイ語の教育の規模は一大原先生の活でわかりました。
- ・同じように危機にひんしていたハワイ語を公用語にまでひきあげたこと、今の現状を知ることができたのが良かったと思います。
- ・ハワイに加え沖縄の取り組みも聞けて良かった。
- ・しまくとぅばの現状を知れた。取り組みの内容やなぜ必要なのか、具体的でわかりやすかった。
- ・ハワイと沖縄は似た環境であるにも関わらず、復興できたのは何故か？
- ・ハワイ語復活の話を実際に聞けてよかった。
- ・大変良かったのですが、報告はしぼるか、時間を少し短くしてパネルディスカッションの時間がもう少しあればと思いました。
- ・ハンドアウトが欲しい。
- ・ケイキ先生によるハワイ語での発表
- ・ハワイと沖縄の比較(沖縄が遅れていることの認識)ができた。ただ、時間を守るようにしてほしい。
- ・資料が欲しかった。
- ・いろいろな場所、教育機関での最新の取り組みについて知ることができた。
- ・ハワイの現地の先生の講演を聞けてすごく良かったです。実際にどのようにしてハワイ語の普及活動をしてきたかが分かりやすかったです。
- ・いろいろな話を聞けて、すごい勉強になりました。参加できて良かったです。ハワイと沖縄を比べることが出来て、もっともっと勉強したいなと思った。最後時間がなくて、質問が聞けなく残念だった。
- ・いっぺー勉強ないびーたん。ハワイぬ言語復興に負らんよう、うちなあんなーひん はまらなやー。うちなあぬ講師達ん しまくとぅばし 語らなやー。
- ・ハワイ語の復興の事例が分かりやすくまとめられており、とても参考になりました。

(3) 特に面白かった・興味深かった内容

- ・最後の質問
- ・ハワイ語の復活で幼児教育から大学までの素晴らしいとおもいました。
- ・琉球では話者を作るためのカリキュラムがない。大学で始めると同時に punanal のようにわらびんちゃーかを育てるためのことも考えるのが必要なと考えています。そのためにも、やはり話者をつくることを考えていく。
- ・「ハワイにおける文化の伝承とハワイ語の教育。7～8年前、ホノルルに13日間滞在した。ハワイ人の観光や文化を伝承する姿が幼少時代から取り組んでいた。(フラダンスの伝承など)
- ・ハワイからハワイ語で講演されたのはとてもとても感銘を受けました。それに対し、沖縄側の講演者はうちなーぐちも話さず、何を研究なさっているのでしょうか?悲惨です。ハワイ大学のハワイ語教育は真剣そのものであると感じました。沖縄側はただ無益な時間を費やしてうちなーぐちの復興を叫んでいるような感じです。
- ・沖縄の大学における琉球語関連科目について各大学の特徴。今後の展望が知れてよかった。
- ・ハワイ大学での沖縄クラス
- ・ハワイ大学でうちなーぐちを学べる講義が開設されていることに強い印象を受けました。
- ・ハワイ大学側の話しが良かったです。保育園から大学までいつの日か沖縄の言語もそうあれば。
- ・ハワイ語普及の取り組み、まず使う。これはしまくとぅばにも通じる。うちなーんちゅもハワイの人のアイデンティティーを見習い、日常の中でまず使うことを実践する必要を強く感じた。ハワイ大学でのうちなーぐちの取り組み。いろいろなご苦労もあったこと。沖縄に住む我々うちなーんちゅは祖先の言葉をもっと大事にせねばと思った。
- ・聖田先生のハワイのうちなーぐちの取り組み、大変感動いたしました。沖縄文化の広がりをはこりに思いました。
- ・言語は単なる意思疎通のための道具ではないこと
- ・ケイキ先生のお話。人と話してなんぼです。(ブローケンでも話すというのがいいですね)
- ・ハワイの聖田先生の沖縄に対する思いと深い愛情に感銘を受けました。また、遠いハワイから沖縄語に関する質の高い教材を求め、ハワイで活用している事に驚きと感動を受けました。
- ・文化をなくしてはいけないと思う
- ・ハワイでうちなーぐちを教えていることにびっくりした。
- ・ケイキ先生の民族(?)の魂の炎の活躍。沖縄では教育の場から言葉(しまくとぅば)がうばわれていった。だから教育の場から(小学校など)取り戻していきたい。
- ・ハワイの言語復興運動と大学の講義が密接に結びついて展開しているという状況が興味深かったです。
- ・大原教授の内容は参考になった。
- ・ケイキ先生のハワイ語 only の講演はお見事!
- ・【keiki先生】ハワイと沖縄の地理的、地勢的条件の類似性、ハワイ王国と琉球王国の歴史の類似性にとっても感動した。先生のハワイの人々のハワイ語の教育情熱とそのカリキュラム等制度システムの素晴らしさにとっても感心した。【大原先生】アメリカの議会で「ハワイの併合」について違法であったことを知ってとても驚いている。
- ・大原先生のハワイの現状が興味深かったのと、仲原先生の沖縄の大学の現状が面白かった。
- ・ハワイの教育の仕方
- ・ハワイ語の復興運動
- ・公的なスピーチと言うお話。うちなーぐちもそうあるべきだと思います。公的な言葉を決めることが先ず大切では
- ・ハワイのごい、7つの決め方、もつとくわしくしりたかった。
- ・洗濯機→洗う機械 とかにして音ではなく言葉をつなげて使う。日本とうちなーぐちも似てるからそうしようと思った。

- ・ keiki kawaiaeaさんの話が興味深かった。
 - ・ ハワイの語彙委員会（外来語のハワイ語化）
 - ・ ハワイの保育園から大学までハワイ語の学校があるのに感動。沖縄の幼児教育から沖縄語を学ぶ機会を考えてほしい
 - ・ ハワイでのハワイ語復興の取り組み
 - ・ ハワイ大学の復興の考え方、手順が大変参考になりました。しまくとぅば復興の一助になると思います。すばらしい
 - ・ 聖田先生のお話と、ディスカッションが良かった。ハワイ語教育の事を日本語の文献で読んでみたい。
 - ・ 文献一覧等公開されるとありがたいです。
 - ・ 聖田先生のお話がとても興味深かったです。ハワイと沖縄のカリキュラムの内容が違いすぎるのに驚きました。（言語としてではなく、文化、考え方など全体的に取り組んでいて奥が深いと思いました。
 - ・ ハワイ語をどのように取り戻していったのか詳しく知ることができ、琉球語を取り戻すことにおいて希望がもてる内容だった
 - ・ 校舎や給料や授業料等は公的補助があるのでしょうか？私立？寄付金でまかなっているのでしょうか？
 - ・ 聖田先生の沖縄授業で、実践型、コミュニティーに参加はとてもおもしろいと思い、実際に使う事が大切だと思った。
 - ・ ハワイの言語や文化を学ぶ講義の多様性
 - ・ 仲原先生のお話のように沖縄もハワイのように琉球語学べる環境が必要だと感じました。
 - ・ 言語定着に3世代が最低必要だとの指摘が興味深い。ハワイ語の外来語、借用語はどうなっているのか知りたい。1100時間の学習の取り組みを考えたい。
 - ・ ハワイ語を習得するため、講義プラス週3回のピコ（朝礼）でスピーチを行い訓練する。それによって生きた言葉を身につけていくという教授法。
 - ・ 沖縄県しまくとぅば普及センターの取り組み、現状、課題、今後の取り組みの発表が必要！知りたい！
 - ・ 仲原先生の沖縄県内の大学の状況についてまとめていたのがとても役に立つ情報で良かった。
 - ・ ハワイ語の普及、復興授業が知れて良かった。
 - ・ 直接ハワイ語を耳にする機会がとても貴重で感動しました。
 - ・ 語い委員会という組織をもっと知りたい。
 - ・ 大原しんしー、keikiしんしー、実際に復興に導いた方法や使用しているカリキュラムが学べてとても実りある時間となりました。
 - ・ パネリストぬちやぬちやーたん　しまくとぅば語てえー
- (4) 施設、照明、環境、音響、駐車場、アクセス、広報などご自由にお書きください。
- ・ 発表者の時間の厳守
 - ・ 会場、環境等交通便利で良かったです。
 - ・ 充実してましたが、時間が足りないかなと。MCはぜひ質問票用意するほうがいいかなと。
 - ・ 広報・宣伝に力を入れて集客率の向上。観客の意見を取り入れ、総合的なしまくとぅばの実践教育を皆で考える事がキーポイント。決して、主催者側だけの押しつけであってはならない。
 - ・ クーラーの温度がちょうど良かった。
 - ・ 特になし。ただし、時間が長引きすぎたかと思う。
 - ・ 良かったです！自分としては何も支障ないです！
 - ・ アクセスは良い、長時間の講演を聞くのにパイプ椅子はおしりが痛い。会場は芸大の奏楽堂かテンプス館はどうか
 - ・ 初めての場所ですので特にありません
 - ・ 照明は少し暗かったので、もう少し明るめが良かったかもしれません。スライドは少し地味目だった

ので動きを付けると良いと思います。モノレールで来たので交通面は大丈夫でした。

- ・とても良い環境でした。県立芸術大学のスタッフの方とハワイの御三氏に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
- ・シンポジウムは長時間であるのに、椅子の座り心地が悪かった。
- ・会場のレイアウトが堅苦しくなく、リラックスして講話を拝聴できました。
- ・大変貴重な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・進行、段取りのマズさが足になった。
- ・交通の便の良い施設で集まりやすい。会場規模も適当。会場のイスが固いのが難点。
- ・おおむね良い状態であるが、クーラーが強すぎて寒かった。
- ・施設はまあまあ。
- ・若い人も多くて希望を感じました。
- ・椅子の座り心地が悪い。駐車場は無料のところがいい。
- ・駐車場がないのがつらい。
- ・駐車場がなかった。
- ・しまくとぅばは現在の状況では消滅する。次の3点がぜひやるべき①共通語を設定する(しまくとぅばの数が多く統一語が必要)②表記法を確立する③しまくとぅば委員会を組織し語彙を増やす④基本的な日常語を決める(おはよう、かんぱい、あなた、おめでとう etc)
- ・場所がわかりにくい
- ・時間が足りなくて残念だった。
- ・アンケートで性別は必要ですか
- ・椅子が固かった。
- ・発表資料を印刷して配布してほしかったです。
- ・平日に18時は少し早いと思った。
- ・少し暑かった。PDF資料あるといいと思った。
- ・照明の工夫を。ハンドアウトでカバーできるのに。(プロジェクターの文字が不明瞭)
- ・バスレーンが少し困りました。
- ・椅子がもう少しゆったりしているといいなと思いました。
- ・いっぺーちびらーはぬ施設し、シンポジウム勉強ないびたん。いっぺーにふえでーびる!

6 「誇らしゃ しまくとぅば」講演会概要

令和元年7月12日と11月8日に「誇らしゃ しまくとぅば」というテーマで琉球芸能の第一人者である先生方に、しまくとぅばで芸談をお話しいただいた。これは、戦前から戦後にかけて活躍された琉球芸能の先人たちから、しまくとぅばで教えを受けた人々から「しまくとぅば」でしか伝える事の出来ない琉球芸能の特徴やその教えを、しまくとぅば独特の語り口とともに感じてもらおうと企画したものである。

各講演に先立ち、沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の学生達による幕開けの芸能を上演した後、第2部でそれぞれの講師に「琉球芸能に息づく しまくとぅば」という演題でお話しをいただいた。

7月12日の仲里松子先生の回は、聞き手に具志幸大氏をお招きして、仲里松子先生の芸能人生を戦前から振り返りながら、幼少期の南洋での生活の様子、そして乙姫劇団の活動から、玉城盛義先生の舞踊指導まで語っていただいた。乙姫劇団のファンでもある具志氏の合いの手が絶妙で、わかりやすい解説を交えた終始和やかな雰囲気 of 講演会となった。

11月8日は劇団「綾船」座長の平良進先生にご登壇いただいた。当初は金城真次氏に聞き手をお願いしていたが、急遽、出演が叶わず、平良先生の「一人語り」となった。平良先生は快くお引き受けいただいたが、研究会としては今後の日程調整など、反省すべき点を残した会となったのは残念である。

平良先生は、宮古で出生して、劇団に入る話、また詞章の真喜志康忠先生の思い出話や、真喜志康忠先生直伝の「阿麻和利」を最後に「語り芝居」で御披露いただいた。先生からは第2言語として習得した芝居言葉についてもお話があり、本事業と結びつくことの多い内容であったと感じた。

今年度は芝居役者というしまくとぅばを使って表現する芸術の第一人者から、稽古の時のしまくとぅばや芸能そのものを聞くことができた。今回も「しまくとぅば」の魅力を存分に伝える事ができた講演会となった。各講演会の詳細情報は以下に記す。

6-1 第5回 講演会チラシ・アンケート結果

第5回 芸能から受け継ぐ「誇らしゃ しまくとぅば」

実施日：令和元年7月12日(金) 18時30分開場・19時開演

会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂

講師：仲里松子 (聞き手：具志幸大)

演題：「芝居に息づく しまくとぅば」

講師略歴：県指定無形文化財琉球歌劇保持者、玉城流玉扇会師範、沖縄タイムス社奨励賞「演劇・演技」受賞。1934年名護市出身。幼少の頃、家族と共に南洋に渡り10歳で料亭にて芸能に関わる。1956年22歳で乙姫劇団に所属、二枚目三枚目と多様多彩な役柄を油じ活躍した。一方で、役者の他にも琉球舞踊から地謡まで琉球舞踊から地謡までを熟しその人柄から「松ちゃん姉さん」と称され親しまれる。現在は、戦前・戦後を通して沖縄の芸能に携われた経験による貴重な技芸の伝承に尽力する。

第1部：喜歌劇「今帰仁祝女殿内」

出演者：若按司 猪野屋楓、三良 下地心一郎、カマド 石嶺李杏、チラー 仲宗根朝子

地謡：歌三線 波平宇宙、太鼓 堀川祐樹

うちなー
沖繩芝居と乙姫劇団について
しまくとぅばで伝えます。



演 題：芝居に息づくしまくとぅば

講 師：仲里 松子 (県指定無形文化財琉球歌劇保持者)

喜歌劇「今帰仁祝女殿内」

講演に先かけ、沖繩芝居の名作を琉球芸能専攻学生により上演致します。

〈聞き手〉 眞志 幸大

県立芸術大学大学院修了、玉城流いずみ会師範、安富祖流絃舞会師範

日 時 令和元年7月12日(金) 19時開演 (18時30分開場、21時閉会予定)

場 所 沖縄県立芸術大学 奏楽堂
那覇市首里当蔵町1-4

主 催 沖縄県立芸術大学附属研究所

問い合わせ ☎098-882-5615
※当日先着入場、整理券は発行致しません
※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい

無料
先着250席

第5回
講演会

沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
芸能から受け継ぐ「誇るこやこまんとらば」

講師略歴

なかざと まつこ
仲里 松子

県指定無形文化財琉球歌劇保持者、玉城流玉扇会師範、沖縄タイムス社奨励賞「演劇・演技」受賞。

1934年名護市出身。幼少の頃、家族と共に南洋に渡り10才で料亭にて芸能に関わる。

1956年22才で乙姫劇団に所属、二枚目三枚目と多様多彩な役柄を演じ活躍した。一方で、役者の他にも琉球舞踊から地謡までを熟しその人柄から「松ちゃん姉さん」と称され親しまれる。現在は、戦前・戦後を通して沖縄の芸能に携えられた経験による貴重な技芸の伝承に尽力する。



幕開け「今帰仁祝女殿内」 指導：中曾根律子(県立芸術大学非常勤講師)
出演：沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻学生

〈配役〉

若按司 猪野屋 楓 カマド 石嶺 李安
三 良 下地心一郎 チラー 仲宗根朝子

〈地謡〉

歌三線 波平 宇宙
太 鼓 堀川 裕貴

講演メモ

令和元年度 沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
第6回講演会 **芸能から受け継ぐ「誇らしゃしまくとぅば」**

期 日 令和元年11月15日(金) 19時
会 場 那覇市ほしぞら公民館
講 師 劇団綾船 座長 平良 進

第5回 アンケート結果

会場：沖縄県立芸術大学奏楽堂

日時：令和元年7月12日

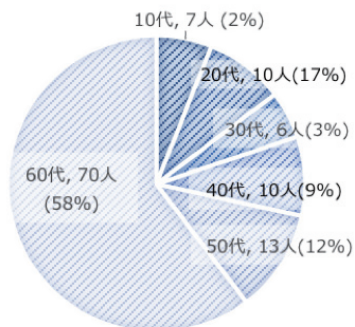
対象：一般県民

講演会タイトル「芸能から受け継ぐ『誇らしや しまくとぅば』」

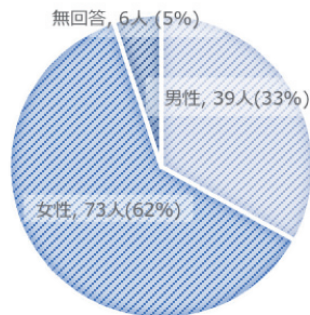
来場者数：150人 / アンケート回収枚数：118枚 / アンケート回収率：78.7%

1. 来場者情報

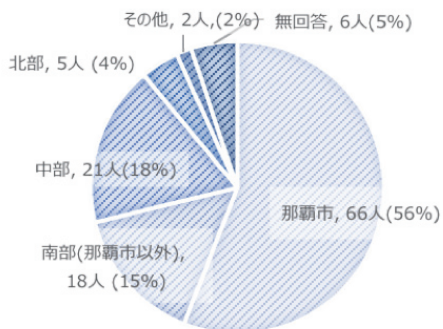
●年齢



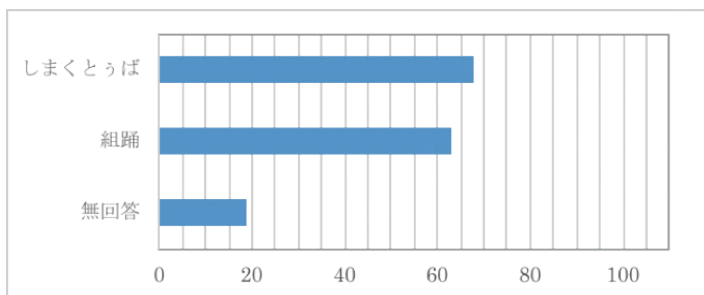
●性別



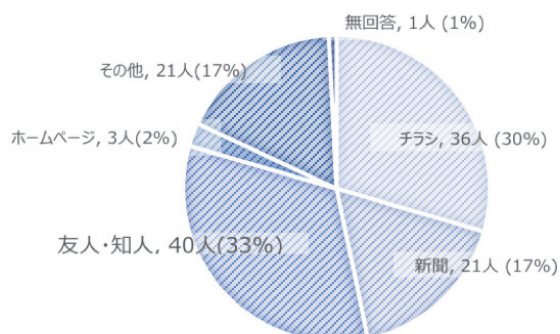
●地域



●興味のある内容 (複数選択可)

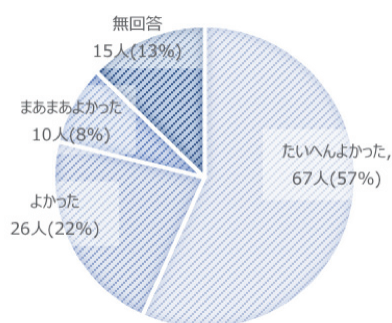


2. この講演会を知ったきっかけ



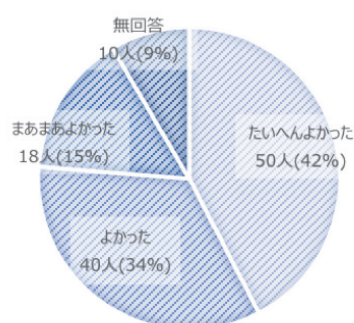
3. 今回の講演会について

(1) 本日の講演はいかがでしたか？



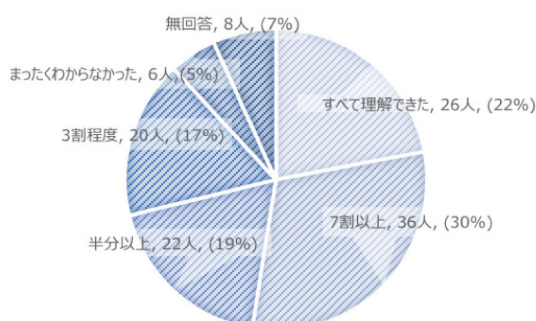
※「あまりよくなかった」「よくなかった」は0人のため省略

(2) 琉球芸能専攻による幕開けはいかがでしたか？



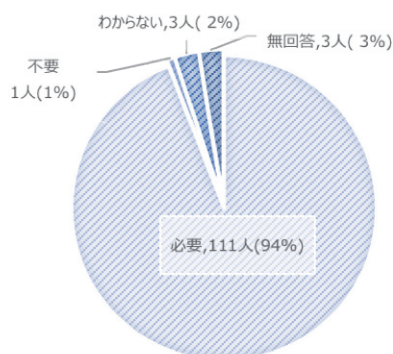
※「よくなかった」は0のため省略

(3) 本日使用されたしまくとぅばほどの程度理解できましたか？



4. 本学の琉球芸能専攻におけるしまくとぅば実践教育事業について

(1) どのようにお考えでしょうか。



(2) 本事業および今回の講演会についてのご意見や感想、次回への要望などがありましたらお書きください。

- ・幕開けは言葉が理解できなかったのでおもしろさがわからなかった。
- ・唄の音がズレているのは演出ですか？
- ・字まくがあると助かります（芝居だけでも）
- ・普遍的な話題で話を展開するのも良いのではと思った。特殊な話題でイメージ展開ができない。
- ・幕開けの今帰仁祝女殿内、短い期間でよく頑張りました。喜歌劇も古典のなどに加えてさらに力を入れていって下さい。また、松ちゃんおばさんのお話しもとても楽しかったです。もっともっと聞いていたかったです。
- ・具志さんの通訳があったので、しまくとぅばをあまり知らなくても聞きやすかったです。ありがとうございます

ございました。

- ・楽しかった。若い人のしばいをもっとやってほしい。
- ・仲里松子先生の戦前戦後のお話し、及最後に“芸は身を助ける”のお言葉に感動しました。ありがとうございました。
- ・話のリズムがよく、たいへん聞きやすく楽しかったです。ありがとうございました。
- ・今帰仁祝女殿内の語り合いの歌はもう少しの練習が必要では
- ・講演会のPRを最大限活用してより多くの県民に広めて、日常会話の中で聞こえる琉球文化に育んで頂きたい。文化の発展は人情豊かな人間教育に成る事だと思います。平和で明るく健康な社会形成になる様望みます。チューシジーシジーの言葉、久し振りに聞いた黄金言葉
- ・しまくとぅば すごく面白く話しの中で背景がみえて良かったです。松子さん最高ですね!
- ・幕開け、たいへんよかったです。仲里松子先生の講義とてもためになりました。芸能音楽ももっと稽古します。
- ・これからもがんばってください
- ・通訳のような形で会話の内容が分かるよう配慮されるのかな?と思ったのつかの間、2人で普通に会話が始まってしまったので内容理解度1割でした。が、会場の方々の笑い声の温かい空気が心地良かったです。
- ・字幕(しまくとぅば、日本語)があっても良い理解につながるのではないかと感じた。1点気になったのは、仲里松子先生の座椅子に配慮があっても良かったと思います。高さ(足がとどいていなかった)、背もたれがあった方が良かったと思います。
- ・質問者もしまくとぅばでもよかったのかなーと思いました。ヒアリング力を高めたいので。ヤマトグチとのチャンプルーだとわかることばにばかり耳がいつてしまい、しまくとぅばそのものを聞き取る力は鍛えられないかとも思いました。それと、進行はもっとゆっくりでもいいのかなーと。ひとつひとつのエピソードの余韻を感じられたらもっとよかったです。なにより、生のしまくとぅばにたくさん触れることなんだろうなと。こういう機会を提供頂き感謝しています。
- ・とても良い話をしているんだろうなと思ったけれど、方言のレベルが高くて何を言っているのかわからなかった。理解できるようにしたいと思いました。
- ・しまくとぅばはこれからも絶やさないように勉強するべきだと思う。
- ・幕開けの「今帰仁祝女殿内」は若手の皆様の熱意が伝わって大変良かった。琉球芸能の伝統をしっかり受け継いでほしい。
- ・仲里松子さんのスムーズな言葉(ウチナーグチ)で昔の乙姫劇団のけいこの様子が楽しくチャージングに聞けた。沖縄の方言は本当にいいですね。心がほんわか(ほのぼの)する講演でした。
- ・無料で受けられる伝統文化の講習。感動しました。しまくとぅばを喜劇で伝える方法は眠くなくて良かったと思う。仲宗根朝子さん、音程GOOD 声量も良く上手いと思った。
- ・学生がすばらしかった。言語は継続のたまものだと思うのでぜひ続けていただきたいです。
- ・数年前に乙姫劇団の芝居を観ましたが、今回は学生さんの演技でぎこちなさがあるが初々しさで、これからの楽しみです。仲里松子さんのしまくとぅばでその当時の話が聞けて、本当に素晴らしい。
- ・芝居の言葉の意味がとれなかった。言葉があまりわからなくても動作でなんとかわかりました。
- ・幕開けの芝居、セリフ、歌、つらね、よく練習されたことが分かる。登場人物と同世代が演じていることに意義がある。
- ・学生達の芝居くとうば素晴らしいです。これからの活躍が楽しみです。学生達の努力に成功ありますよ。演技も楽しかったです。
- ・うちなーんちゅですが、十分聞き取れず勉強不足を感じます。皆さんの演技に一生懸命さを感じ感動しました。頑張ってください。会場は素晴らしいです。今後も足を運び鑑賞したいと思います。
- ・字幕がほしいです。
- ・学生の皆さん、これからも増々励んでください。松ちゃんおばさんの話は笑いました。小学生の頃は

那覇劇場で観ていました。なつかしいお話でした。どうぞ今のままでお元気でいらして下さい。今日は大変ありがとうございました。

- ・聞き手は要領がへた。
- ・芸は身を助ける・・・この辺りをもっと掘り下げてほしかった。
- ・貴重な話、想像できて面白かったです。
- ・昔なつかしいおばの話をきいているみたいでうれしかったです。しまくとうばはとてもいいですね。指導者が重要だと思います。又、今後も伝承するならばテキストはあるのでしょうか。対談は生のしまくとうばで大変良かったです。
- ・しまくとうばを余り理解できない(聞き取れない)お客さんに少しでもわからせる工夫ができないものか?内容が良いので、しまくとうばが理解できないのは残念である。(同時通訳又は標準語で説明できないか)
- ・三良の音がずれすぎて聞きづらかったです。もっと勉強して下さい。
- ・芝居のセリフのメリハリを。もっと首里区域の小学校での「しまくとうば実践教育」を。
- ・もっと宣伝して若い人達にも興味を持ってもらいたい
- ・乙姫劇団の芝居をみたことがないので、松子さんのエピソード等、あまり理解できなかった。
- ・乙姫劇団のおもしろエピソードが聞いて良かった。かみ砕いた話でいいですね。楽しかった。
- ・久しぶりに心地良いウチナーグチを聞きました。仲里松子先生のウチナーグチを聞いていると日本語が耳障りでした。
- ・若者がしまくとうばが上手なので驚きました。どのように練習したのでしょうか。発音が完璧でした。
- ・「沖縄の宝」ありがとうございました。感謝します。
- ・大変良かったです。
- ・学生なので未熟はあたりまえ!今後が楽しみです。学生の意欲が感じられて、心地良い!仲里松子先生の貴重なお話は、宝の箱をのぞいたような気がしました。具志さんもよく引き出し上手でした。すごい!貴重でした。
- ・県内の教育現場の先生方と接して、各小中高の生徒達にも鑑賞できるようにもっとPRしてほしいです。せっかくの素晴らしい講演会。聞く人が少なくてとても残念です。このままでは、しまくとうばがなくなってしまうのでは・・・。
- ・生きた沖縄口が聞ける良い企画だと思いました。こういう機会が増えるといいですね。
- ・もっとPRしたらと思います。頑張っている人に見て頂いたら。もったいないです。
- ・年に2回だと少ないです。もっと多くの舞台が観たいです。とても上手でびっくりしました。感動です。
- ・沖縄芝居の裏話をしまくとうばで聞いたのでその当時の雰囲気伝わってきたのがとても良かったです。
- ・しまくとうばで、芸や踊りを教えてもらえる学生さんがとてもうらやましいです。しまくとうばにこそ、芸の根本があります。「誇らしゃ しまくとうば」 憧れの「乙姫劇団」のことが知りたいと思っていました。劇団員の生の声が聞いて貴重な時間でした。
- ・一生懸命で演じているのが非常にいい。プロとは違う新鮮さが良かったです。
- ・今後とも継続して下さい。毎年本学の講演を楽しみにしています。
- ・幕開けは短時間でウチナーグチをよく練習したと思う。歌の部分は聞いていて意味が分からない部が多い。歌詞があらかじめ分かれば、多分聞いていて内容が理解できると思う。対談の聞き手もしまくとうばでインタビューだともっと良かった。
- ・方言による言い回しなど、とても良いと思う。久しぶりに方言をたくさん聞いた。
- ・お話をもっと聞きたかった。
- ・今回の芝居の体験をきっかけに、これからも関わりを持って続けてほしい。仲里さんのお話は昔の乙姫の様子が伝わりとても楽しかった。元気で頑張ってもらいたい。
- ・松ちゃん姉さんの話をもっと聞きたい。具志さんがしゃべりすぎ。具志さんはしまくとうばで会話した

方が良かったのでは。

- ・大変おもしろかった。次を楽しみにしています。芸は身を助ける。年を取ってもチェイシジできてとても良いという事が印象的に残りました。ありがとうございます。
- ・乙姫の事とても楽しく聞かせていただきました。ありがとうございます。
- ・歌の音程が不安定な部分があったが、演技そのものは大変上手だった。
- ・たまたまチラシを見て拝見しました。普段訪れるのとはまた違う、深い沖縄をかいま見たような気持ちです。ネット配信などがあると良いと思います。
- ・芸大でウチナー芝居を取り上げたことに驚いています。短期間でよくここまでと感心しました。乙姫劇団のエピソードがいろいろ聞けてよかったです。ウチナー芝居も沖縄の大切な文化だと思います。
- ・とても頑張っていると思う(学生)。もう少し仲里さんの芸能生活などを本人の口から(当時の)話してもらいたかった。しゃべり(本人からの話しが)少なかったのが残念。雑談の形式ではなく、要点を何点か決めて話しを進めてほしかった。松子さんはとても可愛かった。
- ・良かったです。
- ・松ちゃん姉さんの素敵な話を聞いて良かったです。また、聴きに行きたいと思います。
- ・大変良かったと思います。これからも島言葉継承のために、さまざまな取り組みをすべきだと思います。あまり島言葉になれない若い世代に実践する取り組みも良いと思いました。
- ・もっとお話を聞きたいほど楽しい講演会でした。ありがとうございました。
- ・本格的なお芝居で歌も上手で特に女性の声量が素晴らしいですね。
- ・松ちゃん姉さんのしまくとぅばに感動しました。昔の首里くとうば。年長者へのことば、しまくとぅばは忘れ去られそうですが、普段から使って消滅させてはいけないと思いました。
- ・カマド、チラーの声がよく通っていて、聴きやすく100点でした。よく覚えましたね～。どのように指導したかも聞きたいくらいです。先生方ありがとう。普遍的な話題で話を展開するのも良いのではと思った。

6-2 第6回 講演会チラシ・アンケート結果

第6回 芸能から受け継ぐ「誇^{ひく}らしゃ しまくとぅば」

実施日：令和元年11月8日(金) 18時30分開場・19時開演

会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂

講師：平良進

演題：「芝居に息づく しまくとぅば」

講師略歴：劇団綾船座長、沖縄県指定無形文化財琉球歌劇保持者、宮城流美能留会師範。

1934年平良市(現宮古島市)出身。北中学校卒業後、翁長小次郎一座に入団。その後、真喜志康忠率いる劇団ときわ座に移籍、大宜見小太郎の大伸座を経て1971年同志とともに劇団潮を結成1982年に解散。同年、平良とみと劇団綾船を旗揚げ、芝居をはじめ舞台、映画、テレビ等において活躍し、2003年沖縄タイムス社芸術選奨大賞を受賞している。

第1部：喜歌劇「馬山川」

出演者：美男 下地心一郎・岡本 凌、美女 石嶺李安・仲村佑奈、
醜男 上原 崇弘・高里 風花、醜女 伊波留依・仲宗根朝子

地謡：歌三線 佐久本 純・新垣勝裕・加屋本真士、太鼓 波平宇宙

ウチナー芝居全盛期を歩んだ役者人生と名優たちの逸話をしまくとぅばにより伝えます。



演 題：芝居に息づくしまくとぅば

講 師：平良 進 劇団綾船座長、県指定無形文化財琉球歌劇保持者

〈聞き手〉金城 真次 沖縄県立芸術大学大学院修了、玉城流扇寿会教師、沖縄芝居研究会所属

喜歌劇「馬山川」

公演に先がけ、人気喜歌劇を県立芸術大学琉球芸能専攻学生により上演致します。

日 時 令和元年11月8日(金) 19時開演 (18時30分開場、21時閉会予定)

場 所 沖縄県立芸術大学 奏楽堂
那覇市首里当蔵町1-4

主 催 沖縄県立芸術大学附属研究所

問い合わせ ☎098-882-5615
※当日先着入場、整理券は発行致しません
※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい

無料

先着250席

第6回
講演会

沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
芸能から受け継ぐ「誇るじや^{ふく}しまくとぅば」

講師略歴

たいら すすむ
平良 進



劇団綾船座長、沖縄県指定無形文化財琉球歌劇保持者、宮城流美能留会師範。

1934年平良市(現宮古島市)出身。北中学校卒業後、翁長小次郎一座に入団。その後、真喜志康忠率いる劇団ときわ座に移籍、大宜見小太郎の大伸座を経て1971年同志とともに劇団潮を結成1982年に解散。

同年、平良とみと劇団綾船を旗揚げ、芝居をはじめ舞台、映画、テレビ等において活躍し、2003年沖縄タイムス社芸術選奨大賞を受賞している。

喜歌劇「馬山川」 出演：沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻学生

〈配役〉

美男 下地心一郎・岡本 凌
美女 石嶺 李安・仲村 佑奈
醜男 上原 崇弘・高里 風花
醜女 伊波 留依・仲宗根朝子

〈地謡〉

歌三線 佐久本 純・新垣 勝裕・加屋本真士
太 鼓 波平 宇宙

講演メモ

令和1年度 沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
「事業報告会」

期 日 令和2年2月 開催予定
場 所 沖縄県立芸術大学附属研究所 3階 小講堂
問い合わせ 県立芸術大学附属研究所 ☎098-882-5615

第6回 アンケート結果

会場：沖縄県立芸術大学奏楽堂

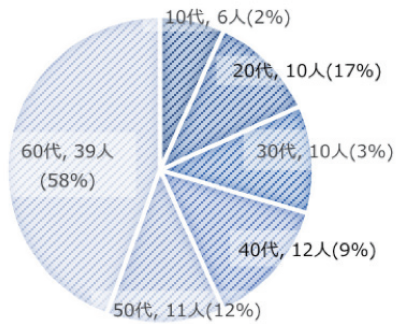
日時：令和元年11月8日

対象：一般県民

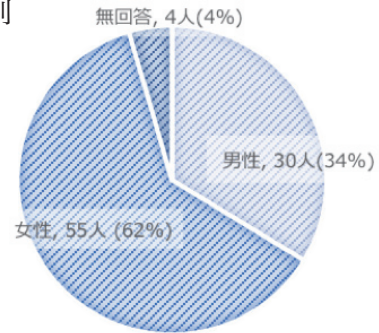
講演会タイトル「芸能から受け継ぐ『誇らしやしまくとうば』」

来場者数：106人 / アンケート回収枚数：89枚 / アンケート回収率：83.2%

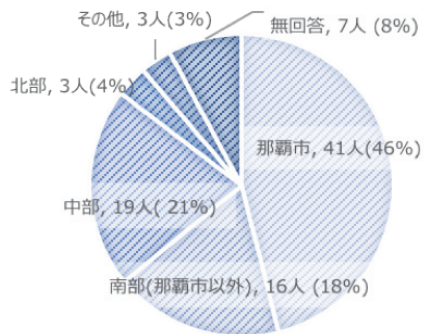
●年齢



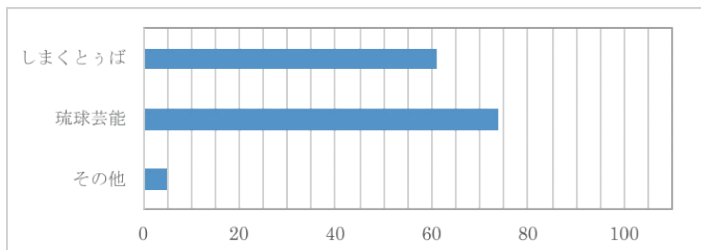
●性別



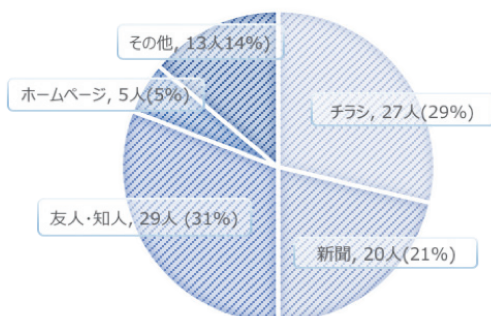
●地域



●興味のある内容(複数選択可)

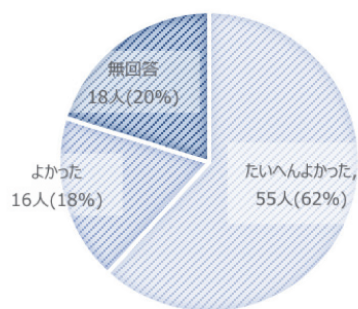


2. この講演会を知ったきっかけ



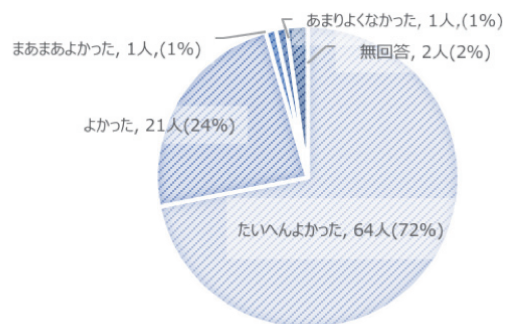
3. 今回の講演会について

(1) 本日の講演はいかがでしたか？



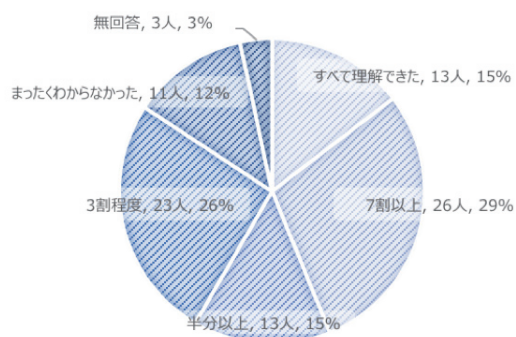
※「あまりよくなかった」「よくなかった」は0人のため省略

(2) 琉球芸能専攻による幕開けはいかがでした



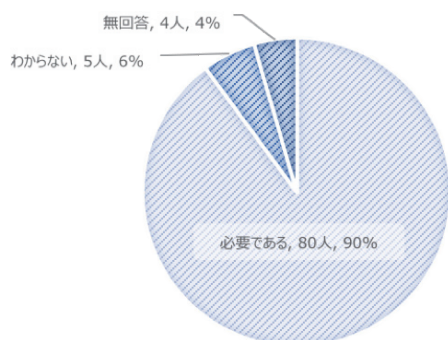
※「よくなかった」は0のため省略

(3) 本日使用されたしまくとぅばほどの程度理解できましたか？



4. 本学の琉球芸能専攻におけるしまくとぅば実践教育事業について

(1) どのようにお考えでしょうか。



※「不要である」は0人のため省略

(2) 本事業および今回の講演会についてのご意見やご感想、次回への要望などがありましたらお書きください。

- ・学生の歌、演技とてもよかった。若い人達が沖縄の大切な芸能文化を継承しているのにとっても感謝したい。平良さんのウチナー芝居の大先輩の舞台裏の話。ウチナー口の敬語、ウチナー口をすでに70歳代の私たちの世代でも使えない、理解できないことにとっても危機感を感じました。
- ・平良進さんのお話はほとんどわからないが、ジェスチャー表現が豊かで面白かった。しまくとぅばの敬語？阿麻和利と護佐丸の語りは迫力があってすばらしい！！冷房が効きすぎて寒くて風邪をひきそうです！

- ・「馬山川」ととてもすばらしかったです。平良先生のトーク大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・娘に誘われてきましたが、すばらしく、すごくおもしろかったです。すばらしい事業だと感じ、又、このような舞台しまくとうばの話し会があれば参加したいと感じました。
- ・「馬山川」学生さん方の芸能、楽しく元気になれた。すばらしい。来てよかったです。学びました。
- ・続けてください。
- ・しまくとうばはまず、話してみようと思いました。子供たちも、一緒に楽しみながらできたらいいなと思いました。
- ・馬山川を楽しく観ました。歌詞がところどころ判別し難いところもありましたが、若々しく生き生きした踊りで堪能しました。しまくとうばをいちから習得した話、独演もすばらしかった。
- ・しまくとうばを使えるようになりたいです。芝居で言葉を覚えるのは良い考えだと思いました。
- ・演劇の中でのしまくとうばが聞けて良かったです。しまくとうばに関するイベントを継続してほしいと思いました。
- ・馬山川について「着付けは専門の方が付いてやっているのですか？もっと後ろ姿まで気を配った着付けの方法があると思います（着物の丈、腰の形など）。着物が大きいのか？（美女）大切な敬語をしつかり覚えよう。
- ・会場寒かったです。もっと勉強が必要だと思いました。敬語を使わない、失礼な表現のニュアンスはなんとなくわかりました。
- ・琉球芸能を学びに来る本土出身の学生をどう指導していくかが課題だと思います。どの程度言葉の習得が必修と考えるかが難しいところだと考えます。
- ・平良先生のお話はとても楽しかったです。方言を自由に話せるようになりたい。
- ・せっかくの平良進さんのトーク。方言がわからなすぎて8割ちんぷんかんぷんでした。悔しいので方言勉強したい。
- ・しまくとうば知らない人でも楽しく見れて興味が持てる誰もが言える。それだけ良かった。
- ・先生の阿麻和利の乱の所は迫力がすごく最高でした。
- ・しまくとうばでの貴重な講演が聞けてとても良かったです。学生達の喜歌劇も大変すばらしかったです。これからも続けてください。
- ・初めて参加しました。面白かったし、しーじゃんたーから習う！というのがポイントで勉強になりました。私もしゃべれるようになりたいです。
- ・「馬山川」衣装、化粧、踊り、表情が一緒になってこっけい味が良く出ていた。歌がもう少しなのかな。
- ・平良先生の口調の中に真喜志康忠氏がしのばれた。
- ・幕開けの「馬山川」久しぶりに拝見。こんなに面白く愉快演じられた舞台に腹の底から拍手かっさいをしました。醜男、醜女の仕草、振り付けはとても新鮮味あってよかった。平良進氏のうちなー芝居の話しくれー、いっぺー興味深いお話しやーびーたん。
- ・学生の皆さんが見にきていないのがもったいないなと思いました。
- ・貴研究所の事業等により琉球文化が継承されて本当に感謝し、さらなる発展をお祈りしております。
- ・3 (3) 問をもう少し細かくどの程度理解できたか選べたらいいな。
- ・とても楽しみにしていました。名優たちのエピソードをたくさん聞けて良かった。パートIIもやって欲しい。「くとうばぬかばさん」いい言葉ですね。
- ・生で実際に聞けて、とても貴重な体験でした。来て良かったです。
- ・馬山川、久しぶりに楽しい踊りよかったです。若いってすばらしい。きれい、美しい所作しびれました。ありがとう。沖縄人でよかったあ〜。
- ・話しのポイントを決めて、うちなーぐちのもつ表現の面白さ、味わい、温かき、品格を教えて頂けると幸いです。

- ・芸大による座学及び奏楽堂における開催は殆ど参加しています。家族全員で開催を心待ちにしています。
- ・進先生はずいぶん以前から知っていますが、姿勢よく若々しくお元気そうでお話は以前からお聞きした時(方言ではなく)講演会でした。今日はオール方言なので50%ちょっとしか理解できなかったと思います。でもお話はとても良かったと思います。ありがとうございました。
- ・幕開け、とても良かったです。若いのによくできてたと思います。涙が出そうになった。御指導してくれた先生方の力を感じました。講演の内容は、とても興味深く、考えさせられました。面白くもありました。とてもすばらしかったのですが、たまに大和口が入っていたのには、少しがっかりしました。私自身うちな一ぐちも話せないのに、こんな事言って、申し訳なく思っています。「オールうちな一ぐち」聞いてみたいです。
- ・醜男、醜女の4名よく言葉やお芝居の奥側まで学ばれていて、さすがと思いました。
- ・琉球芸能専攻の幕開けの演目を増やしてほしい。
- ・馬山川は、しまくとぅばが聞き取れない、意味がわからない点もありましたが、表情、演技でなんとなくわかった。しまくとぅばがわからない人達のように、簡単な解説、言葉の説明などがあってもよかったかも。平良先生の講演もところどころしか聞き取れませんでした。話題が多く楽しかった。言葉の遣い方で人の気分もよくするし、人の気分を害することを教えていただきました。敬語を使えるようになりたいと感じました。
- ・馬山川、すばらしい。今後も実施して欲しい。本事業を増やしてもらえればと思います。
- ・地域の公民館などでもやってほしい
- ・芝居は動きを見ながら言葉をきいて、意味を理解できた。講演を聞いて、もっとしまくとぅばを勉強したいと思った。芝居でしまくとぅばの勉強を試みようと思った。
- ・大変良かったです。うちな一口は心のよりどころ。ちむ心です。
- ・久しぶりに正月笑いました。平良先生のお話は勉強になりました。ありがとうございました。
- ・誰かが通訳してほしい。
- ・ウチナークトゥバ上等やいびーん!言葉使いはデージナクトウ

7 第3回・第4回「誇らしゃしまくとぅば」講演会講演録

凡例

- ・本稿は平成30年度県芸大しまくとぅば実践教育事業／2018(平成30)年7月13日第3回講演会 照喜名朝一先生による講演会(対話進行役 金城裕幸氏)「2018(平成30)年11月9日第4回講演会眞境名正憲先生による講演会」の録音音声を翻刻したものである。
- ・両先生の講話にはここで言う「しまくとぅば」といわれる共通語が併用されているので、「しまくとぅば」についてはひらがなで表記することを基本にした。
- ・共通語の部分については、漢字かな交じり文で概ね表記した。
- ・講話中に出る氏名の明かな方については漢字で表記した。(一部カタカナでの表記も)。
- ・講演中に出て来る外来語はカタカナで表記したが、「しまくとぅば化」した発音に合うように表記することを心掛けた。
- ・発語のあいだあいだで見られる「あー、えー、なー、うん、あんさーに」などの間投詞的な音声は、しまくとぅば講座の紙上再現という意味あいから、なるべく省略せずに表記することを心掛けた。
- ・一部のしまくとぅばについては発音の通りにならで表記し、()で括って漢字を補った。
なお、先に漢字を表示し、()の括りにそのうちな一読みを補ったものもある。
また、一部の発言には(注)を入れ、読者の理解を容易にするための説明を(注・・・・)施した。
- ・会話や伝聞の部分は「」で括って表記し、なるべく行頭に来るように改行処理を行った。応答の

あり方の把握を容易にするためである。

- ・なお、特異な語彙についても「」で括弧表示した。また、一部の特異な語彙については弁別を容易にするため“”で括弧表記した。
- ・対話や講話の枠組みを作る為に各段の区切りとして2行の空きを入れた。(対話や講話自体は途切れることなく進行しているので、これは翻刻者の判断によるものである)。
- ・また各段の講話の展開にあわせ文節を目安に段中の改行処理も行っている。
- ・数字については稿本を横組みとしたために算用数字123・・・を用いた。

7-1 第3回 講話テープ起こし

講師：照喜名朝一先生

翻刻：平良徹也

分かち書きチェック：西岡 敏

(県芸大附属研究所共同研究員)

事務局 それではこれより講話となります。講話いただきますのは、照喜名朝一先生です。聞き手は金城裕幸さんとなっております。

講師の照喜名朝一先生は、1932年南城市知念知名のご出身で、幼少のころから三線(サンシン)や琉球舞踊に親しみ、25歳から琉球古典音楽安富祖流の宮里春行先生に師事されました。2000年沖縄の芸能部門で初めて、重要無形文化財(認定)人間国宝に認定されました。

聞き手の金城裕幸さんは、本学琉球芸能専攻のOBで、野村流の歌三線(ウタサンシン)の実演家として、また、国指定選定保存技術に認定されている組踊道具衣装制作審議の技術者としても活躍されています。

それでは照喜名朝一先生、金城裕幸さん、お願いいたします。

ご来場のみなさん、どうぞ拍手でお迎えください。

—— 拍手のうちに両者登壇 ——

金城裕幸氏(以下 金城と表記)

えー、はいさい、ぐすーよー、ちゅーや へーべーとうから、いめんそーち うたびみそーち、いっぺー にふえーでーびるさい。えー、わんや うぬ 大学ぬ、えー、一期生、音楽学部ぬ 一期生ぬ 卒業生 なとーやびーん。えー、わんにん しかつとう、うちなーぐち、なーびらんぐとう、あぬー、いーぼっぺー ちちぼっぺー あいびーぐとう、どーでいん ちちぬがち うたびみしえーびりさい。ゆたさるぐとう、うにげーさびらさい。(会場より拍手)

照喜名朝一氏(以下 照喜名と表記)

はいさい、ぐしゅーよー、ちゅー ううがなびら。さちふどうぬ、ぐあんねーぬとうーい、わんねー 照喜名朝一んでい、いちよーいびーん。みーしっちょーてい、うたびみそーり。

金城 ゆー しっちょーいびーん。(会場より拍手と笑い湧き起こる)

照喜名 金城君が、わんにんかい、質問すんでい、いみしえーしが、ぬーが ちかりーら、しわん やいびーしが、ないるだけー うちなーぐちさーに、ぐふいじ うんぬきれーやーんでい、うむとーいびーん。ゆたしく、ちち うたびみしえーびり。

金城 (ありが)とーすつ。あんしえー しんしーさい、ちゅーや つんまー、うふく っちゅぬ、あぬ、めんそーち うたびみそーち、いっぺー、あぬ、緊張そーいびーしが・・・

照喜名 ちよつと わんわんして聞こえない。

金城 わんわんして、ちからん。・・・あんしえー なー いふいぐわー、うすば ゆていから。・・・はい・・・

- しんしー、つんまー、わん すばんかい ゆていから・・・とーさい、とーさい あんし、はい、たい、たい ならでいから・・・
- 照喜名 みーとうんだぬぐとうる ある。 (会場から笑い湧き起こる)
- 金城 みーとうんだー、です。..ふんふんうー (笑い) ..あんしえー あぬ さっそく やいびーしが...
- 照喜名 うん
- 金城 うーん、照喜名しんしーや、つんまりていから、しぐ サンシン ひちやびていー。
- 照喜名 あー つんまりたくとうる、サンシンぬん、ひちゆる。やー。
- 金城 あいー、
- 照喜名 つんまりらんむんぬ、サンシンぬ ひかりーんなー、やー。
- 金城 つんまりらん さちから、ひかりやびらんしが、
- 照喜名 つんまりらん さちから、ちちよーしえー ちちよーしが、ひちゆしえー・・・、
- 金城 あー、なるほど。 あー、
- 照喜名 つんまりていからる ひかりーる、つやーや。
- 金城 はっはっはー (笑い) あんしーねー なはしー ちちーるん しえー、「くーさる じぶんから、サンシンや ひちよーいびーたん」ち、いー。ちちよーいびーしが、
- 照喜名 うれー、うれー、じちえー わーが、むーちぬ とうしに、わったー たんめーが、さきぐわーうさがやーに、「えー、つんまがぐわー」。わったーや つんまがぐわー一つついう。たんめーもかずは、ええー あの一、子どもの数、数、あつ、くわぬちやーぬ かず、あぬ かじ いってい、ていーち、ええー、ていーち、たーち、みーち、ゆーち、いちち。むーち、ななち、やーち。くくぬちぬ つくわが つんまりたん。うぬ なかぬ わんねー しちばんめー やいびーん。ぬーんち、朝ーんち なー ちきてーがやーって、
- 金城 はっはっはー (笑いを抑えつつ笑う)
- 照喜名 わんにん ひるまさぬよーさい。くれー、わん 朝ーぬ いちえー (注 「一」は) よーさい、市場 (いちば)ぬ 「市」 やいびーんたんでい、
- 金城 うーんん。
- 照喜名 うん。あんさーに、いくさ うわてい、国勢調査んでいる 国ぬ しらびぬ あてい、市場 (いちば)ぬ 「市」しーねー、くれー 過分数 なやーい とーりーさーんでいち、
- 金城 はっはっはっはー
- 照喜名 うやや、うり のーし、のーち、なー のーし やれー くるばんぐとうし 「一」んかい のーしえーでい いやーに、うぬ 戦後、国勢調査の時に、とうちに、わんねー 「一」 なんとーいびーん。
- 金城 うーん・・・
- 照喜名 ぐめんどー やしが、「一」なていよーさい、わんねー くるばんしえー、なまん かんし いちちよーしん、うぬ「一」ぬたみ あらんがやーんでいち、どうーつし なまー うむとーる とうくま やーびーん。
- 金城 なー くるばん なていから、「ちよーいちりゆー」(注 超一流と朝一流を掛けた) なんとーいびーさやー、なまやーさい。
- 照喜名 あっはっはっはっ、うれー わからんしが・・・
- 金城 あっはっはっ
- 照喜名 うれー わからんしが・・・
- 金城 あんさーい、また、くーさる じぶのー、あの一、すーが ちゆくてい くいーる あぬ サンシン、だきさーに ちゆくたる サンシン、ひちよーいびーたんでいち・・・
- 照喜名 あつ、くぬ うむえー、うるうびー やしが、つやりーねー、ああー あん やたっさーと、玩具ぬ、おもちゃぬ サンシン、あぬ、うやぬ ちゆくてーし、あおー、うっペー サンシンぬ ふとうさー ねーらんしが、だきかー (竹皮)、かーぬ 部分 とうやーに、つんまんか

い あなぐわー あぎやーに、みーちぬ ちる ちぎてい、つんまー、えー あぬー、カンカラ
グワー、イワシぬ カンカラグワー、うり ちぎやーに、わんにんかい くいてーびーんてー……

金城 うーん……

照喜名 うれー、わんが うびとーしえー、ゆーち、いちちぐる なていから、「つやーや えー、つん
ま くーさいにから、ずつ、うり、ずーとつ、ちゃー ちかいそーたんどーやー。いしがきんかい、
かんし そーてい いいーちよーてい、うたー、ぬーが あびとーがら わからんしが、『うー
うーわーわー』してー、うたー あらん、ぼー ぬちる そーがやーんてい うむいる うた
やたんどー」と、これ、せんぱいぬちやーが、いちくぬ せんぱいぬちやーが、あん いちや
ぐとう、「あはつはー、あいえー、あん やいびーたるばーい。あん やがやー、あんしる サ
ンシノー、すち などーてーさー」とつ、あんし いわれて、はじみてい わかいびたん。

金城 うーうん、あんし また、すーん また たんめーん サンシン そーいびーたるはじ やい
びーしが、うぬ また、たんめーぬ サンシノー、ちゃー やいびーたがやーさい。

照喜名 あーあ、

金城 じょーじ やいびーていー、

照喜名 くれー、じょーじが やら わからんしが、なま、たんめー やくとう、くーさいにから、ひちよー
いみしえーてーんやーさい。

やしが、あぬー、わんにんかい サンシノー とうらさーに、うたー あびたくとう、とうまい
んかい、わったー つんみーが めんしえーたん。で、あつ、でーでい、あんし、あぬー た
んめーが サンシン ひち、うた あびとーしが、つんみーがよー、「たんめー うたー、うたー
あらん。つやー、なー むのー ふくたーどう などーしが」と、……(会場大いに笑う)

「ぬー やが、ふくたーんていーしえー」……あー、いっばいんかい ひちみしえーぐとう、あれー
ちむぎわいが さら わからんしが、「うえー つんまがーぐわー」、(ぼく、あぬー、9人兄
弟の中に 七番め やくとう、なまえー うびゆーさん。つんまがーぐわー、つんまがーぐわー、
孫、まごつていう。つんまが、つんま、つんまがーぐわー)、「サンシン とうてい くわー」と、
サンシン むっち ちえーし、もうこのこうだと言われて、ちゃーしん りっぱに うたいぶさる
きもち やいびーてーんやー。あんさー わんにんかい、うん、「つやー うり、ちんだみつ
し とうらしえー」でい、ちんだみつし とうらち つし、調弦のこと ちんだみでい つゆん。
ちんだみつし うさぎたぐとう、たんめーや うつさし、たんめーがー わんねー ふみらん。
たーが ふみとーたがつたら。でいねー、いいなぐぬ うやぬ、あぬ、かま(窯)ぬ めーか
ら はーえーつし ちゃーに、「とー、朝ー。あんし じょーじ などーが」。

「あんし、つんまー 民謡ん ひからんそーてい じょーじんでい、なーや、いみしえーが」でい
いちゃくとう、「いいーいいー、つやーや なま、あぬー、ちんだみ そーてーぐとうや、なーち
んだみ なれーからーやー、はんぶのー サンシンや などーしとう いいぬむんどー」と、い
やびたん、つやつてい、「あー、あんる やがやー」でい いち……

金城 しんしー、なー、ちんだみや ならていん うういびらん、ちちゃーに うびてい、ちんだみ
ないるぐとう、やいびーてーさい。

照喜名 たんめーやよー、うりから、しーじゃぬ やつちーたーん、むる、サンシン ひちゆしえー。あんし、
うれー なー、なんくる ないるぐとうまでい、などーんばーてー。あんし、いいー、ちんだみ
さくとう、「えー、つやーや、はんぶのー などーくとうやー、サンシノー などーくとう、いー、
ちばりよーやー」って……

金城 うり また、あしでいどう うういびーしが、あぬ、ちんだみぬ しーよー……

照喜名 いー、

金城 あぬー

照喜名 うー、うぬぐとー……

金城 あぬ ちゃたん(北谷)、でい……ぬーが

- 照喜名 いー、あぬ じぶんぬ ちゃたんでいしえー、いさ(伊佐)から、あぬ、んーん、ぬーんでいが・・なまぬ みはま(美浜)・・えー、ひじやい にじり むる たーぶつくわ。そー、たーぶつくわ。だから あぬ じぶんぬ サンシンぬ 調弦よーさい、サンシンぬ ちんだみ、
- 金城 「ちゃたん・・ちゃたん」
- 照喜名 ー歌節に乗せてー「くえーぬ めー、くえーぬ めー。たーぶつくわー、たーぶつくわー」(会場、爆笑)。
あつ、わん ちんだみ、あたとーいびーがーやー、・・・・
- 金城 ゆー あたとーいびーんどー・・・・うぬ、にあぎ(二揚ぎ)、二揚ぎバージョヌん ねーやびらにさい。
- 照喜名 ううん、うえー、うえー、うーん、うーん、ほんちゅーし、調子、ふんちよーし(本調子)。
- 金城 おー、ふんちよーし。あー、ふんちよーし、あーなるほど。
- 照喜名 うりんかい、また、あぬー、いちあぎ(一揚ぎ)んちよー
- 金城 あーあー、いちあぎ
- 照喜名 いちあぎんち、くれー、うーん、「打花鼓(たーふあーくー)」ぬ ちんだみ。あれー「一揚ぎ」
- 金城 うーん、あー
- 照喜名 ドレミ、ドレー、ミー、ミーの音を、(注 音階に合わせて発声)じゃー、あんた上げて、あれ、「打花鼓(たーふあーくー)」の。
- 金城 あんしえー、本調子、ふんちよーし
- 照喜名・金城 ふんちよーし、にーあぎ、
- 金城 あんし、ちちあぎ・・
- 照喜名 あんし、いちあぎ
- 金城 ちちあぎーんちえー ねーやびらに。
- 照喜名 だからあるよー、あぬー、いちあぎんでいしえーやー、なまー・・・・
- 金城 “とーちんだみ”(注 とー:唐)
- 照喜名 とーちんだみぬ はなし やいびーん。
うりんけー とーちんだみでいしえー、うり、ちんだみぬ ちがとーくとう、とーちんだみでい
いちよーいびーん。わったーが うむとーたしや あねー あらん。じちえー、うちなーぬ
「伊集ぬ 打花鼓(つんじゆぬ たーふあーくー)」や、うぬ とーちんだみぎーに うたーつ
とーん。
- 金城 うーん、なるほど。
あんさーに、まー あぬー、ある程度 サンシン ないびてい、あつ、また、本格的に、あ
ぬ、古典音楽んかい、あぬー、いっちやる きっかけー ぬー やいびーたがやーさい。しー
じゃんかい、ぬーがら、あぬ、「つやー うたー、自己流 なとーぐとう、しかつとう しんしー
から なららんとー ならんどー」んち いらつてい、うりから はじみたんち、ちちよーいびー
しが、
- 照喜名 やいびーさ。(会場 笑い起こる)
うれー ぬーんちがんでー、わー しーじゃ やいびーしが、わん しちやんじううてい 1年
間、はらちよーいびーたん。航空会社ううてい。なー、航空会社ぬ しぐとう やくとうやー、「ひ
こーけー とうべーからー、かならじ、うりーし やんどー」。
- 金城 うーん
- 照喜名 うん。あぬ、うり以上ぬ くとー かんげーらんとー、ひこーけー ちゃー・・ぬーんでいが、
あんぜん(安全)でいしえー、ぬーんでいが。
- 金城 ふー・・・・。
- 照喜名 あんじん(安全)でいしえー ぬーんでいが・・・・
- 金城 あんじん・・・、あんじん、ぬーんでいが いやびーがやー・・・ぐすーよーさい

照喜名 へっへっへっへー 「ぬーぬ さわいん ねーんぐとうし、うん、うりりよーやー」んでいる
いみ(意味)てー……

金城 はいはい。ああ、なま、しーじゃんけー、「うれー サンシン ならりよー」んち いらったぐとう、
みやぎと(宮里)しんしー……

照喜名 「うーん、わねー サンシン ないむんぬ、どうーつし ないむんぬ。ぬーが なれーる」。

金城 「ぬーが、なれーる」んち、

照喜名 「うり ならいぬ とうくまん あんなー」ち、ちちやくとう、「つやーや、なま、つやーが そー
しえー、どうーふー(注 胴風:自己流のこと)る やんどー。どうーふーしえー あのー サ
ンシノー じょーじえー ならん。どうーふーや しむくとう、うぬ、なー たつちよーぬ し
んしーぬ めーかい つんじやーに」、みやぎとと言って、ちにんううとーてー、みやぎとに な
ぎとう 云うんですよ。みやぎとう、なーぎとう ですよ。みやぎとだけど、なーぎとう とい
うんですよ)。なーぎとう。

金城 うーん……

照喜名 「あんちゆぬ めーんかい つんじ、なられー」んでい、いやびーたん。

金城 うり また、ならたぬ キッカケには、あぬー、ぬーがら、あぬー、パチンコさーに いへー
うどうぎ……

照喜名 んんんー、あぬ じぶのー パチンコー ねーらん。パチンコでいーしえー ねーらん。

金城 あー、ぬー やいびーがさい。

照喜名 スラットウ(slot)、スラットウ、マシン(machine)と言って、今はスロットマシンと言うわけね。
ところが、スラットウ マシンって言っている。

金城 ぬー やいびーがさい。ぬーんち、しかつとう りっぱ アメリカぐちさーに……

照喜名 アメリカぐちさーに、

照喜名・金城 スラットウマシン(slot machine)

照喜名 うぬ スロットマシンでい いーねー、へっへっへっー、うん。つんまううとーてい、1ドル(注
米国1ドル硬貨)とう、うりから 25セン(注 米国25セント硬貨)みーが での。また
いちばん やつさしえー、あぬー 5セント(硬貨)、5センどう やたがやー、5ドル。1ドル、
えー、1ドル25セント、うりから、うーんん・うーん、5ドルというのもあったかなー

金城 わったーがー、ちかてー うういびらんぐとう、わかいびらん。うれー なー くねーてい とう
らし……

照喜名 うれー、むる うちゆくわーりやーにやー、はーだーりー なたい、

金城 ひっひっひー ちるだいし、

照喜名 いー、なまー こくさいどーりんでいしえーやーさい。あぬ 国際通り。
あつ、あまから うりてい、なまぬ 警察ぬ ある とうくまから また あつち、あの、ち
むる とうくまんかい、つんまー あのー つりぼりがある、あるって、うーんん、勉強堂の、
勉強堂の 土地だから、つりぼりもあつて、えー、うぬ、うーん、松尾ぬ 赤土、どんどん とう
やーに、壺屋(ちぶや)んかい むたち やらち、つんまんかい、なまぬ あぬ 国際通りてー、
すぐ、つんまー、奇跡の1マイル。ちょうど あぬ、あまー、リウボウぬ めーから、えー、安
里(あさとう)までい、1マイルんでい いやいびーんでい、

金城 うっうーん

照喜名 1マイルんでいーねー、よーさい、えー、1600メーターかなー。ちょーどう 奇跡の1マイルん
でい なたーやびーん。

金城 うぬ 奇跡の1マイルぬ ちかくんかい、みやぎとうしんしーぬ サンシンぬ けいこばや
あいびーていーさい。

照喜名 うーん、ああー、うぬ なまー 国際通りんち、

金城 ほー、うー

- 照喜名 いちよーしが、あぬ 奇跡の1マイルから 国際通りに かわたしえー、つんまんかい、あぬ、あの一、国際劇場、アーニー、アーニーパイル劇場という はなしー、しつちよーみーしえー、しえー めんそーらんがやー・・・
- 金城 めんしえーるはじ やいびーしが、
- 照喜名 ああ、
- 金城 うふつふつふー(抑えて笑う)
- 照喜名 んかしえー、つんまー、アーニーパイル劇場。これあの一、アメリカ兵の名前なんすけどね。で、その劇場の名前を変えたのが、高良一(はじめ)さん やさ。高良一さんに頼まれて、僕、わんねー あぬ じぶの一 軍作業 やいびーたくとうやー、軍作業さがちー、うぬ、おきなーんけー、国際劇場ぬ ネオン つくりんでき いやーに、わんねー でんきやー やいびてーくとう、ゆばりやーに、うり ちきてい、高良一さぬ つんじやーに、わーが 結線(けっせん)し、あの一、うわてい、「はい、なー うわやびたんどー」んしえー、えーじさくとう、「はい」んできい やーに、高良一さんが スイッチ いったら、クワアアとあの一、ネオンが でききてい、うぬ ネオンが でききたために国際通りに変わった。
- 金城 あーあ、なー(名)が。奇跡の1マイルから 国際通りに んち・・・
- 照喜名 うん、奇跡の1マイルから国際通り。だからいま、世界のねー、
- 金城 あーそうですねー
- 照喜名 観光団ぬ いっぺー めんしえーしえーやー、あーあ うり、いいー くとう しえーさーつて、わんねー、どうーつし うむとーいびーんどー。
- 金城 あんさーに、よーさい、しんしー、みやざとうしんしーぬ はなし しーぶさいびーしが、(金城の質問への答えがずれていることから、会場より笑い起こる)
あぬ 国際通り、あまー、ぐすーよーん、ゆー しつちよーいびーんよーさい。宮里春行しんしーから、ちやぬふーじーさーま ならたがやーんち、ちちぶさいびーん。
- 照喜名 あーあーあつ、(会場 笑いで湧く)
- 金城 むちかさいびーみ・・・
- 照喜名 ああー なるほどう、わったー あぬ しんしーや、よーさい、いっぺー、あぬー、ちぶるぬ すぐりてい めんしえーてい、・・・社会んでいりてい やー・・・社交的ていしえー ぬー やがやー、ちゆびれー・・・
- 金城 ちゆびれーぬ じょーじ
- 照喜名 じょーじ やいびーん。あぬ、しきんぬ ちちゆぬ、あぬ、ちむぐくる ていーちに まとうみてい する、いっぺー でききやー やいみしえーたん。
- 金城 うーん、「いっぺー また、めんどーみ(面倒見)ぬ ゆたさる ちちゆ、やいびーたん」ち、ちちよーいびーしが・・・
- 照喜名 はー、もー、したたか、はー、ちちゆうむやー やいみしえーたんやー。うれー、わーが ならい、なれーがんち、しーじゃに つやつてい、えー、つんじやくとう、いちゆるばしよー、「あー、つやー ゆー ちえーさ、つやー しーじゃから、つやー はなしえー ちちよーたんどー」てい いみそーち、うりから ていしりりさびたん。
- 金城 てい、あんしん ならいはじみ、また、みやざとうしんしーんかい、また、『くていぶし』から うにげーさびら。」んち・・・
- 照喜名 「みつくわー、はぼー うじらん」でいりる 言葉も あいびーさ。(註 盲、蛇を怖じず) くれー やつぱり、この一、恐さつていうのは分からん。行って見ないと分からん。ふんとに 正確ぬ うたいかた(歌い方)んできい、あさやーんできい、つんじ はじみてい わかやびたん。「あー、くれー、うとー みーゆしや あらん。ちちゆる やさやー」と、はじみてい わかていよーさい、「あー やつぱり、くれー、おんがくんでいしえー、みみぬ ていーち やつぎー」んできい、ち、あんし うむやびたん。

金城 あつまた、しんしーぬ ならーしよーや、みやぎとうしんしーぬ ならーしよーや、いっぺー、ちゃんねーるふーじーつし、「くぬ、ばち なぎてい、ぬーさい さびーていー」……

照喜名 んー

金城 ならんねー、しぐ、ばち なぎたいっし……

照喜名 んんん。うんぐとーや、わったー しんしーや、うんぐとーや むる さびらんどー。しんしーや、「ちゃーしえー、わー うた うぎとうてい とうらすがやー」んち、うぬ てん(点) どう かんげーとーいみしえーる。あぬー、うしちぎん さんどー。うーん、まじゅーん うたてい、「とーとー あんし しえー。とー なま やぎ。とーとー、つんまー うふえー なーふいんぬばしえー。あつ、つんまー、うれー わたいぐわー やくとう、あんしっしぬばしえー。うれー、あね、いゆぬ ちんぶくとー いいぬむんや、うぬ ちんぶく なぎーねーやー、いゆぬ かかいねー、『うえーいーいー』と、まがいしえーやー、やしが、ながさー いいぬむんる やんどー」。ちんぶくぬ ははしーとうか、うぬ ふーじーつし、

金城 つんまー なーふいんぐわー、あぬ、くまく ちち、ちちぶさいびーしが、

照喜名 うん。

金城 なまぬ、あぬー、ふしまわしぬ はなしる やいびーしがてー、あぬ、ぬーんでいが、えー、いまぬ、えー、あぬ “とうばしなー”(注 飛ばし縄：イノーでの漁法のこと)

照喜名 “とうばしなー”、うーん

金城 つりぬ はなし やいびーしが、“とうばしなー”ぬ うたいよー、あびーよーや、“とうばしなー”んでいしえー、ぬー やいびーがさい。

照喜名 あー、なまん めんしえーが すら わかやびらんしが、“とうばしなー”んでいしえー、ふつー(普通)、えー、ひーじー ちかとーる あぬ ちんぶくとー ちがてい、“とうばしなー”んでいしえー、たいてい(大抵)、えー、4メーターぐらい、5メーター、あい、5メーターだったらどれくらいあるかしら……

金城 えー、あぬあたい、あぬあたい。あぬあたい あいびーんやー、あぬあたい。

照喜名 とーとー、あぬ、あぬ、あのー

金城 あぬ、ちゆらかーぎー……

照喜名 そうそう。ちゆらかーぎーぬ っちゆぬ……

金城 くしむてい……

照喜名 うん、そうそうそう。これ、こんだけ、うっぴなぬ だきが あいびーしが、うりんかい、あぬ、ぬーんでいが、むんだに。「むんだに、餌(えさ)ぬ くとー むんだにと言うんだ」、くぬ むんだにぐわー かきやーに、かんし なぎてい、しーねー、“とうばしなー”だから、とーくまで かんし ふいいちねー、なまー、あま うしろ(注 この会場)のてつぺんのとこまで、てーげー っちゆぬ ちゆーるぐとう、しぐ しーねー、うり ひっぱいさやーさい。うり、くり、うぬ むんだに、あぬ、みがきてい、うぬ、はいいゆ、ばちねー ひつかかてい ちゆーるばーよー。くりが、“とうばしなー”。

金城 あんしーねー、“とうばしなー”ぬ わじや、うり、うたん、うたに ぬしーねー、ちゃんぐとーぬ あびーよーぬ ないびーがやーさい。うんとうー……

照喜名 とー、あれーや、“とうばしなー”んでいしえー、なまー、リールんでいーしがあやーに、文明ぬ 利器が あぐとう、まーまりん とうばざりーしえー、

金城 はい。

照喜名 あぬ じぶのー うりが ねーんしえーやー。なー、うぬ、「なー」、「なー」んでいしえー 「ひも」、「ひも」のことを 「なー」んでいいう……

金城 「なー」。はい

照喜名 あぬ “とうばしなー”ぬ ながさる な(投)ぎ やくとう、うりやー、うたんかい かかいねー、ながてい むんだにびけー あぎちーねー、からあがい。「あいやー」んでい、あじ(味)

ん ぬーん ねーらんばーてー・・・

金城 うん。

照喜名 やしが、うぬ むんだに なぎやーに、すぐ、いゆぬ くーゆさー、くーいねー あれー ひんぎーる すしえーやー、くまー また ゆしーんでいる すしえーやー、ちんぶこー たまいしえーやー、

金城 うー。

照喜名 うりん また、うたに たとういてい、「いいぬ ながさる やしが、かんしっし いゆぬ かかれーからー、かんしっし いちゆしえーやー。とー うたん あんしっし、いかんとーならんどー」でい、

金城 うん、うん、うん、

照喜名 あんしっし、

金城 あんさーに、うり うたさーに ちゃーし あびやびーがさい。なま、見本だけ、見本、ちゃーし・・・

照喜名 んーりよー (仲風節)
「さあーあー・・・あーあー・・・まくー・・・う」(充分に伸ばして謡う)
「さあーあー・・・まくー・・・う」(短く歌う) ではいかんね。(会場 拍手喝采)

金城 これが、“とぅばしなー”。

照喜名 そうそう、まー、うりが“ とぅばしなー”ぬ うたー、たぬしみ やん。

金城 たぬしみ やん

照喜名 うん。ふつー(普通)ぬ ちんぶくや、あの一、かかていん こんなにならんけど、“とぅばしなー”だと、こんなして、

金城 たまてい、

照喜名 たまてい すしえーやー、

金城 うりが “とぅばしなー”ぬ あびよー。

照喜名 あじ(味)。

金城 あっ、あんしん また、な一 ていーち、また一、あぬ一、んん一、“ぬしかいぐわー”

照喜名 あっ一

金城 “ぬしかいぐわー”んでいしえー、

照喜名 “ぬしかいぐわー”ね。

金城 うれー ぬー やいびーがさい。

照喜名 あれー、あぬ どうーぬ ちむぐるぬ いみ(意味)で、「ぬしかい」つていう。くれー つんまんかい、まー、たい、たとうえー、たとういねーよ。つんまんかい、ぬーんでいが、こーしじよー(格子状)で、あぬ、

金城 まどう

照喜名 わからんしが。はしるがあつて、あてい、くまー しちゃー みーらん。つんまからや みーいしが、しちやからー みーらん。なまぬ みーねー、まどう・・・

金城 まどう

照喜名 うん。うぬ まどうよー。うぬ まどうんかい いいーちよーてい、「あい、たー やたがやー」。「まーぬ たー やたがやー」、これを「ぬしかいぐわー」という、ぬしかてい・・・

金城 ぬしかてい、んーじゆる。うーん

照喜名 そう

金城 “ぬしかいぐわー”

照喜名 うん。「いいー－－－－いいー」つて、
また、ううーがあれば、
「ううー－－－－ううー」。

金城 うーん。
 照喜名 「ううーううー」じゃない。
 「ううー————ううー」 ぬしかい。ぬしかとーん。
 金城 あーあ、ぐすーよー、わかいびーていーさい。
 会場 (笑いと拍手)
 金城 とー あんしえー まじゅん さびーんどー、ぐすーよーさーに、「ううー————」。なー ちゆ
 けーん、ぐすーよーん まじゅん さびら、
 照喜名・金城 「ううー————ううー」。
 金城 あっ、あとはく(後拍)、ひちゃびーんばーさい。ひちゃびーんなー……
 照喜名 そうそう、「ううー————」。「ううー」これ、切れたらおかしい。
 金城 切れたら……
 照喜名 「ううー————うっ」、うれー ちびちらーんてい いーん。しりちり……
 金城 ぬしかいちびちらーです。えっへっへっへっへ
 また、あぬー、“わたいぢん”(渡り吟：声法のひとつ)
 照喜名 “わたいぢん”。あっ、これーねー、
 「いーいーいっつ」。「いーいーいっつ」「いーいーつ」あの、詰まるような、あの、謡い方と言う意味ね。
 “わたいぢん”ぐわー。
 「ていーいー————」、
 「い————」、
 「い」と止めるのではなくて、
 「ていーいー————ていーいー————」、
 「ていーいー————」、
 “わたいぢん”ぐわー
 金城 こう、石から石にこう跳ぶ……
 照喜名 そう、跳ぶような感じ。
 「ていーいーいー————」。「いーいー」でやったらいけない。
 「ていーいーいー」じゃーだめですよ。
 「ていーいーいー————ていーいーいー————」と言わないといけない……
 金城 うーん、あんしえー、ひつたていてい……
 照喜名 そうそうそう
 金城 こんなー、あんやいびーんてい。
 照喜名 あっはっはっはっはー
 金城 あんし また、“ゆしぢん”(寄せ吟)
 照喜名 あー、“ゆしぢん”っていうのはねー、高音から「いーいーいーいーいー」(と下げる)あるいは
 「いーいーいーいーいーいー」とこう言う。
 「いーいーいーいーいーいー」と、動く時に、ちいちゃい味ぐわー付けるんだ。
 金城 こう、さぎ、さぎてい、とうまいるまでいぬ、……こう
 照喜名 「いーいーいーいーいーいーいー」、
 「いーいーいーいー」、
 「いーいーいーいー」って
 金城 しかつとう ゆしていから、また、調子を上げる
 照喜名 ぼく、あんちしち ゆしてうから。「いーいーいーいーいーいーいー」
 金城 うーん、なるほど、ふかにん あいびーみさい。ぬーがら、あぬ ふしぬ、ふしぬ なーや、
 照喜名 うん、もー、いっぺー まんどーんどー。(会場 笑い起きる)
 っやーが、っやーが ちきわる……ふいじ ないる。
 金城 あっ、わんや なま、うっぴしか わかやびらんむんぬ、
 照喜名 えーっ
 金城 ……ぐとう、あとー、なー ていーち、たーち、ならーち うたびみそーらんがやーさい。
 照喜名 うん、あぬ、えー、なーひん、しーぶさー あしが、じかんぬん ねーんしえーやー、
 金城 あーあっ、あん やいびーさやーさい、
 照喜名 つぎぬ むんぬ あえー さに、

- 金城 あぬー なまよーさい。あぬー、照喜名朝一しんしーんでい いれーからー、いっぺー いちぬ ながさぬ、うん、いっぺー なー いーちぬ ながさぐとう、あの「あさいち(朝一)」や あらん、「いち、ながいち」(注 息、長息)んち ちやーに、「照喜名長息(てるきなちよいういち)」る やがやーとう、うむいるあたひ、いーちぬ ながさいびーしえー しんしー。うぬ、いーちぬ ながさー、ちゃんねーしーねー、照喜名しんしーぐとう ないがやーさい。
- 照喜名 ああー わんぐとうし、とうしゆい なれーからー、ないるぐとー・・・
(会場 大いに笑う)
- 金城 はっはっはっはー。あんしや また、40ぐるぬ わんぬ ないびらんさやー
- 照喜名 えーっ
- 照喜名・金城 はっはっはっはー (両者 笑う)
- 照喜名 いや、うれー あぬ、ふんとーぬ はなしどー。とうし とういしんでー、くいぬ たぶい や ないしえー。うぬ、ぬーでいーしる、あぬ たぶらりーる。まーしん たぶらりーる。ちやつ さ ありしん・・・ぬーでいーさーに たぶいるぐとう だったら。ちゆけーんなか はちつ んじゃしーねーやー、「だーっ わーん」でい いやーに、えー なー うっぴる ないしえー やー。だから、ちゆけーんなか はちつんじやさんぐとうし、くーてーんなーから つんじやち しーるん しえー、ながーく むちゆんばーてーやー。うん。
もう、さいしよから 「さあーーあー」でっだったら、もうおわりよ。
- 金城 う、ふっふっふう(笑い)
- 照喜名 「さあーーあー まくーー」んでい いれー・・・
- 金城 あーあ、なるふどう。また・・・
- 照喜名 はちつんじやすな・・・
- 金城 なー くーてーんぐわー、くーてーんぐわーなー、あぬ つんじやち・・・
- 照喜名 そうそうそう
- 金城 あったつんじやしん さんよーい
- 照喜名 うんそう、ゆー、わったー しんしー、みやぎとうしんしーやー、あんし いみしえーたん。
「えー、つやー、じんちかいねーやー。つやーや きんちやく あきやーに、がま、きんちやく、あぬ、がまくちぬ ひらちゆしえーや」。きんちやくー わかいみ・・・
(注 じん：ぢん/吟「発声法」とじん/銭「金銭」に掛けた表現)
- 金城 うー。わかいびーんどー。
- 照喜名 ぱちみかち あきてい、ぱちみかち しみーん。あぬ きんちやくぬ うとー、うぬ くがにぬ うとうどー、あり。いー。
「うり あきやーに、いっちよーる じん むる つんじやしーねー、から なてい、あじん、ぬーん あじ ちぎららん ないんどー。あんすくとうやー、うれー ちかいしんでーどう、くま、じんや つんじやする。あちよーくとうでい いやーに、いっばい、多く つんじやしーねー、あとー ぬくらんどー」でい、・・・
- 金城 うん、うん。あん やいびーさ、やさ。
- 照喜名 「うたん いいぬむん」でい。
「うたん うふいんぐわー なー つんじやち、あんし、なるびちえー、くいーん たむちゆるぐとうし、うたりよーやー」。がまぐちぬ はなしー やんばーてー、しみしえーたん。
- 金城 また、んかしえー あぬ、うみんかい ちかてい、あんさーに、くいー つんじやち・・・
- 照喜名 くれー なー、いちん いみしえーたん。うん。うーん、ぬーんでいがやー。くいー ちゆく いるたみねー、なまー、うぬー、文明ぬ 利器んでい いるい。うれー ぬーんでい いーがやー、
- 金城 ぬーんでい いーがやー、
- 照喜名 文明ぬ 利器んでいしえー、あつさみよー。くれー、ないる わぎぬ つちゆぬ すしる や

んでい いやりーるあたい、うぬ くいー つんだし れんしゅー(練習)、
 「うみんかい ちかやーに、あんしから、あぬ、かじふちに くぬ いっち ちゅーる くり
 ンかい まぎらんぐとうし、はにけーち うたいるぐとうし、くいーや つくりよー」んでい。
 金城 なるほど。
 照喜名 わったーや、すぐ、しんしーや まくとうぬ きやみ(注 きやみ:極め)どう やくとう、あつー、
 くぬ っちゅが いみしえーるとうーい やるはじ やつさーでい、わったーや また、うぬ
 うみんかい にがてい、うた あびたい、ちるがた あびたい、なんみんぬ、うぬ、あぬ、あまー、
 うていらんでいる いるい、なんみんぬ すばぐわーんけーよー、あぬ、ぬーんでいが いら
 わからんしが、あまぬ、あまううてい てつぺんまでい、つんじやーに、やー、
 金城 うわーびから、
 照喜名 つんまんじ、うふあびーしえー、れんしゅーつし、さびたんどー。
 金城 あんし また、あぬー、楽屋ううてい ちちーるん しえー、あぬ、けーこぼ(稽古場)ううてい、
 あの一、クーラー かきやーに、まどー しみてい、あんさーに くいー つんじやち、こう、けー
 こぼー あつちやーに……
 照喜名 あーあ、うん、うん
 金城 ちゃぬあたい いーちぬ ちぢちゅがやーんちぬ、けーこぼー(稽古法)。
 照喜名 うん、あぬー、うれー、わったーや けーこぼー うふえー まぎさくとうよー、ぬーん うっ
 ペー、ただやー……
 金城 うぬあたい、やいびーさやー。
 照喜名 うん。「つんまから あつちやーに うびりよー」んち、むる ならびていよー、(音域を)ごだ
 ンかい(5段階)ぬ、あぬ、たかさ、ちゆくやーに、うたや、うたや、くいーや つんじやさがちー
 あつちゅんばー。
 金城 うぬ たかさんでいしえー、うたぬ たかさー、たかい、たかさる くいーから また ふい
 くさる くいー、つんじやさーに、
 照喜名 そう、まんきやーまんきやーつし、ていーちぬ うとー あらんどー……そう、うんぐとうー、
 金城 うれー しんしーんけー、かないる っちゅや、うういびーみさい。しんしーが、ちやー、ちやー
 あらんむんぬ、「あー」んち、あつちやがちー、あぬ、くいーが ちりーぬー とうまいんでい
 よーさい。また、ちぢちゅる っちゅぬ ちやー あつちー。まー、しんしーや ちやー あつ
 ちー、まーまでい あつちやびーがさい
 照喜名 うーん、まー、みちぬ あれー まーまでいん あつちゅしが(会場笑い)、だー、みちえー
 ぬーんる あくとうよー、つんま ぐるぐるぐるぐる、みぐいる うつぴる ないるばーよー。
 金城 あんさーにる、あぬ、しんしーぬ すきな、しちな くがにくとうば。
 「みちん あつきわる、むぬん しらりゆる」ぬ「みち」。
 照喜名 うん。あぬー、「みち」んでいしえー、「みち」んでいしえー、「あいこーぬ みち」ん あいびー
 らやー。やー。うん、「やまししぬ みち」ん あいびーん。うりからー、あぬー、ぬーんでいがやー、
 「クイナーぬ みち」ん あいびーん。「っちゅぬ みち」ん あいびーん。うぬ なかえー、いちー
 るん しえー ぬーぬ あがやー……。ぬー やていん しむしが、うり、いち なんだん
 とー わからん。
 金城 うん。
 照喜名 だから、「みちん あつきわる むぬん しらりーん」でいる くとうばー、くれー むる あ
 ぬ しらあり(白蟻)よーさい、ありん くわつくいーていよー、うぬしらありが くーとーしん、
 くわーとーしん わからん。うりが、あぬ あれー、ぐんぐわちぬ ゆつか、あれー、うぬ
 なまじぶのー あらんがやー。うぬ はにぐわー ちきやーに とうぶしえーやー。
 金城 おうー
 照喜名 とー、あれー でーじな むんどー。むのー しつちよー、こー、うぬ なーかううてー、う

- れー うちゆくわやーに、はにぐわーが、また、みーてい ちゅーるえーかー、しらんふーなーさーに、なーかー うちゆくわてい、はたがーびけーん ぬくちよー、なーかー ガラガラ などーん。はにぐわーが つんじーしえー、なー、たーがらが つんまー あなぐわー あきーさーやー、つんまから、「ぶおー―――」つし、ちゅけーんなけー、さーらない ひんぎてい いちゅんよー。また びちうてい、また うぬ ためし、つくわつんまが ひるぎやーんでい、ひるぎーん。
- 金城 ふっふっふーん。
- 照喜名 くぬ みちすい(注 道沿い)に、ぬーんでいが、あぬ、フーフーつし、ほんちゅすしが あしえー、
- 金城 ふう・ふきや(吹矢)。
- 照喜名 へー、
- 金城 ふちや・・・・ぬー でーびるが、
- 照喜名 ぬーきやー、んでい いるい。
- 金城 あーあー、フマキラー(注 殺虫剤の商品名)でいし やいびーがやー。(会場笑い)
- 照喜名 へっへっへっ、ありんかい かからんぐとう、へーく ひんぎらんでい いやーに、ひんぎてーさ。なまじぶのー なー とうどーるはじどーさい。
- 金城 あー、おー、おー。
- 照喜名 ちよーどう、なまじぶん むる とうでい あつちゆる。うれー、うりん いちち するために、うぬ みち とうめーてい とうぶるわけ。えー うっぴしえー、「ちゅん やっぱり、みちん あつきわる やる、むぬしらり ないしえー。うり ひていやーに、とー、はなしえー ならんどー。つんじ んち はじみてい、あまぬ くとうん わかいんどー。ちゅぬ はなしん ちきわる むぬぐとうん ならーりーんどー」んでいぬ、あぬ、ちてー やいびーん。
- 金城 あぬ また、しんしーぬ、くんどー あぬ、ちーくぬ しーかた、ちーくぬ しーかた やいびーしが、
- 照喜名 へー、
- 金城 ちーくぬ しーかた。あぬ、ひーじーぬ、あぬ、サンシンぬ、
- 照喜名 うん。
- 金城 うたぬ、れんしゅーぬ しーかた やいびーしが、
- 照喜名 うん。
- 金城 あぬ、ぐすーよーん、まー、てーげー、あぬ、サンシン ならてい、なー わんにん、こくほー(国宝) ないぶっさつさーんち、ちゅぬ めんしえーるはじ やいびーんよー。ちゃんねーしーねー、れんしゅーしーねー、また、しんしーぐとう ないがやーんち、ちゅー、ならいが ちよーいびーぐとう、どーでいん また、ならーち うたびみしえーびり。
- 照喜名 やまとうぐちしえー、ぬーんでい いやびーがやー、「やれば出来る」。(会場 大いに笑う)
- 金城 さんていん、あつちる。
- 照喜名 うん。सानんそーてい ないるはじが やら、しーるん しえー なんくる ないさ。サンシノー ちかみてい なんだなそーてい、サンシンぬ ひかりーんち あんなーつて。ぬーん しむしが、あねー あらん。サンシノーよー、いっぺー いっぺー、あぬ やさしいぐわーでいしえー ぬーいがやー、かわいぐわーでいしえー ぬーでい いがやー、「かなさん」(注：愛さん)
- サンシン ちかみーしやーさい、サンシノー、どーぬ つくわつんまがぬぐとうし、くいー つんじやすしえーやー。サンシン ちかみーねー、どーぬ つくわつんまがぬ くいーんでい うむてい、しーねー、サンシンぬ うとうん、いっぺー すーらーさいびーんどー。
- 金城 ほうー、
- 照喜名 わかみ、わかみしえーみ。

金城 あっはっはー、ほー、ううがどーいびーん。
あぬ、しんしーさい。あぬー サンシンとう、サンシンとう とうじとう、じろー ましやいびー
がさい。(会場笑い)

照喜名 たーち ましえーやー。(会場笑い) ていーちーやかー たーち。

金城 ていーちやかー たーち。たーちやかー みーち。さすが やいびーさ。

照喜名 あー んん・・・

金城 あんしえー、せつかくどう やいびーぐとう、ぐすーよーぬ また、なーかから、ぬーがら、あぬ、
しんしーんかい ちちぶさる くとうぬ あいねー、いへー とうーてい んだなんち うむや
びーしが、ぬーがら あいびーがやーさい。ぬーがら・・・

照喜名 ぬー やていん しまびーんどー。なま、ちゆくちしん しまびーさ。

金城 ぬーがら、ねーやびらに・・・

【しばらく間あり】

照喜名 とー うたー、むちかさぬやー、んでい、んな うむとーみしえーしが・・・

うたー、むちかしこー ねーんどー。くいーぬ あれー うたー、ないびーん。うん。

「♪もしもしかめよかめさんよー——歌節に乗せ——」、ゆー いーんよー。あんしが、「もしも
しじゃない、むしむし・・・」んでい いーねー、じゃーふえーどーさい。「むし」えー あらんどー
さい。

金城 あっはっはっ

照喜名 あれー やまとうぐち やしえーやー、

金城 ううーううー、やっぱり サンシノー、んかしのー、サンシン ならいがー あらん、うた な
らいが いちゆんち あいびーしが、やっぱり うたー うたがる うちなーや

照喜名 はー、つやー、んかしから ウタサンシンんちる やる。サンシンウタんでい いらん。

金城 うんうん、ちゃー、ちゃー やっぱり ウタがる さち

照喜名 うん。ちゃー、ウタサンシン やさ。ウタが あくとうる、サンシンぬん また、ウタに あー
ち、ひかりーるぐとう ないる。うりる ウタサンシン やる。

金城 うん。

照喜名 あんすくとう、ぬーぬ うたやていん、サンシンさーに ひけー、なー じよーじ やいびーさ

金城 しんしーぬ、あぬ、ぬーがら くくるに ぬくる くがにくとうばんち、ぬーがら ねーにさい。

照喜名 ぬーがらんでい いーねー、うちなーぬ くとうばー、むる くがにくとうば やいびーさ。ていー
ちえー あらんどーさい。くがにくとうばー むる くがにんでい わんねー うむとーいびー
ぐとう、ちゆーん うちなーぐちし、なま、ぐひじ ぐあんない、えー、そーる ちむえーどう
やいびーぐとうやー、うん。

金城 うぬ うちなーぐち ぬくするたみなかいや、ちゃーし しえー しむがやーんち うむいや
びーがさい。

照喜名 んんー

金城 うちなーぐち ぬくするたみねー、ちゃーし しえー、しむがやーんち、なまからー わったー
や

照喜名 あーあー。うちなーぐち ふんとに ぬくしぶされー、どうーぬ つくわつんまがんかい うち
なーぐち ならーち いちゆし、うん、なー どうーぬ とうしさーに、どうーぬ じでーに、
なー うわらしえーんでいぬ うむい なれーからー、なー うちなーぐちえー ぬくらんどー。
うちなーぐちえー かななじ どうーぬ つくわつんまがんかい、うん、ならーちとういんどー、
てーげー、わしてい いしえーや、つんまがぬちゃーが

金城 うーん

照喜名 つんまがぬちゃーから・・・

金城 やっぱり、つんまがが、あぬー、たんめーとうか あしふる とうちに、たんめーが いる

- うちなーぐち ちちやーに うびてい
- 照喜名 そう、うん、あんしーるん しえー、あつ、わったー たんめー あんし いみしえーたつきー
でいち、わらびぬ くいーや、わらびぬ みめー ちち すぐ うびゆん。
- 金城 うん
- 照喜名 なー、わったーぐとう、とうし なれーからー、すごー うびーららん。一か月ぐらい かんげー
ていからしか、くいーや つんじらんどー。
- 金城 しんしー また あぬー、ちーくぬ とうちに、てーげー、なー、うちなーぐちさーに、なー、でい
しんちやーんかいや、いち、ならーち、
- 照喜名 うん、しーぶさー あしが、ちちゆる つちゆぬ むる うちなーや、うちなーぐちえー あら
んくとうよー……。
- 金城 あつ、ひっひっひっ……
- 照喜名 ハワイから めんしえーる でいしんちやーや、んな、うちなーぐち、ゆー ちかみしえーん。
やしが、くぬ うちなーんちゆぬ しんかぬちやーや しまくとぅばし、ならいしえー いぎら
さん。
- 金城 うーん、
- 照喜名 あんすとう、うちなーぬ、うちなーぐちぬ むとー、また、ハワイんかい むどうらなやーんでい、
わんぬー うむいるぐれー、ハワイんちよー じょーじ。いっペー じょーじ。うぬ、ぬーんでい
が、しばちけー(舌使い)ぬ、うぬ くいーつんじやしーぬ、うちなーんちゆとう どうく かわる。
- 金城 うーん
- 照喜名 むちかさしえー、「とうー」、「とうー」とうかねー、うん、「わんどうー」とうかね、「つやー」とう
かね、「んじよ」とうかね、とー、うんぐとーるーや、ハワイぬ うちなーけー(系)ぬ にーしえー
たーや、むる じょーじ。
くれー ぬーん ちがいんでー。やまとうぐちに ねーん くとうばが、うちなーぬ くとうばー
あらんとー ならん。うぬ、ぬーんでい いが、じんぢけー、じんぢけー(注 吟使い)が、
むちかささん。やしが、外国人の 外国(語尾不明瞭)、あの一、他国(たくに)ぬ、うん、つちゆ
ぬちやーや、どうーぬ しまぬ、どうーぬ くにぬ くとうば ちかてい じょーじ やみしえー
しえー、むる うちなーぬ くいー、はつおぬ(発音)んかい ぬーんでいが、
- 金城 あびよー、やいびーがやー。はつおん(発音)、あびよー。
- 照喜名 いー。くいーぬ ちかいよー。
- 金城 ちかいよー。
- 照喜名 うん、ちかいよーがよー、あぬ、たくにぬ つちよー じょーじ やみしえーん。うん。あんす
くとう、すぐ、うちなーぬ あぬ、くとうばー、すぐ うきとういやっさん。うちなーぬ くとうばー、
せかい(世界)んかい むっち つんじ、つーじーる(通じーる) はつおん(発音) やいびーん。
- 金城 うんうん。
- 照喜名 じしん(自信) むっち、よーさい、たくにぬ つちゆぬ めんしえーいねー、うちなーぐちし、
はなし しみそーれー。うっさ さびーんどー。
- 金城 うちなーぐちや、あぬー、ええいご(英語)ふーじー やいびんどーやーさい。
- 照喜名 あい、にーる とくまー もう たくさん、たくさん
- 照喜名・金城 あっはっはっはー。(同時に笑い合う)
- 金城 わったー わらばーたーん、あぬー、すーとう わんとー、あぬ、まるけーてー うちなーぐ
ちさーに はなしー さびーしが、わったー わらばーたーが ちちーねー、「ぬーが おとー
とう、あの一、おじーや、ぬーが、ええいご(英語)、英語、ちかとーんねーふーじーっし、ちかつ
ていっち、いらりーしが、
- 照喜名 あー、あんし かんちげーしーや すしが すら わからんねー。えー、かんちげーしーが
すら わからんしが、あぬー、英語、英語の発音ぬ、発音、英語ぬ 発音、いーかたんでい

る いるい、くぬ、くちぢけー・くいーつんじやししかた、うりから、うぬ、「うー、うー、いー、
 いいー」、うりから、「つやー」とうか、「つわー、つわーぐわー」とうか、これ(注 柔らかな声
 立てと声門破裂音の区別)完全にしゃべれるひとじゃないと、うちなーぐちえー つかいきれん。

金城 うれー ならんていん、また、うたにん えーきよー(影響)さびーんやー、うたにん。

照喜名 うん、うん。

金城 いるいる ちがてい ちゃーびーぐとう、

照喜名 うん、だけど、うぬ 発音でい いーねー、あぬ、くとうばぢけーや、「うちなーぐちえー せ
 かい(世界)んかい むっち つんじん、はじえー かかん」でい、いっぺー ちびらーさる
 くとうば やいびーくとう、じひ くり まむてい、また つくわつんまがぬちやーんかい な
 らーち、うぬ くとうばが ちゃーりらんぐとうし、んなさーに すだていてい くいみしえーて
 やーんでい、わんねー うにげーさびら。

金城 わんからん、うにげーさびら。(会場 笑い拍手喝采)

金城 あぬー、なー、なまから、あぬ、しんしーぬ、あぬー、ゆめ(夢)、いみ(夢)んでいーし いがやー。
 あぬー、なまからぬ こてんおんがつくわい(古典音楽界)、また、びちぬ くとう やていん
 しまびーしが、ぬーがら あいびーねー、ちかち うたびみしえーびりさい。

照喜名 あー、なー、くぬ とうし なれーからーよー、ぬー かんげーがんでいれー、ぬーん かん
 げーらんどー。なー、くりから かんげーいしえー、あぬ うちゅー(宇宙)んかい つんじ、
 あまうてい サンシン ひち、んなんかい うみかきれーやんでい、うむとーる、なま、しでー
 やいびーん。
 あま、わかみしえーみ。(会場 笑い起こる) — 注 宇宙:あの世の事 —
 たーがら めーんかい、あぬ、うちゅー(宇宙)んかい めんしえーる つちゆぬ、めんしえー
 ねー、しつちよーるーが めんしえーれー、じひ、わんにんかい しらち くいみそーり。わー
 サンシン むっち つんじやーに、まじゅん むっち つんじやーに、あまんじ ひちやびー
 くとう、あぬ、どうしんちやーが めんしえーらー、じひ、わんにんかい しらち とうらしみそー
 れー。うにげーさびら。

金城 あんしから、また、あぬー、しんしーぬ いっぺー しちな 「なかふー(仲風)」ぬ かし(歌
 詞) やいびーしが

照喜名 はい

金城 あり また、ぐすーよーんかい、あぬ、ならーち うたびみしえーびり。

照喜名 あー。
 「まくとう ひとつとうちぬ うちゆさみ ぬゆでい いくとうばぬ あわん うつが」(平読み)
 うれー わんにん、なーざとうしんしーんでい、みやざとせんせーぬ くとー なーざとうんでい
 やいびーしが、うぬ みやざとうしんしーが、
 「まくとう ひとつとうちぬ うちゆさみ。くぬ うちゆに、“まくとう”んでいぬ くとうばが
 あくとう、くれー わしてー ならんどー。『まくとう ひとつとうち』、一筋の、この浮世だよ。
 くぬ 誠がなかったら、法律も作れない、何も作れない、秩序が保てないだろう」と、やまとう
 ぐちさーに いみしえーしが、「まくとう ひとつとうちぬ うちゆさみ」。まくとうぬ うちゆ、
 だから、やくとう、
 「ぬゆでい いくとうばぬ あわん うつが」、どうしてこの誠をもっている人たちのことばが、
 話し合っつて、解決しないということがありえるか。
 ねー。だから、誠についていう言葉ー、大変重要な言葉ですよね、うちなーくとうば、だから、
 あの「仲風」は、七五、下句は、八六です。「まんちやー」でしょう。あんすくとう、なかふー(仲
 風) やんばー。うーん。うちなーや ニンベン あしが、やまとー ニンベンのない「中」づ
 くりでしょう。うちなーや、ニンベンのある「仲風」。うん。だから、

- 「まくとう ひとうとうちぬ うちゆさみ、ぬんでい いくとうばぬ あわん うつが」。うん。
 「誠の心を話しているお互いが、お互いを知り合えないことはありえないよー。だから、まくとう
 ひとうとうちぬ うちゆ で語る時には、お互いにほんとのことを真面目に話すことが肝要だ
 よー」でい、ほんとの意味 やいびーん。
- 金城 なまー、いくさぬ なーだ うわてー ねーやびらんぐとう、あまくまううてい、うたげー はな
 しえー しえー しむしが、うりんちょーん あたらん。まくとう うちなーで あたるはじ
 やしが、ぬーんち、うれー、あたらんがやーんちぬ ちむえーる やいびーさやー。
- 照喜名 うん。まつ。やまとうぐちし いれー、「私利私欲に悖る」ようにという意味になるとも思うんだけど、
 それは人間はね、えー、これ欲もあるからこそ、また、いろんなことをやる訳ですから、だから、
 それが向かって行くさち(先)は、どうなつて行くことと云うことを、予想努力して、いま持っている
 言葉。いまのこころを、真面目にお話しすれば、通じないことはあり得ないようつてことを、いつ
 ているんですね。
- 金城 なるほど。あんし なー ていーち、あぬー うちなーぐちぬ わーむん ていむとうんかい、
 「ていならいや さかに、ていならいや さかに、うしむどうる くるま」
- 照喜名 うん。
- 金城 「ゆだんどうん すりば あとうに むどうる」。
 くれー ちゃぬよーな、ちーくふー、あぬー、ちーくぬ しーかた。
 「めーなち、めーなち、ちーくさんとー、こう、さかー うしむどうる くるま、くさていから
 うすてい、ゆだんしーねー、うり、あとんげー むどうゆんどー、とう、あんすぐとう、ちーく
 や なー、ちゃー めーなち めーなち、しーよーやー」んち、うぬ くとうわい やがやーん
 ち うむとーいびーしが。
- 照喜名 うれー さかみちぬ はなし やさやー。
 うれー、ぬーん ちがいでー。さかみちんでいーねー、てーげー すいぐすく やさ。す
 いぐすこー さかみち。あれー、なーふあぬ まちじゆーぬ つちゆぬ、あま ぬぶてい いちー
 ねー、いーち ふちゆんどー。おー。なー つんまううてい、いーち ふちゆぐとうでい、ストッ
 プしーねーやー、あー ストッポー あらん、とうまいねーやー、うん、つんまー、また、いー
 れーからー、たっち ぬぶいんち、なーひん あんましく ないくとう、つんまー とうまてー
 ならんどー。とうまていん、あとう さがいがい、さがいねー、また、むどうらんとー な
 らんくとう、うつき すん すくとう、とうまらわー、ちゃー とうまいそーてい、つんまから
 また あつちゆるぐとうし、ゆくてー あつちえー ゆくてー あつちえー するうちねー、うぐ
 しくに ちちやんでいぬ はなしん あいびーん。
 ゆくらんとー ならん。だから、ゆくいゆくい。ちゆーぬ ぐすーよーや、ちゆーやなま、ゆくてい
 めんしえーるはじ やしが、わつたーや くまううてい、うはなし うんぬきらんとー なら
 んしえー。うん。ゆくいる ひまー ねーんどー。 (会場 爆笑)
- 金城 はっはっはー、わんねー なまー、ゆくとーいびーたん。なまー、うちやくさんとう、いいぬむ
 ん なとーいびーたしが、しんしーぬ はなしー ちちゆんでい いやーに。
 うーん、あとうや、よーさい、なー、わんぬ ていむとうんげーん、てーげーねー、はなしぬ ねー
 ん なてい ちょーいびーんよー、やーさい。
- 照喜名 うん、
- 金城 あんさーに、なまぬ わかい ちゆぬちゃーんけー、ぬーがら、あぬー、ゆしぐとう、ゆしぐとう、
 ぬーがら・・・
 なまー、いっぺー あぬー、わかむんぬちゃーが つんじてい ちょーいびーしが、
- 照喜名 うん。
- 金城 あり、ちゃー ちゃー うむいが、うむやびーがやーさい。
- 照喜名 わんにん、なまー、つやーが いちよーる くとうばー、どうこー わからんしが。

金城　ぐぶりー　なとーいびーん。
 照喜名　いー。
 金城　なまー　いっぺー　わかむんちゃーが　ちばてい、なー　国立劇場んかい　つんじてー、ちゅーん　くみうどうい　さい、いるいる　あいびーしが、
 照喜名　うん。
 金城　あぬ、なまから　うぬ、くぬ　わかむんぬちゃー、なまから　古典音楽、あぬ、する　つちゆぬちゃーんけー、ぬーがら、げきれー(激励)ぬ　くとうぼんち、ぬーがら　あいびーがやーさい。
 照喜名　あーあ、きつさぬ　さちぬ、あぬ　すいぬぶいぬ　はなしとう　いいぬむん　やぎ。すいぬぶいん　ちゆけーんなかい　ぬぶいねー、とーりーが　すら　ぬーが　すら　わからんぞー。だから、んかたる　さかー、ぬぶてい、うふえー　ゆくてー、また　ぬぶてい、はい　また、ゆくてー、あー、いすがんとー　ならんさーんでい　うむいしが、まー　はんぶんいじょー(半分以上)から、ひさん　つんじゆかんどう　あくとう、また　つんじゆちゆるえーか、ゆくいんでいるぐとう。
 金城　うん。
 照喜名　うんぐとーし　いかにでー、はい、なー　ずっと　ぬぶいるぐとう　しえー　むのー　とーらんぞー。
 金城　うーん。
 照喜名　うん。
 金城　なまー　いっぺー　どうく　いすじょーし、
 照喜名　そうそうそう、
 金城　じぶんなりに、
 照喜名　じぶのー、なまー、いいーちよーてい、あのー、すいぐすこー　すぐ　いかりーしえーやー。なまー　わったー　はなしえー、んかしぬ　なはしる　やんぞー。なまー、なまーよー、ぬーぬかわとーんがんでーやー。んかしえー、・・・わかります。・・・わかります。
【会場】　はい、ゆー　わかいびーんぞー。
 金城　もしもし　もしもし、
 照喜名　でんわんかい、ぬーんでい　いやびーが、
 金城　もしもし、うふつふつふつ
 照喜名　あつはつはつはー
 　　　　もしもし。もしもしから、ダイヤルになった。ダイヤル、うーん。うりから、つげー、
 金城　プッシュ、うすてい。みぐらち　みぐらち。
 照喜名　みぐらすし、やていー。まえは、ぐるぐる　ぐるぐる。いまは、ぐるぐる　さんていん　しむん。うすれー　なとーん。
 金城　うすてい、
 照喜名　ていーち　たーち　みーちっし、
 金城　なまや、ありぞー、
 照喜名　うりん　なー　ちかーん　なとーん。うん。なまー　うんぐとー　また　うぬ　いーびさーに、うん、あぬ、ていーち　たーち　かず　いっていさーに　なとーん。なまー　かわやーに、あれー、スマホンでいる　いるい。
 金城　スマホ、スマホ、はい。
 照喜名　あれー　いっぺー　ありさーに、わったー　ちわみ、どうーてー　むる　うとうさーに、せかいじゆー(世界中)んかい、パーンんでい、ひるぎてい、なま　「はいはい」とう　そーし、すぐ　うちわたち、はなしー　ないる　ゆぬなか。はつきみよー、うんぐとーる　ゆぬなか　ないしえー、いみんちよーん　んだん、くぬ　とうし　なるまでい。はー、ゆぬなかぬ　かわいんでいしえー、あんし　かわてい　いちゆきやーんでい、なま　うむとーる　とうくま　やいびーん。

金城 なー みやぎとうしんしーや、ちーく うわれーからー、なー わしりんなーよーい、うっちん
とうーさーに、たーん んーだん。うり ちぶるんけー いったい、やーけー けーてい、う
り うびとーたんち、ちちよーいびーしが、

照喜名 いいーいいー。なーぎとうしんしーや、よーさい。あぬ、うぬ、がっこー(学校) あっちよー
みしえーる じでーから、んー、えー、じてんしゃ(自転車)さーに かゆとーみしえーんてー。
やいびーしが、うれー、しんしーから、サンシン ならやーに、うたん ならやーに、「んだ、ちゅー
や いいー うた ならたっさー」んでい いやーに、うーん、いえ(家)、ちねーんかいる
んかてい、あぬー、いちゅしが。ちちよーるえーに、「おい、おい なーぎとうくん」、「おー」、「な
ま けーていー」んち、「おー」ち、えーさち さくとう、しんしーから ならたる うたー、けー
わしてい ねーらん。(会場笑い)

「あいやー、くれー なー でーじ なんとーさー」、だー、また、テープレコーダーん ぬーん
ねーんしえー。スマホん うりん ねーんしえー。また、やーかい、しんしーたーやーかい
むどうやーに、でいー、しんしー めーけー、「なー ちゅけーん ならーち くいみそーれー」
「ぬーが、また、うたー わしーる しー」、「うー」、てー、また ならやーに、くんどー なー、ちゅ
みちに わしーねー くれー じゃーふえー やっさーんでいやらーに、つんまや、じてんしゃー、
ていーし うすやーに、うたびけーん みみで うむやーに、ちゅぬ えーさちしん、あぬー
しらんふーなーつし、あっちよーいびーん。なーちやー、「うぬ なーぎとー、むのー しらん。
えーさちん さん。さんたん」でい いやーに、ごーぐちさつてい、うり なー でーじ なんとー
ん。なー うりからーよー、だー あんし しーねー ならんでい いやーに、うみうてい
するまでー、しんしーたーううてい うたていから、あんしから やーかい けーたんでい。う
りよー、えーさち さんたんでいぬ うっぴさーに、でーじ やてーるふーじー やいびーん。

金城 うん。

照喜名 あんすとう えーさちんでいーしえー、なまん、んかしん、あぬ、どうこー かわい ねーびら
んしが、なまぬ えーさちや、んな スマホさーに しまちよーいびーん。

金城 スマホさーに、スマホーですね。(注 すまそうの意)

照喜名 ひっひっひっひ、しまちよーいびーん。

金城 なー あぬー、やがてー、じかん ちよーいびーがやーさい。

あぬ、あつ、だーだー しんしーさい。

照喜名 うん。

金城 なー、9時めーに うわいるはじ やいびーしが、なまーよー、9時、いへー はいくいーとー
いびーん。

照喜名 あー なー、あつ、くいーとーるむんなー、やーさい、くいーとーるむん。

金城 なー あぬー、つんま、じかん(時間) なんとーいびーしが、ぐすーよーん、ぬーがら また、あぬー
しんしーんかい ちちぶさる くとうぬ あれー、ていーち たーちえー、えー、とうーいぶ
さんでいち、ちゅぬ めんしえーびーがやーさい。

―― 会場から声や手が上がる ――

照喜名 はい、うー。

金城 あつ、ある・・・マイクありますか。・・・マイク うにげーさびら・・・

照喜名 なー わしてい ねーん・・・

男性A(安仁屋政昭氏)マイクや いりらんでいん しまびーさ。・・・大きな声で・・・

金城 あーあー、すみません。

男性A すみません、照喜名先生、ちゅーや いいー うはなし ありがとー やいびーたん。おきな
ぬ くがにくとぅば、いろいろ にへーでーびる。

あのー 宮里春行しんしーぬ はなし(話)、うかがいびーたしが、むかし、楚辺(那覇市)

でお会いした時に、わねー サンシノー ひちゃびらんしが、春行先生が稽古の若い方に、稽古をしてもらう時に、歌う時に、

「『齢とってからは、あの一、フクターうたい(歌い)するから、自分の若い時のテープで、あの一、聴くように』でいち 指導そーん」でいち、うはなし 直接 うかがいびたしが、うぬ 「フクターうたい」でいぬ うたや、ぬーんでいが やら わかやびらんしが、どうーぬ かんげーしえー、「フクター」んでいしえー、「ボロ」 やいびーしが、あま たつくわい、くま たつくわい して一、あの一、統一の取れない歌なのか分かりませんが、うぬ はなし きちやぬ くとうが あいびーしが、しんしーや 宮里春行しんしーから、うぬ うはなし きちやぬ くとー あみしえーがや一。

照喜名 フクターうた・・・

男性A 「フクターうたい」んでい いみしえーたん。

「『とうし とうつていからー フクターうたい ないくとう、どうーぬ いちばん ちょーし(調子)ぬ ゆたさぬ とうきぬ テープさーま ならりよー』んでいち、ならーすん」んでいち、うはなし うかがいびたしが、

照喜名 あーそうですか、あーは。わんねー うぬ はなしや、わったー たんめー以外にから 聞いたことありません。うん。わったー たんめー とうじぬ、あぬー、つんめーが

「たんめー うた一、うた一 あらん。フクターる やんどー」と、「やんどー」と、つんめーがいみそーちゃん。うん。それで、うれー ちょーげん(調弦)、わーが のーちやくとう、調弦つし、ちんだみ さくとう、うん、あぬー、わったー ぬしるやるい? はーえーつし ちゃーに、「と一、朝一、あんし じょーじ などーるい」んでい、つやつてい、

「んーん、ぬーん わねー うたん あびらんそーてい」でい いちやくとう、

「んーん、んー、つやーや、うぬ ちんだみそーくとうや一、ちんだみぬ なれーから一、な一 サンシノー はんぶのー などーしとう いいぬむんどー」と、うん、なま やていん、なま うびとーる、うん、うん。

男性A あ、どうも、にふえーでーびる。

照喜名 うん。

金城 (次の質問者へ) あっ、はい・・・

女性A あの一、尊敬しておられる宮里春行先生に対する照喜名朝一先生の思いですね。照喜名朝一先生が、大好きな、宮里春行先生に対する今の思いを、歌にして、歌って下さいませんか。

―― 会場から拍手起こる ――

金城 あっはっはっはー

女性A 即興で、

照喜名 「ちゅーぬ ゆかるひに ちゅーぬ うちなーぐち しきん うまんちゅに ひるみたる・・・

女性A 聞こえない、ちょっと、

照喜名 なーざとうぬ しんしー」。

金城 なー ちゆけーん。

女性A 歌で、

金城 歌で、

照喜名 歌う。

女性A はい。

金城 いーへー、むちかさいびーさ、やーさい。

照喜名 むちかさいびーん。だ一、わんにん なま ぬーんでい いたが・・・(会場笑い)・・・わねー、

な一、いれーから一、わからん ないんど一。

金城 ハードルぬ たかさいびーっさ一、や一さい。

照喜名 うん、うん。あ一、うれ一 ひっさ一（記者）がいないとね。即興だからよ。即興でいしえ一
むちかしいよ一。あぬ一、あんしん いい一、いい一、あぬ一、え一、ぬ一んでいがや一。うん。

質問、

金城 質問、

照喜名 うん。いい一、ちゃ一 わかいがや一・・・

金城 な一 ゆく わかいびらんしが、しんし一。な一 あり やいびーがや一さい。

照喜名 うん。あぬ、うたんでいしえ一、うぬまま うた一り一る うたも あしが、わ一が ゆだる
うた一、た一がら ちや一に し一るん しえ一、うん、あぬ、すぐ うた一り一しが、だ一
うれ一、ちゆ一る はじみてい、うんぐとう くい一る やくとう、むる はじみてい やいび一
ん。うん、ぐす一よ一ぬ、うぬ、ちむぐくるに ひかざりてい、なままでい ちぼと一る ちむえ一、
やいび一しが、うん、な一 即興ん すぐ し一ぶ一さ一 あいび一しが、また じかぬん、
な一、す、くい一と一いび一ん。な一 うわいぬ しらしぬ え一じん ちよ一いび一るむんぬ、
くりか一うと一てい、な一 ぐす一よ一とう、うん、ぐぶり一 ならや一んでい うむと一いび一
ん。 —— 会場より大きな拍手湧き起こる ——
ちゆ一や な一、くるから いっぺ一 うっさ一 あいびてい、あとう 3時間ぐれ一
ゆんたく し一ぶさしが、な一 また、に一ぶいん しみしえ一るはじ やくとう、あぬ や一
かい け一みしえ一ね一、あぬ一、みちあっち一 あぬ一 き一 ちきてい あっち、や一か
い うむどうみそ一れ一で一 にがてい、ちゆ一や くりし ぐぶりしえ一や一んでい、うむと一
いび一ん。いっぺ一 にふえ一で一びる。

—— 会場より、割れんばかりの拍手 ——

金城 また わんにん、ちゆ一ん また、いっぺ一 ちからぶそく やいび一たしが、また、照喜名
しんし一とう、うんとう一し はなし ないびてい、また ぐす一よ一、また、あぬ うぬよ一
な はなし一 ちちえ一 ね一らんな一んでい うむと一るはじ やいび一しが、な一、うれ一
くね一てい うたびみしえ一びりさい。ちゆ一や、ながながとう、いっぺ一 にふえ一で一び
たんさい。にふえ一で一びたん。

照喜名 にふえ一で一びるさい。

—— 会場より再び、割れんばかりの拍手 ——

事務局 照喜名朝一先生。金城裕幸さん。本当にありがとうございました。もう一度お二人に大きな拍手をお送りください。

—— 会場より、さらに大きな拍手 ——

これを持ちまして、本日の講演を終了いたします。お忘れ物のないよう、お気を付けてお帰りください。またのご来場をお待ち申し上げます。・・・ 完

7-2 第4回 講話テープ起こし

講師：眞境名正憲先生

翻刻：平良徹也

分かち書きチェック：西岡 敏

(県芸大附属研究所共同研究員)

・本稿は平成30年度沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業によって企画された、平成30年7月13日に行われた第3回「誇らしやしまくとぅば」講演会（講話：照喜名朝一先生、聞き手：金城裕幸氏）および同年11月9日に行われた第4回「誇らしやしまくとぅば」講演会（講話：眞境名正憲先生）の録音音声を翻刻したものである。

事務局 それではこれより講話となります。講話いただきますのは眞境名正憲先生です。

講師の眞境名正憲先生は、1956年琉球大学在学中に阿波連本啓、のちに眞境名由康に師事して、琉球舞踊と組踊を学びました。2016年には旭日双光章を授与され、沖縄県文化功労者表彰、沖縄タイムス芸術選賞の琉舞大賞も受賞なさっております。現在、眞境名由康組踊会会長、宗家眞境名流本流眞薫会会長、伝統組踊保存会会長など多くの芸能団体の会長を務めるかたわら、沖縄県立芸術大学客員教授も務められております。

それでは、眞境名正憲先生に登場していただきましょう。ご来場のみなさん、どうぞ拍手でお迎えください。

―― 拍手の中 眞境名正憲先生登壇 ――

眞境名正憲（以下 眞境名と表記）

えー、ぐすーよー、なま ご紹介に あたる 伝統組踊（でんとうくみうどうい）保存会ぬ 眞境名正憲んでい いちよーいびーん。えー なまさちえー、くわぶんな ご紹介ぬ あいびーたしが、くんな わざんでいしえー、ふいーじーや セー うういびらんぐとう、ひさがたがたー そーいびーん。ふいーじーや セリフ ゆまーに、わじゃ そーいびーくとう、うれー ぬーん うじやびらんしが、くんな わざんでいしや、なー、さちから、ひさがたがたー そーいびーる。

うりとう、うちなーぐちんでいーせー、ふいーじーや あんまり ちかてー うういびらん。あー、えー、くみうどういぬ ちーく やていん、なー、なまぬ わかむんぬ ちゃーや、やまとうぐちる さびーぐとう、半分以上や むる やまとうぐちしる、ならーちよーいびーる。んかせー あねー あいびらんたしが、えー ちゅーや、へーべーとう めんそーち うたびみそーち、また、くりから、えー、最後までい、えー、お付き合いをひとつよろしくお願ひしたいと思います。

えー、しまくとぅば、んでいん くとうし、えー、ちゅーや 演題 などーいびーしる、まじ、しまくとぅばんでいしにちーてい、わん かんげー、いふえー うんぬきなーびら。

まじ、んかしえー わったーが くーさいねー、標準語励行ぬやー、あぬ、共通語励行ぬやーんでいち、うちなーぐちえー ちかてー ならんどー、と。あんさーに、方言札んでいん くとうぬ あいびーたん。やくとう、だんだんだんだん うちなぐちえー、うれー ちかてー ならんさやーと、うんな 気分 ない、なかなか うちなーぐちんでいしえー、だんだんだん ちからんぐとう などーいびーたん。やくとう、えー、ふどう つういーてい、ふどう つういーてい 高校卒業つし、やまとうんかい っんじやい しーねー、なかなか、やまとうぐちん ならん。うちなーぐちん じょーじえー あらん。やくとう、やまとうんじ、電話 とうたい しーねー、電話ぬ かかていちやい しーねー、ふとうふとうー さびーたんやーさい。ちゃーしが、うきこたえ すしが わからん。うれー、んーな あんが やたらんでい うむいびーん。

えーまじ、うちなーぐちんでいし、えー、うちなーぬ、うー、共通語的な もの。うれー、なままでー すいくとうば、すいなーふあぬ くとうば、うりから、芝居くとうば。うりさーに、あー、まーんかい っんじん、ちちゆる うっぺー 理解 ないびーたん。やいびーしが、なまぬ わらびんちゃー、なーうれー、理解ん ならん。芝居ん かなか ねーらん。まつ、くみうどういんでいしえー、また、むちかしいー くとうば やいびーくとう、だんだんだん とうーぬちよーいびーん。やいびーしが、くんどう、県、全県あぎてい、うちなーぐちえー ぬくさんでー ならんどーと、しまくとぅばー ぬくさんでー な

らんどーと、云うことに なとーいびーれー、んなさーにまた ちかてい、歌三線 やていん、三線ぬん
ひかんだれー、歌ん あびらんだれー、じょーじえー ないびらん。やくとう、んなさーに ないる
うっぴなー、むれー さんていん しまびーんどーさい。ないる うっぴなーや ちかいるぐとうし、えー、
うちなーぐち、えー しまくとぅば、えー、ぬくするぐとう さびらな。

えー、まず、やまとうぐちとう うちなーぐち、なまー しまくとぅばぬ、なんですかねー、しまくとぅ
ば運動 やいびーしが、やまとうぐちぬ 標準語、あるいは 共通語んでいしが あいびーん。やいびー
くとう、やまとうぐちどうん やれー、北海道ぬ さちから うちなー 与那国ぬ さちまでい、むる
通じやびーん、わかいびーん。やくとう、うり、わからする たみにる やたがやーんでい、んかしえー、
戦前の一、うり、徹底さがやーんでい うむいびーしが、かんげーいねー、うりん、いいー くとー やら
んでい うむいびーん。

しまくとぅば、うちなー、うちなーぐちん あしが、おおさかべぬん、かんさいべぬん、うりから、と
うほくべぬん あてい、うれー なー 方言でい いちよーるぐとーいびーしが、うれー、なーめーめー
ぬ くとぅば、標準語 んなさーに、共通、標準、んなさーに わかいる くとぅば。うりん 必要や
らんでい うむとーいびーん。やしが、うちなーねー、うちなーぐちねー、なま、うぬ 共通語的な
むぬが ねーやびらん。やくとう、むちかしい やえー さびーしが、くれー うり、なまー、うぬ し
まくとぅば運動でいしえー、なまさち、えー、あぬー、はなしん ちちゃびたしが、うちなーぐち んな
さーに、統一し ぬくせーやーんでいぬ しくち、あぬー、運動 あらんぐとーいびーん。なーめーめー
ぬ しまんかい ぬくとーる くとぅば、ゆなぐにーやゆなぐに、なーこー なーく、やいまや やいま、
やんぼろー やんぼる、なーふあー なーふあ、んーな どうーぬ くとぅば、どうーぬ しまぬ くとぅ
ば、いふえー ぬくさんでーれー ならのー あらに、と云う 運動 やぬぐとーいびーん。なー うり
ん てーしちな くとぅ やいびーん。

えー、やいびーくとう、うちなーぬ くとぅばんでいーしえー、わーが かんげーいねー、共通語的な
むぬでいーしえー、なま、なままでー、すいくとうぼとうか なーふあくとうば。ようするに 芝居くとぅば、
うりる やたがやーんでい うむいびーしが、うりぬ、まー、形が しっかり ぬくとーしえー、くみうどう
い やたい、あるいは 歌劇 だったり、史劇 だったり、うれー 大事な むん やいびーん。うれー、台本、
わったー むのー 台本ぬん あい、音楽ん あい、曲ん あい、だから なかなか ねーらん な
らんでい うむとーいびーん。やいびーしが、くとぅばんでいーしえー、ちからんないねー すぐ わしー
ん、ねーん ならんがやーんでいち、うれー しわ やいびーんや。やいびーくとう、しまくとぅばんでい
しえー、んなさーに、ちかやびらな。しまくとぅばんでいーしえー ちかやびらな、んでい うむとーいびー
ん。

えー それから、あんしえー、くまんかい つんじてい ちょーいびーしどう、自己紹介、いひぐわー
しみらち うたびみしえーびり。

わんねー しゅつしの一、あがりかた さしちぬ ちはぬくんでいる とうくま やいびーん。あぬー、
「むんじゆるーぶし」んかい、「ちふあぬくぬー」んち、あいびーしえーさい、うぬ ちふあぬく やいびーん。
津波古。

えー 昭和12年生まれ やいびーぐとう、なー いふえー、80いふえー くちょーいびーん、あまとー
いびーん。

えー あんし、えー、くーさいに 小学校1年生、昭和19年 やいびーたん。うんにんに、んかし、
戦前ぬ 話する やいびーくとう、学童疎開んでいーしが あいびーたん。なー、いくさぬ ちゅーんどー
さーに、あまん くまん 学童疎開、一般疎開、「うちなーんじえー でーじ ないんどー」んでい、これ、
県 あぎてい、んな 疎開ぬ あいびーたん。宮崎県ぬんかい、いちやびたん。小学校1年生 やいびー
たん。「ぬーんち、1年生や 疎開 ならんたる はじ やしが」と、あねー やいびーたん。ふんとー 3
年生から やいびーたん。3年生から 高等科2年生までい、各学校ごとに ならでい、七八十名、集団さー

に いちゆたん。集団疎開んでい つやびーたんやーさい。

えー あんし、宮崎ぬ 山ぬ なーかんかい いちやびたしが、約2カ年間、つんまんじ 暮らし、無事に うちなーんかい、昭和21年ねー けーてい ちょーいびーん。

えー、うぬ やまとうんじぬ くとう、いひぐわー はなし さびーしが、よー、くまから 9月に つんじょーいびーくとう、9月んでいーねー うり やいびーさやー、わったーや 9月に たつちよーいびーしが、皆さんご承知のように、対馬丸ぬ 事故が あいびーたんやー。あれー 8月の22、3日だったかなー。やくとう、わったーが ふにんかい ぬてい、つんじらんてい しーねー、なー、つしまろー、撃沈 さつとーる ちむえー やいびーしが、んかしえー うれー 法度(はつとう)、箆口令(かんこうれい) んでいしが つかとーいびーくとう、わったーん わからん、たーん わからん。

「うりが むし、しじまさつたんどー しーねー、いちゆる つちよー ううらん ないしが」と、まー そんなことで、わったーや 9月に 行きました。あんさーに すぐ 冬 やいびーしえーやーさい。だー やまとー つんじえー んーだんどう あいびーくとう、ひーさんていーしん わからん。やくとう、学童疎開ぬ わらばーたー んーな、一番 ぬー けーてい つちからぬ はなしてーさい。

「ちゃー やたが、疎開んでいーねー」

「あん やさやー。ふいーさん。やーさん。しからーさん。うぬ みーちぬ、さん(惨) やさ」んち、でいる 話しん あいびーたん。

ふいーさん。これ もう、つんまから いちーねー、なー 雪ぬ なーか 山ぬ なーかどう やいびーくとう、雪ぬ ふいねー、ふいーさぬ ちゃーん ならん。なまぬ ぐとうし 暖房んでいしん ねーや びらん。火鉢しかありませんからね。やくとう、んな、とうーち まがている うういびーたる。

うりから、やーさんていーしえー、なー、ひもじいと云う話しは、なまぬ わらばーたーんかい わかいびらんやー。やーさん と云う感覚はあまりないと思います。ぬーがどうん やれー、冷蔵庫ん あい、えー、すばひら いけー、コンビニん あい、やーさする 環境ぬ ねーらんでい うむとーいびーん。やくとう、「ひもじいんでいねー、どんなことかなー」と聞いても、実際 やーさる あしが、「お腹がおかしいなー、お腹がおかしいなー」んでい いーたんでい。「うれー やーさんていし やさ」と云う話しもありますけれども。

それから、しからーさんはそうですね。もう親元離れていますから、さみしい。うちなーぐちえー、うれー、いいー あり やいびーんやーさい。「ちむ、しからーさん」とうか、表現ぬ あいびーん。うり、しからーさん。

うぬ、みーち、よく、疎開ぬ、学童疎開 そーいにぬ 思い出 やいびーん。

うりから くーさいねー、さしち やいびーくとう、さしち、わったーや ぬーがどうん やれー、えー、いわゆる いなかうり そーる、向氏(しょううじ)んでい つやびーん。“ゆかっちゅ”んでいち よーさい、てーげー、うやふあーふじぬ ちゃー、んな、誇りに思っていました。

「わったーや、“ゆかっちゅ”どー、ちゆけーとうないとー ちがいでい」と、やくとう、呼び方もあの、ねえさんにいさんも、「うんみーどー、やっちーどー」する。「うばまーどー」する。「うんちゅーのー」する。ちなひちんじよー、ぬーんでいーたがでい いーねー、「あふいーよー、あばーよー、うんちゅーよー」し、そう云ういわゆる言葉自体も変わる。それはやっぱり、生活は いいぬ むんどう そーしが、気位だけはやっぱり高かったわけですねー。と云う風な生活もありました。

それから、あの一、小さいころ、やまとうに行く前、やまとうに行ってもそうですけども、ちょうどやっぱり、軍国主義の教育の時代ですから、わらばーたー やていん、みんな幼稚園のころからそうですよ。「♪ぼくは軍人大好きだー いまに大きくなったならー」(注 ♪ 節に乗せて発声)、幼稚園の歌もそんなことですよ。で、向こうに、やまとうに行つて、その一、学校に行つて教えられるのは、まー、あの一、「食事前にはこう言いなさい」と云つて、「感謝しなさい」。

♪はしとらばー あめつちみよの おんめぐみ きみとおやとの ごおんあじわえー

(注 箸取らば 天地御代の 御恵み 君と親との 御恩味わへ)

「いただきまーす」。

小学生では教えましたよ。教えておられました。いまも覚えていますから。それで学童疎開に行った人だちは、われわれだけじゃなくて、やまとうの東京とか、大阪あたりもやっぱりいなか疎開が、疎開に行っておりますね。

いまの、おー、天皇陛下(注 現上皇陛下)もどっか、あの一、東北の方になさったそうですけれども、その疎開をしている時に、われわれはうちなーや、南とっていましたらね、南から、あっ、九州に行ったら、北だと思っていましたよ。そうしたら、朝礼でこう並んでいると、「♪東の空に向かって」朝礼だよ、「最敬礼」。お辞儀してから、なにか校長先生お話しをするんですけど、東の空って云うのは何かと云うと、宮城(きゅうじょう)ですね。陛下に頭を下げてから、ことが始まる、と云うふうなことでしたね。それで小学生の、あの一、生徒だちに、皇后陛下の御製、作られた歌がみなさんに、あの、賜わっているから、「うりん、ならりよー」と云うんで教えられた。これはやっぱりこんな時代だったのかなーと思いますけど、いまでも覚えていますよ。

次の世を 背負うべき身ぞ たくましく 正しく生きよ 里に移りて

これ、陛下、皇后陛下が作られた。小学生の頭の中に入っている。メロディーも付いてます。余計、メロディー付きだと、すぐ、忘れません。ま、そんなふうにいわれる軍事教育、軍国教育と云うんですかね、それを徹底してやってたんですねー。ですから学童疎開のみなさん集まって、えー、今のようにテレビもないし、ラジオもないし、えー、パソコンもいわゆるゲームもないですから、歌を歌うわけ。歌を、先輩から歌を歌って、歌ったりして、慰労があった時に歌う歌はみんな軍歌ですよ。え、「ラバウル小唄」だったり、えー、いろんな歌、もう全部、たくさん覚えている。いまでもすぐ出ますけれど、例えば、「ラバウル小唄」だったら、うちなーから来てますから、さんしい「♪さーらーば ラバウルよ」じゃなく、「♪さーらーば おきなわよ また来るまでは」。こんな風に、替え歌にして、歌ってました。

まーそう云うふうに、えー、やって、2ヶ年で帰ってまいりましたけれども、帰ってきたら、まあ、沖縄はもう、行く時とは全然変わってしまっ、焼け野が原ですよ。わたしどもの佐敷方面のあの馬天港あたりは、アメリカの軍艦の残骸がこんなに沢山ありました。那覇も、もうほとんど、焼け野が原でわかりません。で、行く前は、那覇もちゃんとありました。その後、十空襲で焼けていますからね。那覇の、あの一、戦前のものも憶えています、少し。って云うふうな戦前の話がありました。

えーそれからですね、いま、向氏(しょうじ)と云う話しをしましたが、あの一、向氏は、まー、あの一、勉強なさっている方々、ご承知だと思いますけれども、首里士族の中で、氏名(うじな)、“ゆかっちゅ”であるけれども、“ゆかっちゅ”である証拠、これは昔は分かりませんで、くーさいねー、わかいびらんたん。ちゃー、たんめーたーが、「えー、わたたー“ゆかっちゅ”どー。中城若松(なかぐすくわかまち)ぬ っくわっんまがる やんろー。ちゃんと さんねー ならんどー」と、云うふうなことを聞きました。それで、えー、戦後になってしばらくしてから、幸いなことに我々の、あの一、むーとうやーには、系、このなんて云うんですか、あー、系図(けいず)、これが残ってました。それを写してもらいましたが、こう云うもんです。―― 実物を示しながら ―― みんな王家の判が押されておましてね、その〇〇(注 音声無しのため不明)のところに、「あーなるほど、わたたー たんめーたーや、ゆくしえー あらんとーさやー」と思うのは、えー、向姓家譜(ショーセイカフ)、小宗(ショーソー)、いわゆるナーカムートウ書いてあります。記録のなかです。えー、

二世、セーシン、瀬底親雲上(セソコペーチン)、童名(わらびな一)、思五郎(ウミグラ一)、

どうのこうのと書いてありまして、

父、お父さん、ショーホーシュン、安谷屋親雲上(アダンナペーチン)、セイショー。号(ゴウ)、エンパ。
母、向氏(ショーウジ)玉城親方(タマグスクツウエーカタ)ショーチの女 真壁大阿母志良禮(マカビ
ウフアムシラリ) 童名(どうめい) マナビダル 号 エンザ、エンヤ

と云うふうにありますね、

奥さんは、その、ナカムートウのセイシンの奥さんは、室(シツ)は、読谷山親雲上(ユンタンザンペーチン)セイコーの女ウミトウというふうにありますね、あーこれからすると、「まちげー ねーんむんなー」思ったりしておりますけれど、あの、いろいろ調べてみたら、あの一、いわゆる中城(なかぐすく)、始祖である最初の中城若松(なかぐすくわかまち)って云うひとは、まー出ますよね。あの一おもしろなんかにも出て、「ちむだかのわかまち、どうのこうの」と云って出てきますけれども、その若松(わかまち)の、じゃー、誰だろうと、その辺はだろなんです、これは。それはあの一、一番古いその系図がないもんですから、まー、それは、われわれわたしなんか、くーさいに ちちゃせー「わったーややー、わかまちえーまーぬ つくわつんまがでいれー。うれー、尚円王様が 伊平屋(注 伊是名の誤り)から つんじていちゃーに、金丸(かなまる)んでいち、なま あぬー、勤めして、うりから ニシバルんかい つんじ、金丸んでいち、なー なぬとーたんでいさい、うんにんにやー、中城のノロとこの金丸の間に出来たのが、若松らしいよ」と、これ、らしい やくとう、真実かどうか分かりませんが、まーそんなこんなで、いわゆる、えー、士族というものに、たいへん誇りを持っていましたね、昔の方々は。ですから、ことばも、おんなしようにいなかですけれども、たとえばあの一、“どー”と“るー”、“どー”と“ろー”。「えー あん“る”、やん“ろー”」と言った。「あんる やんろー」と、違いますよね。“おーだー”だったら“おーらー”(注 モッコの事)。“あんら、あんだ”(注 油)。と云うふうに、このことばがね、隣近所の人たちとも“ゆかつちゅ”の人、首里系のダ行を使う。もともとの、まー、お百姓、百姓のうちの人だちはそのまま使う。と云うふうに、まだ一視(いっし)出来る状態にありましたね。いまはやっぱり、そう云うのはないですね、むる やまとうぐちる やいびーくとう。はい。その辺でお話しをしておいて…

それから、うん一、学童疎開の話もいろいろやりました。それから(メモをめくる音)、じゃー、くみうどういの話も少しだけやってみましょう。

えー、くみうどういぬ セリフんでいしえー、まー皆さんご承知の通り、“しゅいくとうば”が基本だと思います。うりんかい、えー、“やまとうぐち”、和語も入ってきますし、うりから うちな一ぬ 古い言葉・古語も入って、だから、うぬ “くみうどういくとうば”んでいしえー、当時、えー、話し言葉として、ちかと一たる くとうばだけー あらんでい うむやびーん。うり また 整理し、ちゃんと 台本かい かかっとーくとう、うれー うぬまま ぬくとーる ちむ やいびーん。うりから また、くみうどういから つんじたる、派生さる、芝居ぬやー、うりから 芝居でも歌劇、特に史劇、うりから なま あたる 琉歌、“うた”やーさい。うりん やっぱり、“すいくとうば”が基本に なんとーらやーんでい うむやびーん。やぐとう 「うんななびー」が ゆでーる“うた”ん、あぬ いなかぬ 「もーあしびーうた」ん、よー、ゆーかんげーてい みーねー、むる “すいくとうば”る やんでーやーさい。「やんばるなーくにー」ぬやー、「やんばる ていーまーとーう」ぬやー、うれー、まー、うちな一でいーぬ あり やいびーしが、なー また、なーく やえやま はなりてい いちーねー、なー くぬ くとうばし、ええーまぬ くとうばし ないびーしが、うれー、うちな一ぐちぬ、よー、はなしする とうくまんじえー、むる あの一、“すいくとうば”やらんでい うむいびーん。

まー、うれー また、あぬ一、王府ううてい あまくまぬ うたん あちみてい 歌集 ちゆくたいし、整理さつとーいびーくとう、うんにんに いへー 修正、のーちが あら わかいびらんしが、あんしん、

基本的な一、な一、さんぱちろく(三八六)る やいびーくとうや一。うりとう なまん 歌、あん やいびーしえーやーさい。八八八六、うり、くみうどういん あんる やいびーる。八八八六の八八八をつないで六で締める。

うりとう、とうねー(注 唱え)んでいしえー、むるし うりし やいびーぐとう、くみうどういぬ とうねーとう、うたぬ とうねーとう、つんまー、抑揚 ちぎらんで一、むる いいぬ むんる やいびーるやーさい。やくとう また うちな一ぬ、うれー な一、専門家ぬ 話しー あいびらん。わん うりる やいびーしが、うちな一ぐちんでいしえー、てーげー はなし しーね一、八八、八六、八六。八六で はなし しーね一、てーげー あんし ないびーんねー すさや一、八なかいいん 三五、五三 なたい、うれー な一 また、しんしーたー かちよーしん あん などーいびーしが、例えば、「つやーや なはかい いちゆしが、わんねー あまかい。あまんかい」と云うふうに、八八八。「あんしえー つんじ くーひー」。くぬ はなしぬ はなしくとうばぬ、うぬ、ちり(切れ)。ちりでいーしん、てーげー 八八八。うれー うちな一ぐちえー、うぬ、いいー あんべー、はなしぬ どうく 自然に 話ししん、てーげー 八八八六 などーやびーん。あー うれー ふしげー あらん。あれー やつぱり、うちな一ぐちぬ むちよ一ぬ、ぬーがら、あぬ、原則的なものが、まー、まさに あらんでい うむいびーん。やいびーくとう わった一や、あぬ一、くみうどういぬ とうねー しーにん、字余りんでいやーに、やーさい、八八 あらん 九八になったりすると、九や ちみてい とうねーやびーん。

やくとう うぬ、文字や あらん、てーげー やまとうむのー、しつちよーる ふーじーし あびーしが、やまとうむのー、“みそひともじ”んでい、文字や 三十一文字。うちな一むのー さんぱちろく(八八八六)の音(おと)あるいは うとう。うとう、字(じ)や あまていん、うとうんかい なしーね一、ゆみーねー ていーちえー ちみてい、うたらんでー ならん。や一。あんし、やくとう、サンシぬんかい ぬしらりーる ちむ。くみうどういも まず一緒です。くみうどういん いいぬ むん やいびーん。と一、うんなくんなし そーいびーん。

え一、それから、あ一、くみうどういぬ はなしやーさい。うりから一、くみうどういくとうばなかい、変わった くとうん あいびーんや一。やまとうむのー、五十音。あいうえお、五十音(おん)どう やしが、わった一 むのー 五十音だけでは、うりん ちかいびーしが、うりやか ふかにん あいびーさや一。や行 わ行なかいん、やーさい。うれー な一、専門家ぬ しんしーなんか いーね一、破裂音とうか いてい つや、んでい つやびーんでい。

例えば「つわー、つわー(注 つわー、豚のこと)。「う」でなくて、「わー」でなくて、「うつ、うつ、つわー」、よ一、そう云う表現。うれー、やまとうんちゆぬ なかなか いーゆーさびらんしが、「うつ」、くれー また うちな一ぐちぬ 特長。くみうどういんかい、うりん うほーく あいびーん。うれー また、変わった くとう やいびーんや一。わ行音ぬんかい あいびーん、や行音ぬんかいん あいびーん。

うりから、イントネーション。だー うれー ぬーんでい いがや一。イントネーション、うりん、うれー、くみうどういん あいびーん、芝居にん あいびーん。例えば、いいぬ 発音、例えば くれー 「はな」 やいびーん、「はな」。アクセント、ノウズ、花ぬ さちよーいびーん。「は(レ)な」とう「はな(レ)」(注 レ、アクセントがある箇所)とう アクセントによって 違いびーん。

「えっえっえっ、あぬ はな とうてい くわー」と、

「はな とうてい、まーんかい はなぬ、はなぬ あが」、

「うんじゆぬ つんまんかい あえー さに」、

「はな とうてい くわー、はな。さちよーる はなる やんろー」。

おんなし くとうばる やしが、うれー アクセントさーに ものが違ってくる。うれー な一 芝居 やていん、くみうどうい やていん いいぬ むん やいびーんや一。うり、まちがいねー わらーりーる むんぬ。まちがてー ならん。こういう とうねーかたん うほーく いつちよーいびーん、くみうどうい。うれー また、むちかしー とうくる、うりる 勉強 さんでー ならん ちむ やいびーんやーさい。特に 史劇とうか、セリフ劇、くれー 大事 やいびーん、うぬ いまぬ なまぬ よ一な 話。

やし、が、歌劇、メロディーんかい ぬいねー、うれー また、うぬ メロディーんかい、あーさびーぐとう、「は(レ)な」やていん 「はな(レ)」やていん、くぬ 前後ぬ 関係さーに、つんまんじ むんこ(文句) ーつやびらん。うれー メロディー やくとう、と云うこともございます。

うりから、あー、くみうどういの、おー、ついでって云ったらなんですけど、くみうどういの 大先輩ぬ ちゃー、なままでい かんし、くみうどういぬ ぬくてい ちょーしん、でい あんしえー、いなか いなかいんじん 村芝居んじ そーいびーしが、うりん 伝搬(でんぱん)さる 動きぬ あらんでい うむいびーしが、わったーが なま そーる いわゆる 伝統組踊(でんとうくみうどうい)でい いちよーる、いち、えー、国ぬ 指定 なたい、ユネスコぬ 指定 なたい そーいびーしどう、くれー また、たーが なままでい ならーち ちゃが、うきとうてい ちゃが、どう、あんし わったーんかい、うきとらちやが、どうん やれー、

まー かんげーいねー、なまから 150年、約150年前、廃藩置県、うちなーが やまとうんかい なたい、うぬ とうちに 芝居でいしが でいきたん。うくわんしん(御冠船)んかい つんじみそーちやる 先輩だちが、くんどー なーふあんかい うりてい、入賃(にゆうちん:入場料のこと) とうてい、芝居するよーに なたん。

うにんに、初めぬ しばえー、なー、ううどういさーに、しぐ ううどういとう くみうどういとう 古典舞踊やーさい、うりる やたんでい つやびーしが、なーだ んだん うりびけーん しーねー ちゃこー ううらん ないくとう、新しいのがだんだんだん出来てくる。いわゆるセリフ劇が出来たり、ぞーうどうい(雑踊り)が出来たり、「カナーヨー(加那よー)」が出来たり、「はとまぶし(鳩間節)」が出来たり、だんだん舞踊も豊富になって来る。うり ぞーうどういでい いちよーいびーしとう、で、うれー なー、必然的に変化して行く、ちやくんかい、満足しみらんねー ないびらんくとう、うんなくんなし なままでい ちょーる ちむ やいびーしが、くみうどういんでいし、また、あちはていらつてい、なー、くぬ いいぬ むん しーけーさーしとう、うふぶし(大節 注 大曲の意)びけーん「ううー、ううー、ううー」し、「でいつか けーら」(注 見飽きたから、帰ろう)と言われるようになった。なー だんだんやらなくなった芝居でも。

それを「あんしえー ならんえー さに」と、

「うちなーぬ ううどういから、セリフから むる いっち、歌から、総合的な むぬでいーしえー くみうどういどう やえー さに」と云うことで、まー、戦後、県のほう、文化財保護委員会でも、県指定の文化財になって、で45年、昭和45年に復帰の年 やいびーんやー、なまから、えー、50年、47年前ですか、うんにーに、まー、復帰と同時に、くんどー、国の無形文化財。ぬーがどうん やれー、芸能んでいーしえー、じーのーでいしえー あまん くまん まんどーいびーしどう、ただ、国ぬ 無形文化財んかい 指定さつとーるでいしんでいしえー、んかしから 歴史的にちゃんと流れてきた、もの。いーどうん しえー、お能、まー、宮中の御雅楽(ごががく)もそうですけど、文楽とか、歌舞伎とか、と云うふうに、いわゆる舞台芸能で、芸術性がある、ちゃんと守られているもの。

なー わったー むぬん かんげーいねー、150年めーねー、いへー ねーん ないがたー やたしが、芝居ぬ しんしーたー、で戦後は、特に芝居で頑張ってこられた先生方、おられます。真境名由康、玉城盛義、島袋光裕、宮城能造、金武良章、親泊興照、いろんな しんしーたーが 一生懸命、受け継いできました。それをわれわれに受け継いで、引き継いできたと。

あんさーに なまねー、国の指定 やくとう、やまとー、国立の能楽堂、国立の文楽劇場、くり、指定したからには保護する、保護するために、保護んでいしえー あんまりいいー くとうばー あらんでい つやびーしが、保護発展させるためにやーさい、保存発展させる施設が必要だと。

わったーや、復帰めーから、ずーと自前でやって、復帰してもついこの間まで、2004年まで、場所が無かったですよ。県立郷土劇場って借りて、ちょこちょこやっておりましたけれども、やまとー なー何十年も前からちゃんと保護されていた。

「あんしえー、不公平やえー さに」でいち、

「東京大阪出来たでしょう。うちなーや、いなか やくとぅんち ならんばーする やがやー」と、で、稲嶺恵一さんとか、大城立裕さんとか、島袋光史さんとか、んーな 立ち上がって、「でいー 県民運動 うくさーに 誘致さな」と、と云うことで誘致運動起こして、やっと国立劇場が出来ました。

うれー はじめー、「国立組踊劇場(こくりつくみうどういげきじょう)」やいびーたん。国立文楽劇場、国立能楽堂、のーじん いっちょーいびーたしが、いつの間にか、「国立劇場おきなわ」なとーいびーし どう、なー、うちなーや、じーのーぬ まんどーくとう、くみうどうい劇場んでいーねー、くみうどういびけーん する 劇場んでい うまーつてー ならんくとう、また 経営ん むちかしく ないる はじ やくとう、「国立劇場おきなわ」んでい いち、のーじえー しみてい、うちなー芸能 あるいは、東南アジアぬ 芸能 むる つんまんじ さなと、しみらな ということで、うぬ 会見、開館、間近になってから変わりました、正式名称は。やしが、わつたーや、何十年間「国立組踊(くみうどうい)劇場誘致期成会」んでいる はたらちよーいびーたん。残念のー やいびーたん。やしが、なー、なま かんげーいねー、なー、あんしん、理念んち、国立劇場の 理念でいし、「くみうどういを中心にした、くみうどういを保存継承させる。伝承者を養成する。資料を集める。公開する。」この基本は一緒です。ですからよく言われるように、「あぬ 国立劇場でいしえー、くみうどういぬ あてーくとうる ちゆくらつとーんどー」。「感謝しなさい」とは、言いませんけれども、と云うふうな経緯(いきさつ)がありました。はい。

それから、あのー、くみうどういはそう云うことでやって来ておりますけれども、このくみうどういの先生方の先生、さらに明治時代から、いわゆる終戦直前まで、引き継いだ先生方おられますよね。例えば、お聞きなつていと思います。玉城盛重(たまぐすくせいじゅう)でいる しんしーぬ、新垣松含(あらかきしょうがん)でいる しんしーん めんしえーたん。うりから 渡嘉敷守良(とかしきしゅりょう)しんしー、うりから 伊良波尹吉(いらはいんきち)しんしーとうか、うぬ ちちゆたーや、くみうどういびけーのー あらん、芝居ん、うどういん、芝居ぬ 生活んでいるから むる そーいびーん。あんし また、うぬ しんしーたーや、劇作、よー、「奥山の牡丹(おくやまのぶたん)」ぬやー、「今帰仁由来記(なちじんゆれーち)」、うりから、「ハンドーぐわー」ぬやー、「泊阿嘉(とうまいあーかー)」ぬやー、名作をも うみんな役者の先生方、書きました。座付きの作家です、謂わば。やしが、だー うちなーんかい うんにーねー、芝居の台本 かけゆる しんしーたーや、めんそーらんる あたらんでい うむやびーん。あんさーに、しんしーたーが かけ、やまとうしばいから うちなーむんに のーちやい、うんなくんな あたらんでい うむいびーん。やしが 歌劇、なま 歌劇として保存されている、歌劇保存会で 保存さつとーる 名作んでい つやつとーる げけー(注 劇は)、むる しんしーたーが 創作、独創して作ったものです。やまとうむんぬ ねーび、あいびらん。確かに うちなーむん やいびーん。うんなくんな、しんしーたーが ちゆくとーいびーん。

うりから、沖縄で史劇んでいーしが あいびーんやーさい。「大新城忠勇伝(うふあらぐすくちゅうゆうでん)」ぬやー、「首里城明け渡し」ぬやーと、うぬ 史劇の中でも、「大新城・・・」は渡嘉敷(注 守良)さんが作ったんでしょけど、うぬ 芝居の時に、よー、新しいものもやらないと、「くり以上、いいぬ むん “あちらしけーさー”しえー ならんろー」と、“あちらしけーさー”と云うのは「もう蒸し返しはいけないよ」と、「新しい劇を作ろう」と云うことで、当時、まだ弱冠二十七八歳の山里永吉つて云う先生がおりますね。やまとうんかい つんじ、絵の勉強したりして、やまとうんじ、東京で演劇を見て来たりして、まー、小説書いたり、沖縄で、「新報」でやっていましたから。

「とー あんしえー、うぬ しんしーんかい、たぬでい んーだな」と言つて、当時の珊瑚座の大先生方、由康(注 真境名)、伊良波(注 尹吉)、光裕(注 島袋)3名が、正装ですよ。あのー、向こうの辻の西武門(にしんじょう)の通りに、えー、上之蔵の通りですか、山里先生のお宅ありますから、つんまんかい、人力車を仕立てて、ちゃんと羽織袴で正装して、若い山里永吉さんに

「しんしーさい、くんどー かんかんし、じちえー 台本 かけ くみそーらんがやー」と云うことで、お願いしたところ、そして最初に出来たのが、まーあのー、よく知られる「一向宗法難記(いっこうしゅうほうなんき)」。これが大当たりしたもんですから、とー、二番目は何かと言つたら、こつちの方がたいへん有名になりました。「首里城明け渡し(しゅりじょうあけわたし)」という台本書いてまいりました。首

里城を明け渡してから、まだ、50年ぐらいしか経ってないわけですから、昭和の四五年六年ついたら、それはもう、まだ、首里城の面影はみんなあるし、首里の方々であれば、うすがなし一め一の首里城明け渡し、話しに聞いた人、起ちあがった老人たちもおられたことでしょう。たいへんな評判をとりました。で、そのようにして演劇改革が起こったわけですね。

そして、その台本は、うちな一ぐちし、かちえーがや一と。これは、私、ま一、いままでは言えますけど、え一、今から山里先生がお元気なころに、うんちよ一、いい一かちどう やみしえーくとう、70前後、文化財保護委員長やめて、ま一悠々自適で絵を描いているときに、私は三越(注 沖縄三越デパート)の、あの一、に居りましたんでね、そのギャラリーで、「展示会をさせてくれ」とおっしゃるもんですから、「う一、う一、しみそーれ一」と三、四回ぐらいやりました。あ一あのところもう、あの一、「琉舞の絵」とそれから「花の油絵」を描いておられましたけど、そろそろ一週間展示会すると、ギャラリーに先生、ふつか、二三日はかならず、初日と終るころはおいでになって、いますから、それで会場で、お客さんがいる時はお客さん相手しますけど、そうでないと、先生さびしうだから、行って、ゆんたくをしてたんですね。その時に、いまのような話、実際に先生からお聞きしました。

「は一や一、いった一 しんし一た一が、わかむんかい、あんし、くるま ぬいちきてい、正装し ちゅ一しえ一、たいへん 恐縮すしえ一や一」と言っておられましたけど、

「あんし、うちな一ぐちしる、かちみそ一ち一」と、

「いいや、わんね一 うちな一ぐちえ一、わんね一 な一ふあんちゅ一る やる。すいくとうばる やくとうや一、うれ一 いった一 しんし一た一が むる の一ちょ一ん」、

『伊良波しんし一た一、光裕しんし一た一 んなさ一に、どう一ぬ 役ん、ちゃんと、まずは直して、あんしから また、んなさ一に 直したりしながら』。わん 台本やか、いった一 しんし一た一が、うちな一ぐちんかい など一る 台本ぬ、うりがる 素晴らしかったよ一」と、

ま一本人がそう言うくらい上出来だったそうです。いい翻訳、うちな一ぐちんかい 名翻訳をしていたそうです。ま一その後も「うみないびうたき(御嶽)」とか、なんとか、いろいろお書きになっていますけど、そういう時代もあったわけですね

で、そのころは、山里先生は、え一、たいへんスマートで、いつも蝶ネクタイをして、背もスラーとした方でしたけれども、奥さんは、また洋裁をなさっておられてね、それで、これまた山里先生の自慢話しかなんか知れませんが、

「え一っ、うちな一んじや一、洋装つし、に一びち あぎたしえ一、わん はじみてい やる はじど一」と。ぬ一がどうん やれ一、なんみの(注 波之上宮)一、すぐ つんまどう やいび一くとう、

「山里ぬ うぬ 永吉とう、が、くんどう に一びち すしが、くんど一 あの一、やまとう、あの一、洋服すがいし、なんみんかい いちゅんど一」と、そう云う噂がもう式の前に流れましてね、なんみんぬ

うぬ すばに ごぎをひいて、な一ふあぬ はんし一た一 みんな来て、みんなこうして待っていたそうです。

「やまとうすがいんでい一しえ一、ちゃんぐと一る むん やがや一」って言うことで、と云う時代であったそうです。ま一、え一あの一、奥さんは洋裁店をね、戦後までなさっておりましたけれども、そういう話もありました。

え一それから、もうちよつといいですか。あの一、大城立裕先生、いま、稲嶺恵一先生、光史先生の話先ほどやったんですけど、え一、その先生方と、あの一、折衝に、誘致の折衝に行く時のことですけれども、うんに一に、

「え一、うちな一んかい、いった一 くみうどういぬ 劇場 つくりよ一 すしがや一、指定 なて一ううしが、なま しぐ ないる くみうどういや、ぶて一(舞台)んかい 立ていらり一しえ一、ちゃつさぐれ一 あが」、

「う一、やいびさ一や一、う一、なまや、ぬぶしてい 30曲がや一さい」と、

「あんし、台本の一 ちゃつさ あが」、

「台本の一、な一、うほ一く あいびーんどー。80ちかく 70あまい あいびーんどー」。

「とー あんせー ちゃー すが」と、

うれー、劇場、オープンする えーかなかい、うれー、いち ないが すら、まだ目途付きませんでしたけど、まさかこんなに早く出来るとは思わなかったですよ。

「とー うりが 落成する えーかなかい、とー あわていーひゃーていーし、しぐ うほ一く 復活そーかんねー ならんどー」と言うことで、

「くれー いいー 話 やっさーやー」と言うことで、文化庁にお願いしましてね、復活予算と言うのを取りました。その時から、もう平成7年ごろからは、やまとうんかい、くんどー、鑑賞、「特別鑑賞会」んでいっやーに、毎年6県を廻って見せて歩いていました。その6県に廻る時に「じゃー、復活を1つ入れなさい」と、復活して、最初のほどは、6県の内、4県は普通の今までのものを、五番をはじめ。「ふかー、たーちぐれー、あんしえー あわていーひゃーていー さんだれー ならんどー」と言うておいて、2演目すぐ復活しました。たいへんな作業ですよ。

本は、あの一、県が出してまとめた台本とか、それをいわゆる上演台本に整理しながら、場下り／場折り(ばおり)をして、で、演技をして、で、演出ですよ。これ、歌はどうする。歌は、ま一、曲目は出てますけど、それをしながら、年に2曲というのはたいへん多難なわざですけど、それでもやりました。どうも、できた時に、

「うちなーむのー うっぴる あるい」って、

もう「やまとうぬ しんかー、何百演目 あんどー」と、

「『歌舞伎だと、歌舞伎でも百曲ぐらい しぐ ないんどー』と、言っているよ」と、まさかそう出来んはずですけどね。うんなくんなぬ あてい、それであの復活をしました。

で、その時に、あの一、行ったり来たりしながらの話ですけども、大城立裕先生が

「えー、歌舞伎も能も、もちろんそうですけども、あの一新作と言うのが出来てるよ」と、

「くみうどういで、ちゃーがら ならにー」と、

「あ、あしえー まし やさ。ちゃー いいぬ むんびけーのー ならんどーさい」。

新作らしきものって云うのを、真境名由康が、ま一、アレンジって言うのか、いまで言え。興味ぐわーになった「女物狂(おんなものぐるい)」をもっと少し詰めるかたちで、音楽、曲をたくさん入れて、踊りをたくさん入れて、「人盗人(ふいとぬすびとう)」というタイトルで、こう再構成したものがそう言ったものであって、

「純然たる 創作んでいしえー ねーびらんどー」と、

「とー あんせー、うんじゅさーに、かちみそーれー」。

「はーやー、わんねー くみうどうい わからんそーてい」と、おっしゃっておられた。

「うっさ 小説 かち、芥川賞。うんじゅが かちーねー、んなさーに 協力さーに すぐ さびーさ」と言ったものの、先生もいつの間にかその気になられて、

「じゃー、オープンが決まると、オープンまでには五番は作ろう」と、はりきっておられた。たしかに作りました。で、一生懸命、曲も、音楽は得意じゃないけど岸本良雄(きしもとよしお)先生お呼びして、「くれー ぬーぬ 曲 ちかいしえー まし やが。くまー ぬー・」。えー、歌は書いておられるから、曲名を書いたり、で、振り付けをどうしよう、と、能鳳先生とかいろんな先生方をお願いして復活をしました。ようするに創作をしました。

で、オープニング。えー、柿落としの時に第1作やったのが、「真珠道(まだまみち)」と云うものが出ました。素晴らしい新作でした。その後、先生は一生懸命やられて、もう20数編書いておられます。当然10編ぐらいは上演されておると思いますけれども、たいへんあの一いい仕事をしておられます。ですから、玉城朝薫の五番に対して、

「自分の、大城の五番って書いて下さいよ」と言ったものが、五番どころか、二十番ぐらい書いておられますからね。すごい方です。まーそれはやっぱりやる側が、われわれが ちゃーっし、あの朝薫の五番ぬんかい ちかぢきー、ちかぢちゆるあたい いい作品にして行くか、うれー なー また、わったー

しくちんでい うむとーいびーん。で、そう言うこともありました。

あんさーに、あぬー、くねーだ、えー、大城立裕しんしーから、くねーだでいちん10月ぬ20、あー、10月2日(注 平成30年)です。10月の2日に あかちち ふえーく、9時半10時ぐるに、電話ぬかかてい ちゃーに、

「えー、瀬底君(ママ、注 真境名先生の旧名)いふえー とぅーいしぬ あしが、

「ぬー やいびーが、

「いったーや、300年記念ぬ、うぬ 事業 立ちあぎてい そーる ふーじー やしが、ちゃー なとーが」と、

「うーうー。あんあんし そーいびーんどー」と、

「あー、しんしーん、協力くださいねー」でい、

「なー、うんじょーなー、失礼 やしが、うとうし やみしえーくとう、なー、くんどー あの一 生誕300年ぬー、いいー しくち そーいびーくとう、くんどー なー わかむんぬ ちゃーんかい、しみやびーさ」と、あんさー、

「くんどー 民間 あらん。県ぬん 主催し、県とう まじゅん さびーくとうやー、くれー なー 国ぬ 行事どう やくとう、くれー 誕生日ぬ 懸賞品でいーしえー、芸能界と一部の方々で、県からは一銭ももらっていませんから、予算は。こんどは県も一緒になってやりますよ」と云うふうな話しをして、したんですけども、その時に。いまもう93歳ですが、それでもまだ書いておられます。

先生が言ったものの中に、ひとつふたつ、あの、言いますとですね。うーんー、300年事業についてですね、

「国立劇場おきなわと300年事業のこの提携、事業との提携、ちゃー なとーが」と、

「うれー なー、あまに いいーぬんかい いっち(注 同じ輪に入り)、一緒にやることなってますよー」と、

「あー、うれー、いいー くとう やさ。あんしえー 劇場 活用さんでー ならんどー」と、

うりから、あの一、

「なまー、劇場ん、1回 土曜日に 上演しーねー、1回きりで、なー 終わり やしがやー、うれー なー いふえー 長く ならんがやー」と、

「うれー、いったー かんげーらんねー ならんどー」と、ぬーがどうん やれー、

「1回発表するのに ちーくんでいーしえー 10日も2週間もやる。やるんでしよう、2、3カ月前から。うっさそーてい、ただ1回なー。わざんでいーしえー、舞台上、何回舞台踏んだか、うりしる 決まいんどー」と、ちーこー いいことではあるけど、

「やくとう うりとう、なー ていーちえー つんじとーる わかむんぬ ちゃーよー」、

芸大を卒業した方がたくさんおります。

「うぬ わらば一たーや、なーだ、この、なんていうんですかねー、生活が安定していない方々、子だちがいるよ」と、

「ちゃーがらし、うぬ 芸能で、その専念しながら生活が出来るようなこと、これ考えてやりゃーいいよ」と、

「1回やるのを1週間 やらわん、1回の手当てを、あの一5日分の手当て、えー、それでだんだんだんだん、うれー これがやる、あれがやると回数を多くして行く必要があるよ」と云うふうなことも、

「うれー、いったー、ゆー かんげーらんでー」と言われました。それから

「そのためにはねー、ちゃくん、んじーが めんしえーる ちゃく うふく なさんでー、ふやさんでー ならんどー」と、

「じの一、ちゃくぬる はらいくとう、ちゃつさ じょーとぅー(上等)どー、じょーとぅーどーしん、ちゃくぬ めんそーらんでーれー、じんや、金は入らんでしよう」と、

「やくとう、ちゃく、お客さんにアピールするような、お客さんが見たくなるような、なー、みなさんの技量もたいへんだけど、みんなでもって支えるような、わったーや あぬー、誘致運動の時は、全県民

からいろんなことやったでしょう」と、「まわったりも」、「あーとー、んちや、やっぱり運動起こさんといかんねー」と、

「なまー、うちなぐち運動、しまくとぅば運動もあるけど、とー、うりとう いいぬ むん やさ。んなさーに 文化を守る運動 さんでーならんどー。あんしーどうん しえー、うぬ わらばーたー しくちん、あの生活も安定するように考えた方がいいよ」と云うふうなことを言われました。あー、しかりだと思えます。うりから、あの一いま、国立劇場の話もしましたけれども、

「国立劇場んでいしえー、うぬ、くみうどうい保存継承、当然。目的はそうだけど、折角あるんだから、うれーもっと利用してね、うちなぬ芸能、どんどんピーアールする劇場と、あるいほどこかの劇場とタイアップして、あっちへ出て行くとか、そういう機会をたくさん作ればね、やる機会も増えるよ」と、

「ここだけじゃなくて」と云うことも言っておられましたですね。

まーいろいろ考えさせられるところありましたけれども、

「もう、ゆー わかいびたん。なー また、むんならーし くいみそーりよー」と言って、延々20分近く話しておられました。まーそう云うふうに、たいへん、あの、気にしておられました。「頑張(がんば)りよー」と、

と言うことは、われわれがもっと頑張らんといかんし、なー、わかむんぬ ちゃーんかい、また、うり継いで欲しい。まー、伝承してもらわないと困るわけですからね、とー やいびーくとう、くりからんくみうどういびけーのー あらん、うちなぬ じーぬー、んなさーに かなさつし くいみそーち、なるだき、ちゅーん あんし につかまでい、ちがきてい めんそーちよーいびーくとう、劇場んかいん、めんそーち くいみそーり。

えー、300年行事、来年(らいねん) やいびーん。またご協力よろしくお願ひします。

(注 来年：2019・平成31・令和元年)

とー あんしえー、はなしえー、くりつし うわらち くいみそーり。にへーでーびたん。

―― 会場より大きな拍手、しばらく鳴り止まず ――

質疑応答 司会 鈴木耕太(県芸大)(以下 鈴木)

鈴木 真境名正憲先生、いっぺー にへーでーびる。えー、もう、最初から最後までしまくとぅばで、えー、たいへんあの一、楽屋では、もうずーとしまくとぅばをはなしーされていいて、えー、舞台に出るまで、「えーやまとうぐち、やまとうぐちよー、やまとうぐち」と言って、えー、いい裏切り方をされていたいて、ほんとありがとうございます。

真境名 ありがとうございます。

鈴木 えー、ちょうど1時間、やっぱり役者ですねー。ちょうど、ちょうど1時間ですね。ありがとうございます。えーとつ、折角ですので、えー、ここから、ちゆくとうば たくとうば、えー、もしよろしければ、我こそはと云う方は、あの一、何かご質問であつたり、今日の感想であつたりと云うのをいただきたいのですが、えー、いかがでしょうか。

―― しばらく間あり ――

鈴木 ちょっとお待ちくださいね。

いま、マイクをお渡ししまーす。出来れば、えー、お名前もいただければと思いますので、よろしくお願ひします。

質問者:高良(男性) にふえーでーびる。高良と申します。えー、はじかさや あしが、あの一、ちゅーはじみてい、つんまううてい、なま(注 生)ぬ くみうどうい 見ました。

真境名 にふえーでーびる。

高良 えーと、テレビううてい んーじゆるくとうん あしが、動きも遅い、ぬー あびとーがら わ

からん。

眞境名 うん、んん

高良 「うれー、かちやーしーや、えいさーやかー うむこー ねーんやー」でい、すぐチャンネル けーいびたん。やしが、ちゅーや はじみてい、なまで、生で、うたさんしん、太鼓、美しい着物の くみうどうい 見て、感心しました。

ていーち、いちばん 感心しちやる くとうぬ あいびたん。

うれー、ぬするが ていー ひちやーに、わらび あっち、ていらまでい、いちゆる 動き、また、あぬー、ちむ ふりてい、なーふあから てらまで あっちよーる 母親の姿、わじか、くぬ 舞台ぬ 狭(せま)さどう やしが、うり あっちゅーる。しがたうてい、うぬ はほうやが、あまくま さがし、ちむやんり そーる しがたが、ちむに へーいびたん。(注 へー 映え/ここではここに強く残ったの意)

眞境名 うん。

高良 見えました、景色が。また、うぬ わじかぬ くぬ 舞台ぬ ぐるつとまわるこの形だけで距離感をあらわす うぬ 技法、わざー、うちなーぬ くみうどういびけーどう、やみせーがやー。うり すばらしい、あー、わじや やっさーんでい、なま、うむいびたん。以上どう やいびーん。

——会場から拍手湧き上がる ——

鈴木 いっぺー にふえーでーびる。

眞境名 なー、にふえーでーびる。なま、なまでいー んーちゃんてい いみしえーたしが、なまぬ 感想、正に くみうどういぬ、ぬーんでい いがやー、基本。うんぬきとーたん。いっぺー にふえーでーびる。やくとう、最初 いやびたん、うちなーぐちん ちかりわる じょーじん ないびーしが、んーでいわる また、あー、くれー、いーむん やっさーんち わかてい ちゃーびーくとう、くりからん 機会ぬ あるかーじ、んーち くいみせーびりよー。ありがとうございます。

鈴木 いっぺー にふえーでーびる。

—— 会場から大きな拍手 ——

あぬ、わんねー あぬ、くみうどうい びんちよー さびーしが、えー、なまぬ、なまぬぐとう、あぬー、ふくらしやる コメント、はじみてい やいびーん。いっぺー いっぺー ちむうっさ そーいびーん。えー、いっぺー にふえーでーびる。

眞境名 はい。

鈴木 ほかにもう一方(ひとかた)ぐらいはどうでしょうかねー。はい。大丈夫ですか。

眞境名 どうぞ遠慮なく申し上げて下さい。ちゅーやよーさい、わざわざ あんしえー、ふいじ ちらん いっちょーらち ちょーいびーん。んかしから いれー、そーぐわちぢんぬやー、そーぐわち あしじゃぬやーんでいち、くんな かつこーでいしえー なかなか ねーびらん。どーでいん…

鈴木 なー ちゅくとうばー、あいびらんがやーさい。

眞境名 いいんろー、さんぐとうっし、むし…

鈴木 あっ、あっー、いちばん前の…おねえさま。

質問者：新里(女性) 先生、どうもありがとうございました。新里と申します。あのーたいへん参考になりました。えー質問があるんですが、あのーわたし、組踊の勉強の中です、あのー、朝薫がこのくみうどういを作った時に、この役者も、まーあのー、踊奉行ですから、この役者もそこに、あのー、いろいろ工面していたと思うんですけども、あのー、例えば子どもの役は、まーその年齢の子どもが、って、老人の役は老人が、そのなんて言うのかしら、役柄に合わせて、だから中城若松(なかぐすくわかまつ)だったら、あのー若い青年がつていうのですね、あのー、年齢に合わせた配役を、あのー、していたと云うのをなんか聞いた覚えがあつてですね、あのー、えー、例えばきょうだと、子どもの役がありますよね。そしたらー若い子はとかです、あのーまー、当時は女性はいなかったと思うんですが、あのー、年齢を合わせたという、あのー、ようなことを聞いたことがあります、それはどうでしょうかということと、それから、来年度300

周年で、やはりあの一、それを思わすようになって言うのかしら、この年齢に合わせた役をですね・・・

眞境名 うん

新里 この子役とかが出てきたら、可愛いかな一なんて思っております。ありがとうございます。

眞境名 はい、はい、ありがとうございます。んかしえー あぬ一、御冠船(うくわんしん)ぬ、うぬ一、台本、伊波本 んじーどうん しえ一、くぬ っちょー 専門(注 司会・鈴木氏のこと)どうやしが、要するに、首里王府でやる わざどう やいびーくとう、やっぱり老人を持ってきたりということがありますんで、だいたいこの役人の中からやって、ひげを付けるとかなんとかして、したら、若衆の方はうんと若い子かな、若いあのあれをやったと思います。

ただ、いまはですね、あの子役は、能でもそうですけど、子役を子どもだちにやらす、うれー多くなりました。と申しますのは、きょうもあの一、「かにまつい」の役なんか、ま一、五、六歳の子がやるとね、やっぱり臨場感は出るし、受けはしますけれども、しかしこれはこれ、演技ですから、十二、三歳のものが七歳をやらなきゃいけない場合もあります。私ども、あの、組踊保存会で研修生のあの公演では、やっぱり30なる子が「ちるまつい」やったりもします。と云うふうに、これあの一、実際にお金をとってちゃんと見せる場合には、どの方がいいのか、ご希望の通りの方がいいのかも知れませんが、ただ、あの一、芝居の場合は、もう昔から適役(てきやく)は、この、このとうない(唱え)を親泊興照にこれさせよう、康忠にはこれさせようと云うふうに作る側が、役を振って書いたと言うことをよく聞いておりますね。はい。ですから、300年の課題から、なんですか・・・

鈴木 はい、300年もあのむかしくとうみたいにあの出来たらいいですね、と言われました。

眞境名 あ一あ、そうですね。300年は、まあですから、これはあの一、首里城でやりましょうということになってはいますが、あの一記念の舞台は。だから、この間こちらから聞いたんですけども、首里城でも仮設のただ舞台じゃなくて、ちゃんと屋根があつて、楽屋があつてということですから、そういうものが果たして出来るのかどうか、ちょっと疑問ではあるんですけども、ま一首里城内でやったようにやりましょうと、ま一復元ではないですんでね、ま一舞台はちゃんと作ってやりたいな一と思っております。それはもう記念ですから。それと記念碑もぜひ作りたいな一と、やはり300年にみなさんと一緒にやったのが、「あ一あれだな一」と云うふうなのが分かるようにね。

あの一この間、え一、首里城ちょっと行きましたらね、きーふいちうじょー(木曳御門)のその角の方に「琉球大学之跡地」石碑がありましたよ。琉球大学らしいもの、あれだけでした。ここにもう4年間ここで頑張りましたけどもね、あとは元の形もなにもないですから、あれがひとつあるだけで、こんどはしかし、そこでやったり、実際にやるわけですから、ただし、あぬ ふーじーやったんだな一と、あの時代の人たちは300年を祝ったんだな一と云う証しだけ、作りたいな一、と思っております。だからご協力ください。ありがとうございます。

新里 はい、先生ありがとうございました。

鈴木 どうもありがとうございました。

―― 会場より拍手 ――

鈴木 えーちょっと、私もくみうどういの数少ない研究者なんで、ちょっとだけ補足ですね。あの一、琉球王国時代、踊奉行が決まると、踊人衆(おどりにんずう)を決めていきます。だいたい1年以上前に発足するんですね。で、子どもたち。先生がおっしゃったみたいに子どもたちは、だいたい、年相応の子たちが出演します。で、「入子躍り」という若衆踊りで、いちばん年齢が若いものの記録を見ると、数え4歳っていうのがいます。数え4歳だから、なまや、3歳ですね。3歳の子どもたちから踊る。で、いちばん上は、やっぱり20代ぐらい迄ですね。あの一、おじ

いさんはおじいさんで役じゃなくて、ちゃんと衣裳に出て来ます。「作り髯を掛ける」と、作った髯を掛けて、えー、やると、で、その子たちが、まー、成長して行くと、その地謡(じうたい)に入っていくというような流れでやっていました。で、しかも大学、国学というのがあったんですけれども、いま、芸大の、えー、側になっていますが、その国学で学んでいる青年たち、学校行かずに、ずーと朝から晩まで、くみうどうい、歌、それから端踊りの稽古をするように、えー、なっていました。

もう、いまはちょっと時代が違うので、やっぱり五六才の子だちを、えー、保育園幼稚園行くなと、えー、めーなち っやーや くみうどうい、えー、しなさいという話しにはちょっといけないので、やっぱり、まあそういった意味では、先生おっしゃったように技術面で、えーやっぱり、もう少し年上の子たちを使ってみると云うのもいいかも知れませんが、私もそれはやっぱり、あの、新里(質問者)さんがおっしゃっているみたいに、年相応の子たちがあの当時みたいにしてやるといいだろうなー、という同じような気持ちを持っています。

と云うことで、どうもすみません。最後、でしゃばりましたが、えー、と云うことで、えー、時間もちょうど、えー、お時間となりました。第4回「ふくらしまくとうば講演会」、えー、本当に、いっぺー いっぺー にへーでーびたん。

もう一度、あの一、眞境名正憲先生に大きな拍手をよろしく願ひいたします。

—— 会場から大きな拍手 ——
(会場 ありがとうございますの声あり)

事務局 これを持ちまして、本日の講演を終了いたします。お帰り際にはお忘れ物、お足元にも気を付けてお帰り下さい。本日のご来場、まことにありがとうございました。

8 事業報告会

8-1 事業報告会概要

今年度の事業報告会は令和2年2月16日、沖縄県立博物館・美術館こどもアトリエにおいて開催した。今年度はこれまでの事業報告会と趣旨を変え、「しまくとぅばで学ぶ琉球芸能～新しいしまくとぅば教育とワークショップ～」というテーマで開催した。事業報告だけでなく、県立芸大で行っているしまくとぅば実践教育授業を体験してもらおう、という企画である。

内容は今年度の「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」で行った事業を鈴木が報告した。それに引き続き、今回は初の試みで「読んで聴いて身につけるしまくとぅば、のすすめ」というテーマで、高良則子教授と仲原稷氏に発表をいただいた。これは、英語多読の事例をしまくとぅば教育に応用できないか、という発案から行ったもので、今後の本事業や琉球語の教育課程において、新たな実践事例の提案となるものである。詳細については、後半をご参照いただきたい。

また、昨年度から一部変更をして行った実践授業を、琉球芸能専攻の高嶺久枝、比嘉いずみ、阿嘉修の3名の教員から報告した。報告では事業風景をビデオで紹介しながらコメントを行い、会場からも理解が良かったと感じられた。

今年度の報告会で初めて行ったワークショップでは、「琉球舞踊実技」と「組踊実技」を行った。「琉球舞踊実技」では宮城幸子先生からしまくとぅばを実際に使用して基本となる「あゆみ」を指導していただいた。実際に授業で使用している「メーホーヤー」や「ヤファアッテングワー」、「サンシンヌチルフミヨー」などの言葉も使用して、受講者の反応も良かった。

「組踊実技」は金城清一先生が唱えを披露し、「執心鐘入」の各役の唱えを受講生が覚えたあと、実際に組踊の座る所作をしながら唱えることを体験した。各受講者も初めて経験する方が多かったが、しまくとぅばで琉球芸能を教えることについては、かなり受け入れられているように感じられた。ただ、今回の事業報告会は参加者が10名程度と、予定の40名に届かなかったことが課題であると感じた。次年度も今年度のようなワークショップを企画し、多くの人に体験していただくと考えている。

8-2 読んで聴いて身につけるしまくとぅば ー英語多読指導からの提案ー

高良 則子（沖縄県立芸術大学全学教育センター）

しまくとぅば実践教育研究会では、ハワイでの訪問調査やハワイ大学研究者との交流をとおして、ハワイ語復興運動やハワイ語イマージョン教育の現状について知見を深めてきた。英語教育に携わる立場から、そのイマージョン教育の効果について、インプットの重要性を掲げる教授法と関連づけながら考えている。報告会では、インプットを重視する英語多読指導を紹介し、多読・多聴を取り入れたしまくとぅば学習の可能性を提案した。

イマージョンという言葉には、水などに「浸す」という意味がある。「英語漬け」という表現を聞くことがあるが、「英語」という目標言語に浸りながら「英語」だけでなく他の教科も学ぶイマージョンプログラムというものがある。ハワイ島ヒロにあるプーナナ・レオという保育園では、ハワイ語によるイマージョン教育が1980年代から行われている。ハワイ語イマージョン教育では、ハワイ語の習得はもちろん、その他の教科およびハワイ先住民族の伝統や文化も含めすべてを目標言語であるハワイ語で学ぶ。しかし、ハワイ語の使用が教育の現場で1世紀近くも禁止されていたということ、またハワイ語が危機言語であるという点において、英語のイマージョンプログラムとは大きく異なり、ハワイでは指導者育成やハワイ語の教材開発をゼロから始めなければならなかった。ハレ・クアモオというハワイ言語センターが、その教材開発の中心となるのであるが、カハカラマというハワイ語の五十音表から、初級・中級・上級者用の絵本や教科書、辞書の作成などを行うことによって、イマージョン教育をサポートしている。このようにプーナナ・レオから始まったイマージョンプログラムは、やがて小中高校、そして大学におけるハワイ語教育へと発展していく。

ハワイ語イマージョン教育では、学習者へのハワイ語の大量のインプットが日常的に可能となる。このインプットという言葉は、言語習得においては重要な用語である。インプットとは、言葉を習得しようとするとき、学習者が聴いたり読んだりして受ける目標言語のすべてを指す。そして、言語習得は、まずインプットがなければ成立しないのである。話したり書いたりというアウトプットができるようになるためには、まず、聞く・読むというインプットが不可欠なのである。クラッシュェンは、Krashen (1985)で「インプット仮説」を提唱している。学習者が、現在の外国語能力を少し超えたレベルのインプット、つまり、理解可能なインプットを十分に受けることによって、自然な言語習得が起きると主張する。これについては、インプットの明確な定義や十分とされる量、インプットとアウトプットとの関係など様々な議論がなされているが、言語習得においてインプットが不可欠であることに異を唱える者はいない。そして、日本の教育現場で、第2言語としての英語を指導して気が付くのは、明らかに英語のインプットが十分ではないという現状である。日本語を介さずに英語を理解できるようになるためには、大量の読む・聞くという活動が必要なのである。

それではどのようにインプットを増やしていくか。クラッシュェンは、学習者の現在の言語レベルが*i*であれば、そこから少しレベルを上げた*i+1*レベルのインプットを学習者が理解することによって習得が進められると主張する。しかし、インプット量の極端に少ない日本人英語学習者に必要かつ効果的なのは、*i-1*、つまり少しレベルを下げた易しめの英文の大量インプットであることが、英語の多読・多聴の実践研究で分かっている (Nishizawa, Yoshioka, Nagaoka, 2018)。

英語多読では、従来のリーディング、つまり精読とは異なり、易しい英文を教材に選ぶことによって、速く大量に読むことが可能になる。大量に読み進めていくと、そのレベルの英文を分析し和訳することなく英語を英語のまま理解していくようになる。そうするとそこから徐々にレベルを上げて、さらに大量に読むというプロセスを続けていく。読みながら単語や文法を学習する精読とは違って、多読は、新しい内容を学ぶというより、自分の力や好みに合った読書を通して学んだ知識を定着させていくトレーニングといっても良い。その過程で、単語や文法習得したり英語の語感が身についたり、アウトプット能力が向上するなど、様々な相乗効果も期待できる。

多読は、その方法や目的を理解したうえで、精読的リーディングと並行して行うべき学習であると考えられる。言語の知識を得るだけでなく、言語のFluency、つまり母語に近い流ちょうさを獲得するためには不可欠な要素である。イマージョン教育においては、授業内や学校内で常に目標言語に接することで、その環境においては、第一言語を学ぶときに近いインプット量を確保されると考えられる。英語教育において、そのようなイマージョンの環境を整備するのは難しいが、インプットを増やす環境を多読や多聴を通して、ある程度確保することは可能である。

英語多読・多聴では、初級者レベルから上級者レベルへと段階的に難易度が上がる教材、つまりリーダー (プラス音声) が様々な出版社から豊富にそろっている。そして、英語の学習歴を問わず、まずは簡単な物語から読み始める。*i-1*というよりも、むしろ*i-5*や*i-10*という教材からスタートしてかまわないのである。易しい英文を読むことは、英文和訳の癖をなくし、英語のまま理解する習慣をつけるためには、重要なステップといえる。そして、ある一定時間、一人あるいはグループで読書する時間を授業中や読書会などで確保することも大切である。最終目標は、英語を読む楽しさ、聞く楽しさを身につけ、英語を話してみる、書いてみるというアウトプット活動へとつなげること。つまり、ネイティブのようにコミュニケーションができるFluency、言語の流ちょうさの獲得を目指すのである。

しまくとぅばの学習においても、辞書、教科書、文法書に加えて、このような多読・多聴のできるプラスアルファの教材があれば、目標言語であるしまくとぅばに浸る経験が可能になると思う。また、多読・多聴は、適切なガイダンスと教材があれば、様々なレベルの学習者が自分のペースで実践可能である。インプットのためのしまくとぅば教材は、読んだり聴いたりできる様々なレベルのものが大量にあったほうが望ましい。そして母語話者の作成した、あるいは母語話者によって監修されたより自然なしまくとぅば教材をできるだけ多くそろえることが重要である。すでに、様々な絵本や図書、CDなど音声付きの本が出版されているはずである。これらを難易度や文章の長さ、内容などを基準にレベル分けをして学習者

に提供することができれば、しまくとぅばの多読・多聴が可能になる。また方言ニュースなどの音声資料も多聴教材として活用できる。

同時に、しまくとぅばの新しい多読・多聴用教材の開発も望まれる。本学ですで行われたしまくとぅばによる実践授業では、特別講師の先生が、組踊「執心鐘入」をうちなーぐちで解説されたことがあるが、ここに本学独自の教材開発の可能性を感じる。今この時にしか入手できない貴重な資料を教材として残すこともこの研究会の今後の課題ではないだろうか。

参考文献

Krashen, S.D. (1985). The Input Hypothesis: Issues and Implications. New York, Longman.
Hitoshi NISHIZAWA, Takayoshi YOSHIOKA, Miharu NAGAOKA (2018) How many words should elementary EFL learners read extensively and from which readability levels, 『豊田工業高等専門学校研究紀要』 第50号, pp1-12.

8-3 読んで聴いて身につける“しまくとぅば”のすすめ — 琉球語の音読教材の活用 —

仲原 穰

(沖縄県立芸術大学附属研究所 共同研究員/
沖縄県立芸術大学 他 非常勤講師)

英語教育で効果をあげてきた「読む」「聴く」という学習スタイルは、「多読」「音読」学習と名付けられ、現在では日本語教育や他の語学教育へ浸透しつつある。これまで、琉球語学習においてリーディングやライティングなどの講座が行われてきたが、講師の用意した教材を受講生が音読したり、音声を聞き取って書き取ったりするものであった。福本(2004)によれば「どの読み物を読むかは、教師が強制するのではなく、学習者自らが決める(p.49)」とある。このように「多読」「音読」の学習は「学習者主体の学習法」であり、本来の「音読学習」とは学習者が自由にレベル調整を行えるものであるが、管見では琉球語学習の教材のなかに、学習者自身がレベルに応じて選択できるよう作られたものは見当たらない。そこで報告では、まず、琉球列島の各方言の「音読教材」に適した教材として「民話」があることを示した。つづいて、民話資料にも音読教材に適したものと適さない教材があること、利用の際に気をつけることがあることを述べた。さらに民話資料をレベル分けすることにより、多読や音読の教材として有効に活用しうることを示した。

民話には昔話、伝説、世間話があり、地域に根ざした話も多くでてくる。そのため、学習者は言語だけでなく、地域の歴史・風習・文化も合わせて学ぶことができるメリットがある。しかし、民話資料の利用に際して注意すべき点もある。今回、報告のために1ヶ月程度で集めることのできた民話資料は合計60点ほどと限られているが、これらのなかで最も多かったのが「しまくとぅば」と日本語とを並べて示す《併記》であった。また、日本語の文章のなかに「しまくとぅば」を混ぜ、注や日本語訳を付した《混在》も多くみられた。これらは、今回報告する音読資料としては適していないものである。多読学習のポイントの一つに途中で分からない単語があっても辞書を引かずに分からない箇所を読み飛ばして最後まで読み進めるというものがある。前後の単語や文脈の力を借りて分からない単語を予測したり、他の音読教材を多く読んだりすることによって分からなかった単語を自然に理解できるようになるのである。よって、民話のなかで音読教材に適しているのは日本語の《併記》や《混在》のない資料である。報告では01～05、08～15の合計13点の民話資料を具体例として紹介した。

良い民話資料にも、「漢字仮名交じり資料」と「仮名資料」(平仮名・片仮名)があり、今回示した具体例はすべて漢字仮名交じりのものであった。「仮名資料」に比べて圧倒的に分量が多いのが「漢字仮名交じり資料」である。ただし、漢字に振られたルビの《完全記載》と《部分記載》があるので、できれば《完全記載》が望ましい。ルビのなかには同じ漢字に異なるルビを付すことも多いからである。入門期には「漢字仮名交じり資料」の方が取り掛かりやすいだろう。なぜなら、単語の切れ目が分かりやすく、

「しまくとぅば」をほとんど理解できない人でも内容を理解しやすく、楽しみながら続けられるからである。ただ、出版物としてはあまり多くはないが、音声付きの民話資料ならイントネーションやプロミネンスの助けもあるため、入門期でも「仮名資料」を取り入れてもよいだろう。むしろ、中級以上の実力があるのであれば「仮名資料」の利用を薦めたい。漢字仮名交じり資料は、漢字の部分が辞書引きに近い役目を果たしてしまうからである。

また、これは民話資料に限らないが、国際音声記号や音韻記号などのローマ字表記を用いず、読者が読みやすい仮名表記を用いているため、同じ発音の表記、たとえば/PN/の発音に様々な表記法がある（「稲」を意味する語を「つんに」「んに」「うんに」等と表記）。このような文字の不正確さを補うためにもCDやDVDなどで音声を付したものは、家庭で琉球語を学べなくなっている現代の若年層の精確な学びのためにも今後は必須のものとなっていくことであろう。今回の報告会で沖縄語の音声付き教材の紹介もおこなった。

なお、これらの良い民話資料を音読教材として利用するとしても、英語の多読用の教材に近づけて用いるためには、レベルを分けて使用する必要がある。今回は試みとして、沖縄語の民話や沖縄語の音読資料を5つのレベルに分類してみた。表1はそのレベル分けの基準（内容・挿画、分量）を沖縄語の民話資料を例にまとめたものである。

表1. 音読教材のレベル分けの基準—沖縄語を例として—

レベル	内容・挿画	分量の目安	具体例 ※音声付きは【】で示す。
1 入門	絵本。絵が多く単語・句中心の教材なら分量にこだわることはない	1～4ページ ※文章がほとんどない音声資料が該当。	○金城春子[文]磯浜主佳[絵](2006)『しまくとぅばであそぼう』(なんよう文庫) 【DVD 映像】 ○松田幸子[作]うえずめぐみ[絵](2014)『エイサーだいこでちむどんどん』(ジグゼコミュニケーションズ)
2 初級	絵本。挿画が多く、分量が少ないもの。初級では挿画の有無より文章の短さを優先。単文の理解が進む。	5～9ページ ※映像は短ければ初級でも利用に適する。	○村山友江・知花孝子[編執](2017)『ゆんたんざ むんがたい(その4)』(読谷村教育委員会)【CD 音声】 ○宮里朝光・小那覇全人・崎濱秀平・宮良信詳[編](2006)『沖縄ぬ暮らしと昔話』(沖縄語普及協議会)
3 中級	中編の文章で挿画の有無にはこだわらない。単文はもちろん複文もある程度理解できる力を身につける。	10～15ページ ※映像資料のうち5分以上のものが該当する。	○しまくとぅばを楽しむ会(2002)『伊祖ぬ若太陽—英祖王ものがたり—』(私家版)【CD 音声】 ○比嘉清[著](1999)「蠅とう雀ぐわー」吉屋松金『ふる里の民話』(わらべ書房)【CD 音声】
4 上級	長編。挿画なしが多い。長くても楽しめる文がよい。日常会話を理解できる能力を身につける。	16～29ページ ※音声付きの教材はかなり少ない。	○比嘉清[文][朗読](2008)『うちなあ昔話シリーズ タルガニとうマナビタル』(南謡出版)【CD 音声】
5 最上級	大長編。さまざまな表現を味わうことができ、母語話者独特の表現を学ぶことができる。	30ページ以上 ※	○宜志政信[訳](2001)『吾んねー猫どうやる』(新報出版) ○宜志政信[著](2013)『吾んねー猫どうやる 完結編』(新星出版)

沖縄語は他の琉球語に比べて数多くの音読教材があり、これらを上記のように内容や分類でレベル分けすることで、既存の教材だけでも習熟度に応じた音読教材の選択が可能な状態である。琉球語全体を見渡せば、国頭語の与論島方言のように、すでに複数の教材を組み合わせて学べる学習教材が存在する集落もある。なお、消滅の危機にある言語や少数言語の維持・保存のために必要なものとして①「辞書」、②「文法書」、③「テキスト」(読み物)が3本柱であることはよく知られている。この3つの中なかで、最も容易に作成できるのが③「テキスト」(読み物)の作成である。今回採り上げた音読教材は、その多くが③の「テキスト」に該当する。自分の生まれ育った場所や愛着のある場所に③の「テキスト」がない場合は、協力してくれる高年層の方々と手を取り合っ一緒に「音読教材」を作るべきである。次第に話者が減少しているとはいえ、現在なら音声教材の作成に協力してくれる話者を探し出すことができる。10年後だとこの作業もかなり難しいものになってしまうことであろう。高齢者の方々と協力し、内容や分量の異なる音声教材を作成し、さらに数種類の教材を作ることが出来れば、楽しみながら「しまくとぅば」を憶える「多読学習」の学びが発展することであろう。

参考文献

岩瀬博・松浪久子・富里康子・長浜洋子[編著](1983)『南島昔話叢書10 与那国島の昔話』(同朋社出版) 福本亜希(2004)「日本語教育における多読の試み」大阪外国語大学研究留学生別科[編]『日本語・日本文化』30号, pp41-59

しまくとぅばで学ぶ 琉球芸能

～新しいしまくとぅば教育と
ワークショップ～

沖縄県立芸術大学では令和元年度「沖縄県立芸術大学しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」として、令和元年度前期・後期（平成31年4月～令和2年1月）、琉球芸能専攻の実技教育（舞踊・組踊）において「しまくとぅば」を活用した実践授業を行ってきました。その事業報告と「しまくとぅば」の学び方の提案を行います。



－プログラム－

【総合司会：麻生 伸一（沖縄県立芸術大学 全学教育センター 准教授）】

- 13:30～14:00 **事業概要報告**：鈴木 耕太（沖縄県立芸術大学 附属研究所 専任講師）
- 14:00～14:30 **「読んで聴いて身につけるしまくとぅば」のすすめ**
高良 則子（沖縄県立芸術大学 全学教育センター 教授）
仲原 穰（沖縄県立芸術大学 非常勤講師）
- 14:30～15:00 **授業実践報告**
①**舞踊実技**：比嘉 いずみ（沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 准教授）
②**舞踊実技**：高嶺 久枝（沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 教授）
③**組踊実技**：阿嘉 修（沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 准教授）
- 15:10～15:40 **実践授業ワークショップ①** —実践授業を体験しよう—
琉球舞踊実技 講師：比嘉 いずみ
特別講師：宮城 幸子（真踊流佳幸の会会長・重要無形文化財「琉球舞踊」保持者）
- 15:50～16:20 **実践授業ワークショップ②** —実践授業を体験しよう—
組踊実技 講師：阿嘉 修
特別講師：金城 清一（玉城流翠扇会家元・重要無形文化財「組踊」保持者）

※ワークショップに参加される方は、靴下または足袋のご着用をお願いします。

日時：令和2年2月16日(日) 13時～16時30分（先着40名）
場所：沖縄県立博物館・美術館（1階 県民アトリエ・こどもアトリエ室）
主催：沖縄県立芸術大学 附属研究所

お問い合わせ：沖縄県立芸術大学附属研究所
〒903-0815 那覇市首里金城町3-6 TEL：098-882-5615（担当：大城）

8-4 アンケート結果

実施日時：令和2年2月16日

対象：一般市民

I. 来場者数とアンケート回収枚数

来場者18人、うちアンケート回収枚数11枚(回収率61%)

II. 質問と結果

1. あなたについて該当するところを○で囲んでください。

①年齢②性別③地域④これまでに本事業のイベントに来場したことはありますか

質問1-①

年齢	人	割合
30	2	20%
50	2	20%
60	5	50%
無回答	1	10%
計	10	100%

質問1-②

性別	人	%
男	3	27%
女	6	55%
無回答	2	18%
計	11	100%

質問1-③

地域	人	%
那覇市	4	36%
南部	2	18%
中部	2	18%
無回答	3	27%
計	11	100%

質問1-④

参加経験	人	%
ある	2	18%
ない	7	64%
無回答	2	18%
計	11	100%

2. このイベントをどのようにして知りましたか。(複数回答可)

媒体	人	%
新聞	2	18%
チラシ	3	27%
友人・知人	3	27%
ホームページ	1	9%
その他	2	18%

3. 今回のイベントについて該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 本日の報告の内容はいかがでしたか。
- (2) 特に興味深いと感じたのはどの報告でしたか。(複数回答可)
- (3) 報告会の長さはいかがでしたか。

質問3- (1)

内容について	人	%
とても興味がある	5	45%
興味がある	4	36%
無回答	2	18%
計	11	100%

質問3- (2)

回答	人	%
読んで聴いて身に付けるしまくとうばのすすめ	4	19%
授業実践報告	4	19%
実践授業ワークショップ(舞踊)	5	24%
実践授業ワークショップ(組踊)	5	24%
その他	3	14%

質問3- (3)

11人全員が「ちょうどいい」と回答

4. 本学におけるしまくとうば実践授業について

- (1) どのようにお考えでしょうか。→ 11人全員が「必要である」と回答。
- (2) 今回の報告会および本事業についてのご意見やご感想、次回への要望
 - ・実践させながらのしまくとうばの学習は非常に興味深かったです。
 - ・組踊、琉舞、しまくとうばがさらに発展していくことを願うものとして、芸大の取り組み、改めて素晴らしいと思いました。
 - ・ほんとうはゆたかな沖縄文化をしらせてほしい。
 - ・大変勉強になりました。
 - ・ワークショップはとても勉強になるので、引きつづきやってもらいたい。

9 資料（当事業の新聞掲載、令和元年度のしまくとぅば事業関連資料）

9-1 新聞掲載記事



①2019年7月3日付
琉球新報9面



②2019年7月24日付
琉球新報10面



③2019年8月22日付
琉球新報17面

④2019年9月3日付
琉球新報15面



⑤2019年10月2日付
琉球新報17面



⑥2019年10月10日付
琉球新報10面



教育の提言
しまくとぅばの大学へ
しまくとぅばの県内大

「琉球語」に活用科目を
学生が深く学べる環境に

次代へ 継ぐ



⑦2019年11月7日付
琉球新報16面

しまくとぅばで人生語る
沖縄芝居・平良さんが講演

講演者 平良 山一

講演内容 講演者 平良 山一は、自身の人生を振り返り、しまくとぅばの重要性を説き、学生に「しまくとぅばを学ぶことで、自分自身の人生を豊かにすることができる」と語り、学生に大きな励みを与えた。

⑧2019年11月9日付
琉球新報24面

沖縄文化と言葉意識した教育
高瀬 久枝

次代へ 継ぐ

学生の学習意欲向上
琉舞指導にも効果的

講演者 高瀬 久枝

講演内容 講演者 高瀬 久枝は、沖縄文化と言葉意識した教育の重要性を説き、学生に「しまくとぅばを学ぶことで、自分自身の文化意識を高め、学習意欲を向上させることができる」と語り、学生に大きな励みを与えた。

⑩2019年12月24日付
琉球新報10面

⑨2019年11月17日付
宮古新報1面

平良進「しまくとぅば講演
役者人生振り返り逸話披露

講演者 平良 山一

講演内容 講演者 平良 山一は、自身の役者人生を振り返り、しまくとぅばの重要性を説き、学生に「しまくとぅばを学ぶことで、自分自身の人生を豊かにすることができる」と語り、学生に大きな励みを与えた。

ハレ・クアモオに学ぶ
高良 剛子

ハワイ語復興に重要な役割
教材開発、教員育成の拠点

次代へ 継ぐ

⑪2020年2月21日付
琉球新報21面

しまくとぅば実践を報告
県立芸大 琉舞、組踊で講座も

2020年度県立芸大
しまくとぅば実践報告会

特別講師の宮城幸子さん(右から6人目)のすり足や学次次舞踊生ら16日、那覇市のおもまちの県立博物館・美術館

ワークショップが16日、那覇市のおもまちの県立博物館・美術館で開催された。琉球芸能

⑫2020年2月26日付
琉球新報22面

9-2 令和元年度 しまくとぅば実践教育 授業録画日一覧（括弧内の数字は回数）

【令和元年度・前期】授業実施回数（舞踊：比嘉 15 回・舞踊：高嶺 10 回・組踊 22 回）

- 4 月 8 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (1)
- 4 月 16 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (2)
- 4 月 22 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (3)
- 5 月 6 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (4)
- 5 月 13 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (5)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (1)
- 5 月 17 日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(1)
- 5 月 20 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (6)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (2)
- 5 月 22 日 組踊実技Ⅴ (2)・組踊実技Ⅶ (3)
- 5 月 24 日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(4)
- 5 月 27 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (7)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (3)
- 5 月 29 日 組踊実技Ⅴ (5)・組踊実技Ⅶ (6)
- 5 月 31 日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(7)
- 6 月 3 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (8)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (4)
- 6 月 5 日 組踊実技Ⅴ (8)・組踊実技Ⅶ (9)
- 6 月 7 日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(10)
- 6 月 10 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (9)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (5)
- 6 月 14 日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(11)
- 6 月 17 日 舞踊実技Ⅰ：高嶺 (6)
- 6 月 19 日 組踊実技Ⅴ (12)
- 6 月 24 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (10)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (7)
- 6 月 26 日 組踊実技Ⅴ (13)・組踊実技Ⅶ (14)
- 6 月 28 日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(15)
- 7 月 1 日 舞踊実技Ⅰ：高嶺 (8)
- 7 月 3 日 組踊実技Ⅴ (16)・組踊実技Ⅶ (17)・舞踊実技Ⅰ：比嘉 (11)
- 7 月 8 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (12)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (9)
- 7 月 10 日 組踊実技Ⅴ (18)・組踊実技Ⅶ (19)
- 7 月 17 日 組踊実技 (20)・組踊実技Ⅶ (21)・舞踊実技Ⅰ：比嘉 (13)
- 7 月 19 日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(22)
- 7 月 22 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (14)
- 7 月 29 日 舞踊実技Ⅰ：比嘉 (15)・舞踊実技Ⅰ：高嶺 (10)

【令和元年度・後期】授業実施回数（舞踊：比嘉 14 回・組踊 8 回）

- 10月21日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (1)
- 10月28日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (2)
- 11月6日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (3)
- 11月18日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (4)
- 11月25日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (5)
- 12月2日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (6)
- 12月6日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (7)・琉球舞踊組踊研究Ⅰ（組）(1)
- 12月9日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (8)
- 12月11日 組踊実技Ⅵ：(2)
- 12月18日 組踊実技Ⅵ：(3)
- 12月23日 舞踊実技Ⅱ：比嘉 (9)

令和2年

- 1月6日 舞踊実技Ⅱ：比嘉(10)
- 1月8日 舞踊実技Ⅱ：比嘉(11)・組踊実技Ⅵ(4)
- 1月10日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ(組)(5)
- 1月15日 組踊実技Ⅵ(6)
- 1月17日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ(組)(7)
- 1月20日 舞踊実技Ⅱ：比嘉(12)
- 1月24日 琉球舞踊組踊研究Ⅰ(組)(8)
- 1月27日 舞踊実技Ⅱ：比嘉(13)
- 2月6日 舞踊実技Ⅱ：比嘉(14)

令和元年度しまくとぅば実践教育プログラム開発事業
事業報告書

令和2年3月31日

編 集 鈴木 耕太・麻生 伸一・大城 円
発 行 沖縄県立芸術大学附属研究所
〒903-0815 沖縄県首里金城町3-6
電話098-882-5040
事業委託者 琉球新報社 担当 譜久元、池宮